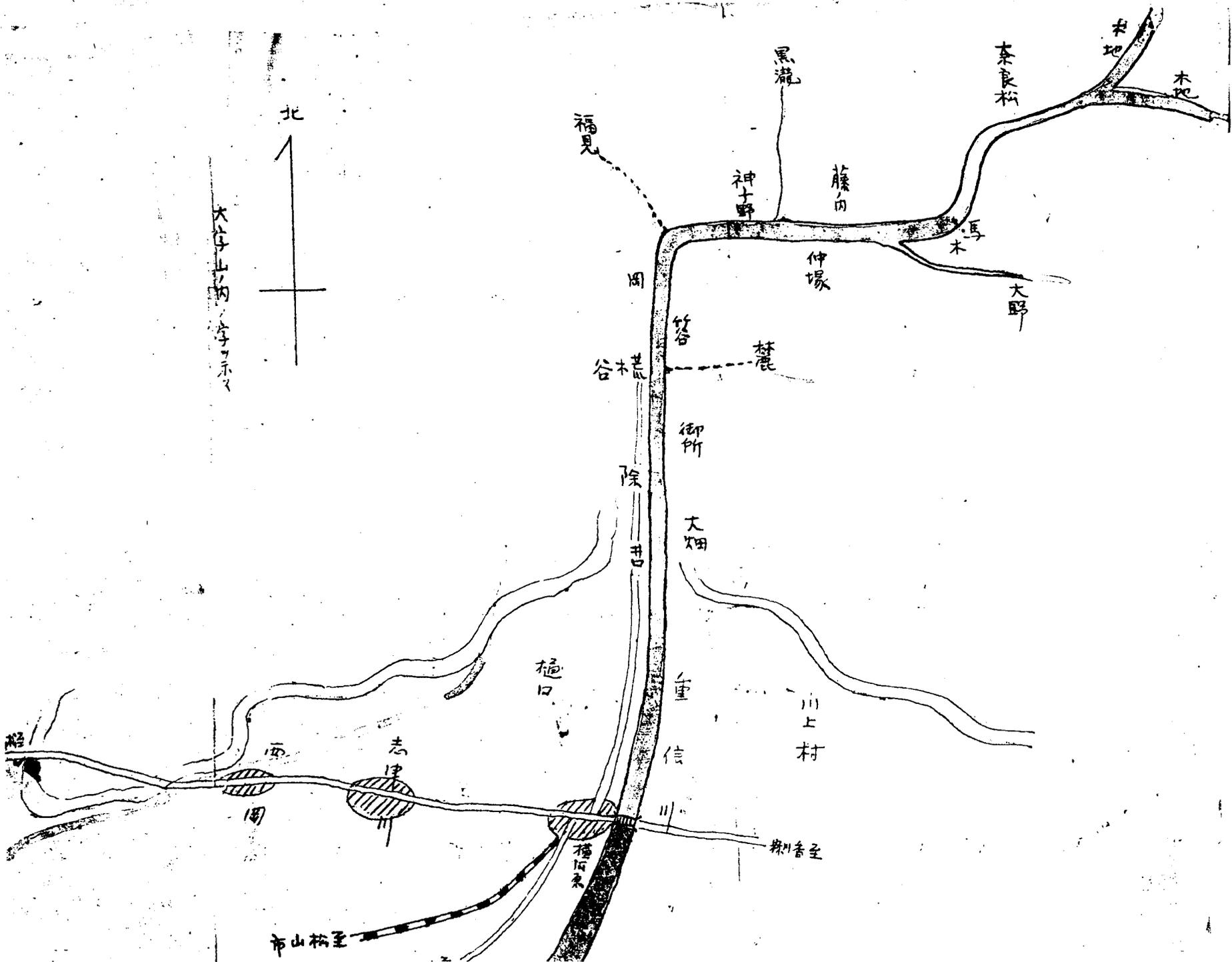


自治制五十年紀念

北  
吉  
井  
村  
誌





大山山内 字ノ示

# 目録

## 総論

### 第一節 村勢

- 一、位置
- 二、地勢
- 三、面積
- 四、人口戸数
- 五、各種議員有権者

### 第二節 沿革

- 一、久米郡吉井郷ノ沿革
- 二、南、南、北吉井村設置迄ノ沿革

## 各論

### 第一章 行政

#### 第一節 役場

- 一、自治體ノ沿革

- 二、役場沿革
- 三、歷代村長并助役
- 四、役場吏員、職務担任
- 五、村會議員并區長

### 第二節 警察

- 一、歷代駐在巡查
- 二、犯罪
- 三、消防
- 一、沿革
- 二、組織
- 三、事業成績
- 四、歷代組頭
- 五、災害件数

### 第三節 財政

- 一、村基本財産
- 二、稅務
- 一、國縣稅
- 二、村稅
- 三、豫算

## 第二章教育

- 一、學校沿革
- 二、歷代校長
- 三、現在職員
- 四、學校現勢
  - 一、北吉井校
  - 二、山之内校
  - 三、北吉井青年學校
  - 四、山之内青年學校
  - 五、學校豫算
  - 六、學校建築
  - 七、學務委員

## 第三章兵事

- 一、兵事支會
- 二、現役軍人
- 三、在鄉軍人會
  - 一、沿革
  - 二、分會ノ行事
  - 三、基本財産
  - 四、組織

- 四、軍友會
- 五、軍事後援會
- 六、出征事項
  - 一、出征者數
  - 二、戰病死者
  - 三、日支事變應召者
- 七、防空

#### 第四章 產業

##### 第一節 農事

- 一、農業
  - 一、米
  - 二、麥
  - 三、特種農產物
- 二、林業
  - 一、林野面積
  - 二、林野產物
  - 三、山林苗木
  - 四、果樹
- 五、蠶業
- 六、鷄

- 七、牛馬頭數
- 八、農家戶數

## 第二節信用組合

- 一、沿革
- 二、役員及職員
- 三、專業成績

## 第三節農業倉庫

## 第四節木炭組合

## 第五節村內職業別

## 第五章水利

- 一、菖蒲五ヶ村井堰沿革
- 二、五ヶ村井堰水取定
- 三、樋口外二部落普通水利組合
- 四、水利豫算并決算
- 五、溜池井泉
- 六、水利委員并補助

## 第六章 衛生

- 一、村医
- 二、傳染病、避病舍
- 三、產婆、出生、死亡
- 四、壯丁檢查成績

## 第七章 郵便

- 一、沿革
- 二、事業開始年次並種類
- 三、事業成績
- 四、里程
- 五、雜項

## 第八章 交通

- 一、伊豫鐵道
- 二、周桑自動車
- 三、道路、橋梁

## 第九章 砂防工事

## 第十章 神社、佛閣、宗教神道

雜章

結  
論

- 一、 村内各種團體
- 二、 村治功績者
- 三、 旧蹟
- 四、 岩伽羅城ヲ中心トシタル本村ノ史話
- 五、 拾遺

以上

# 総論

## 第一節 村勢

### 一、位置

温泉郡ノ東部ニ位シ、重信川ノ幹流山之内川ハ本村大字山之内ヨリ発シテ南流シ、川上村ト境ス。本村ノ四隣境ヲ接スル村名ハ左記ノ通りデアル。

東 川上村

東北 周桑郡櫻樹村、中川村、庄内村、

北 越智郡鈍川村、龍岡村

西北 湯山村

西 小野村

南 南吉井村

### 一、地勢

带状ニ西南ヨリ東北ニ延ビテ其距離約五里半ニ及ブ。全村ノ約三分ノ二ハ山岳地帯デアツテ北部ヨリ東北部ニ連互シ、大字山之内ハ山岳ニテ圍繞セラレ、人煙稀薄テ耕地又少イ状態デアルガ、本村ノ南、西ノ地方ハ重信川ノ灌漑區域ノ平野デアツテ田野開ケ地味又肥沃デアル。

山岳地方ハ高繩山脈ニ屬シ一部ハ東ニ延ビテ石鉄山脈ニ連ル、東北隅ニ東三方ケ森アリ本村第一ノ高山ニシテ標高約一千米突デアル。中三方ケ森、西三方ケ森福見山ハ夫々西方ニ聳立シテ居ル。

山之内川ハ重信川ノ本流ニシテ、東三方ケ森ニ源ヲ発シテ南流シ川上村吉久ニ於テ表川（水源三内村大字河ノ

内)ニ合シテ西流シ、垣生村大字西垣生ニ至リテ海ニ入ル全長十里一丁ニシテ縣下第二ノ大川デアル。  
 内川(日吉川)ハ大字樋口岩柄山ニ源ヲ發シ日吉谷ヲ貫流シ石井村大字古川ニテ重信川ニ合ス全長五里拾丁  
 デアル共ニ古來灌漑用川トシテ重視サレテ居ル。

二、面積

總面積八千六百四拾二町七反八畝十四步ニシテ約三方里ニ當ル之ヲ細説スレバ左ノ如シ。

官有地 二町一段七步  
 免租地 三千六百九十六町四反七畝十七步  
 有租地

内訳左ノ如シ

大字	宅地	田	畑	山林	原野
山之内	一九、六九九七坪	五八三、三一二反	四五二、〇〇一反	四九三、七二五反	七〇、二二二反
樋口	二〇、八三七三三	六二八、五〇五	一三二、八〇二	二九〇、〇〇八	一六、八〇四
志津川	二五、四七五三七	一〇四九、九三八	二二二、五三四	一一〇三、五三六	一一〇、七三三
西岡	一三、八四二一四	五七九、七〇三	二〇〇、八三九	四〇六、八〇六	一一、七一三
合計	七七、二二三、八〇	二八二一、五一九	九九五、二二六	四九〇四、一三五	二〇九、五二一

東西凡五里半

南北凡二里

最長幅員五里半

最短幅員二十丁

四、人口戸数

昭和十三年三月現在

北吉井村本籍人口				
男	二、七四三	女	二、五九四	計
				五三三七

北吉井村現住人口				
昭和十年国勢調査二依ル				
大字	男	女	計	
山之内	四七九	四五〇	九二九	
樋口	三一	二九九	六一〇	
志津川	四二〇	四二一	八四一	
西岡	二六〇	二五八	五一八	
横河原	四八一	四六九	九五〇	
計	一、九五二	一、八九七	三、八四八	

北吉井村現住戸数				
昭和十年国勢調査二依ル				
山之内	樋口	志津川	西岡	横河原
一八六	一六〇	一九〇	一一二	二〇三
				計
				九五二

五、各種議員有権者数

衆議院議員

八二三

昭和十二年九月十五日現在

村会議員

八〇六

同

## 第二節 沿革

## 一、久米郡吉井郷ノ沿革

國造本紀ニ久味國造ナル名を存ス即チ久味ハ久米ニシテ来目等トモ書ス、久味國造ノ統治區域ハ石井村字居相ヲ中心トシ久米村附近一帶ノ地デアツテ古クハ久味國ト稱シテ居タ（影浦氏ノ伊豫史精義參照）

清寧天皇ノ御世久味國ノ部屬ナル来目部ノ小楯ナル者ガ播磨ノ国司ニ任ゼラレテ彼ノ国ニ在リシ時、顕宗仁賢ノ二帝ガ未ダ皇子ナリシ時、供奉シテ都ニ上リタル事、日本書紀ニ記サレテ居ル。後二帝相續テ御位ニ即カセラレタルヲ以テ小楯ノ誠忠ヲ嘉賞アラセラレ其聲望、近畿ニ高クナツタ。任了ツテ歸國スルヤ小楯ハ鷹ノ子ノ館ニ住シ墓ヲ播磨塚ニ設ケタ、和銅年中諸國ニ郡境ヲ定メラレシ時小楯ノ居住セシ由縁ニ依テ此ノ地方ニ久米郡ノ名ヲ附サレタト云フ事旧跡俗談播磨塚ノ条ニ見エテ居ル（温故録ニアリ）国郡ノ制度ハ大化ノ改新ノ時設ケラレタルモノデアアルガ其制度ノ實施サルルニ至リタルハ大宝令ノ制定ヲ見テカラデアアル、元正天皇ノ養老二年ニ養老令ガ撰定サレタガ世ニハ普通ニ養老令ヲ以テ大宝令ト稱スルノデアアル。大宝令ニ依ルト民戸五十ヲ以テ單位トシ里ヲ置キ、里二十ヲ以テ一郡トナシタ民戸五十以上ノモノハ端數ヲ以テ一里ヲ置イタガ十戸ニ滿タザル時ハ其儘里ニ隸屬セシメテ之ヲ餘戸トナシタ。神龜二年ニ至リ里ヲ改メテ郷ト稱シタ、之ヨリ後ハ郷ハ郡ニテ統ベ郡ハ國ニテ統ブルノデアアル、久米郡内ノ郷ハ天山郷、石井郷、吉井郷、餘戸郷、神戸郷ノ五郷ヲ包含シテ居タ、其後人口ノ増殖ニツレ民戸集密ノ形態ニヨリ色々郷ヲ改廢シテ和名抄ニハ神戸郷ヲ廢シ、ズツト時代ガ進ンデ元祿十三年伊豫国村高帳ニ依レバ久米郡ハ吉井、石井ノ二郷トナツテ居ル。

大字山之内ハ餘戸郷デアツタ事ハ伊豫旧蹟鈔ニ福見寺ノ事ヲ書シテ豫州久米郡餘戸郷山之内神護儀飛山米田院福見寺トアルニテ明ラカデアアル。播磨塚ヲ中心ニシテ西ハ神戸郷デアアル。此ノ餘戸ト神戸二郷ノ中間ガ分レテ後ニ吉井郷ガ出来タノデアアル。吉井郷ハ北ニ餘戸川、樋口、志津川、西岡、南ニ田窪、見奈良、牛渕ノ各村ガ出来

テ重信川を以テ南ノ境界トナシテ居ル。横川ノ名ハ餘戸川ヨリ出タルモノデハ、アルマイカ、筆者ハ此處ニ至ツテ左様ナ想像モ亦可能デアルト思フノデアル。右記録中ヨリ発見サレタモノデアルカラ、ココニ同記録ヲ添付シテ其出所ヲ明示シテ置ク。

伊豫旧蹟鈔

福見寺

餘戸郷山之内村

真言宗倭飛山ト号本尊水月觀世音安置

寺ノ縁起奥書ニ曰文明八年丙申歲次林鐘吉辰當山大禰那豫州大守道後屋形河野正嫡六十に代豫州総領職兼讚備藝防諸島押領主從四位行散位備後守越智宿稱通綱七世ノ嫡裔豫州久米郡吉井郷岩迦良城外十八所城主河野通光依命書畢、豫州久米郡餘戸郷山之内神護倭飛山米田院現住阿闍梨法印謹誌之

久米郡神戶郷徳威邑野田井保并ニ餘戸郷黒滝山之内保分名并貢米高分割記

此ノ地ハ往古ヨリ河野浮孔屋形徳威王<sup>ノ</sup>殿ノ御領ニシテ平坦ノ地多ク中央ニ太古ノ訓見国ノ首府廳王<sup>ノ</sup>跡タル跡ノ平野ニ成有其ノ西部ニ蓮花溪ト呼古迦藍有是徳威上津中津下津三社及古矢野神山、伊豫津彦媛ノ二社黒瀧竜神古宮、來名戸祖等の神護寺ニシテ推古帝ノ御宇四年八月厩戸皇子勅ヲ奉テ高麗ノ僧惠慈大法師ヲ伴ヒ葛城大臣等供奉シテ行啓給ヒ此ノ地ニ大御堂ヲ創建佛法ヲ弘通ノ道場ヲ興サレ是伊豫国寺院草創ノ抑ナリ次ニ天徳山弥勤寺、石湯山安養寺、竜雲寺、大山寺、谷上山宝珠寺、大津山薬師寺、応尼山光琳寺、石土山保安寺等ノ造立アリ此ノ王<sup>ノ</sup>跡ノ地ハ奥ニ岩迦羅衣懸田井山ノ諸城ヲ構工要害嚴重ノ処ナルヲ以テ上古諸帝王行宮ノ古蹟ニシテ萬葉和歌集ノ就田津此ノ岡ノ南流由流宜川徳威下津宮ノ前ノ舟場由流宜橋ノ所ト云此ノ地ニハ古矢野神社アリ其入口ヲ古矢野谷ト呼俗ニ今小野谷ト書以上皆名勝ノ部ニ見ル此ノ谷ノ流川以西ヲ古矢野郷ト呼ヒ古矢野邑是ナリ今平井谷名狩矢名<sup>ノ</sup>中名瀬里北名高野戸名等二分ル又東ニ餘戸郷有、今ハ神戶餘戸ノ間分レテ吉井郷（古由井里ニ作ル）ヲ分設<sup>ル</sup>餘戸川樋之口名ト志津川名等ヲ分ル、又南ニハ由井郷ヲ分テ田窪名見奈良原名牛渕名（浮洲トモ云シ由）是皆浮名河ヲ南境トス又白石名ハ今ノ中野ヲ呼高井邑以東ハ皆古ノ神戶郷ナリシ

ガ高井南名ノ地ハ今浮穴郷二分ル又日瀬里南名御堂路名ハ神戸郷内ニ依リ又野田井南名ノ地ヲ野田名ト故ノ野田以半北名ノ地ヲ梅本名ト改岡ノ東、郷名ヲ西之岡名ト改メ御堂路、日瀬里南北名ト改メ是皆神戸郷古ノ徳威邑ノ部ナリ又御堂路名ト呼レハ徳威王楯ノ蓮花溪ニ聖徳太子御堂ヲ建給フ時此ノ地ヲ通行路トス云々以下畧之

## 二、南北吉井村設置迄ノ沿革

大字山之内ガ餘戸郷ナルコトハ前述シタガ餘戸郷ナルモノガ已ニ民戸定數ニ滿ザル地方ニ附サレタル郷名ナルコトハ明ラカデアル。影浦氏ノ伊豫史精義ニ依レバ餘戸郷ヲ今ノ伊豫郡余土村ノ邊ナラント云ツテ居ル。餘戸ト余土ト音便相通ズル所ヨリ想像ヲ起サレタモノト思フガ、余戸村地方モ石手川重信川ノ末流地方デアルガ故ニ治水工事ノ行ハレナカツタ往古ニ於テハ定メシ民戸稀薄ノ土地デアツタト想像セラレ。神戸郷ガ神社領トシテ附サレタ數戸ヲマトメテ所在ニ散在シテ居タ如ク、餘戸モ所在ニアリタルモノトモ考ハラレルノデアル。世態ノ變遷ト人口増殖ノ後ニハ兩郷トモ改廢離合セラレル性質ノモノデアル。山之内ガ餘戸郷廢止ノ後吉井郷ニ附屬セラレタノガ何時代デアルカハ今日ノ所不明デアルガ元祿十三年伊豫國村高帳時代ニ於ケル吉井郷ノ範圍ハ天山、星岡、久米、福音寺、窪田、カラ北ノ山村村落ヲ含三川上村ノ北方松瀬川ニ至ル間トナツテ居ル、本村ノ石高ハ左記ノ通りデアル

西岡村 五百八拾三石六楯九合

志津川村 四百拾八石九斗七楯

樋口村 三百九拾八石四斗六楯一合

山之内村 三百拾六石五斗

又浮穴郡ノ状ヲ見ルニ

田窪村支郷志津川村入作七百六拾八石二斗〇四合

トアル之ハ勿論志津川村ノ原野ヲ田窪村ヨリ開墾入作ヲナシタルモノデアル。

其処テ田窪村ノ成立ヲ考ヘテ見ルニ前述ノ如ク見奈良、田窪、牛淵ハ南吉井郷デアル。水利關係ハ北吉井郷トハ關係ナク浮名川即チ重信川ニ用水ヲ求メネバナラヌ。此ノ浮名川沿岸地區ハ往古ノ拝志郷デアルガ故ニ見奈良、田窪牛淵ノ地區ハ拝志郷ノ分郷ト見ルベキデアル。ダカラ往古吉井郷ノ一部トシテ發成シタル地區ナガラ元祿十三年六月改伊豫国村高帳ニ依レバ浮穴郡ニ配屬サレテ居リ、水利上、必要ノ部分ノミハ北吉井郷ノ下三ヶ村ニ田窪牛淵ノ二ヶ村ガ加ハツテ、五ヶ村水利ノ上カラ僅ニ關係ヲ保ツテ居タニ過ギナイ。

此処テ古来南吉井村ニ就テ次ノ説ヲナスモノガアルカラ、序ナガラ批判ヲ加エテ置キタイ。夫ハ両村ハ名稱ノ上カラスレバ古来關係ノ密接ナルガ如ク考ヘラレルガ、一方ハ久米郡ニシテ一方ハ浮穴郡ニ屬シテ居テ、全然政治區面ヲ異ニシテ居タモノデアル。古来政治區面ハ河川山岳等著名ナ自然物ニ依リテ境界ヲ附サレルノガ普通デアル。サスレバ此処ニ想像ヲ加ヘルナラバ現在山之内川ノ旧状ハ前川、有ノ木、八反地ノ線ヲ西ニ兩村ノ境界トナツテ流レテ居タモノデアラウ。此ノ河川ガ現状ノ如ク改修サレタ後ニ田窪村支郷志津川村入作地ノ開墾ガ行ハレタルモノナラン。其時代ハ足立重信ノ治水工事ノアツタ後デアラウト云フノデアル。

此ノ説ハ一應事實ニ近キモノトシテ人々ノ贊成ヲ得タシ中ニハ井泉等地下水ノ筋道ノ實際ヲ調査シテ證明立テヤウト努力シタ者モアル。然シ之ハ想像ノ第一歩ニ於テ誤ツテ居ルト評サナケレバナラヌ。成程政治區面ガ多クノ河川等ニ於テ分境サレテ居ルト云フ事ハアルガ一概ニ左様ナ事トノミハ限ラナイ。殊ニ農村ニ於テは水利ノ利害を同ジクスル區域ヲ以テ、一單位ト見ナスノガ妥當デアル。南吉井郷ノ交渉ガ少ナカツタト云フ事ハ水利上ノ交渉ガ少ナカツタト見テモ支障ノアル筈ハナイ。又山之内川ノ流線ニツイテデアルガ治水工事ノ施サレナカツタ往古ニアツテ八年々ノ出水情況ニ依リ勝手氣儘ナ自然放出ノ形デアツタトハ想像サレルガ、其間河川ニハ自然ニ幹流ノ線ト云フモノガアル譯デアル。山之内川ガ三里余ノ溪谷ノ水ヲ集メテ流出スル其形勢ヨリ察セバ寧口現状ノ如ク南流スルノガ自然的デハナカラウカ。夫ガ井口ノ谷ヲ離レルト直チニ西折シテ流出スルト見ル想像ノ方ガ、カヘツテ不自然デハ、ナカラウカト思ハレル。足立重信ノ記録ハ、影浦氏ノ伊豫史精義ニモアルガ松山築城ニ對シテノ工事デアツテ行ハレタリトシテモ、ムシロ下流域ニ止マツタラシイ。

兎二角史的考證ハ文献ニ依ラナケレバナラヌ想像ニ対スルニ想像ノ説テハ解決ハ見ナイノデアアル。前掲ノ福見寺文書ノ記録ニモトズキテ見ルニ大ナル河川トシテハ播磨塚ノ岡ノ南ヲ流ルル由流宜川（内川）ト浮名川ノ名ガアルノミネナルヲ見テモ、察知サレルコトト思ハレル。故ニ明治二十二年町村制實施ニ當リ此ノ地方ニ南北吉井村ノ名称ヲ附サレタルハ、誠ニ當然ナル結果ト云ハネバナラヌ。

## 第一章 行政

### 第一節 役場

#### 一、自治体ノ沿革

現在ノ市町村ハ明治二十一年法律第一號ヲ以テ發布セラレタ市町村制ノ施行ニ依リテ初メテ其ノ基礎ヲ定メラレ翌二十二年準備完了シテ市町村制ハ實施サル事トナツタ。本年（昭和十三年）ハ丁度五十周年ニ相当スルヲ以テ四月十七日ノ記念ノ佳日ヲトシ東京ニ於テハ、天皇陛下ノ親臨ヲ辱フシ全国ノ市町村長ハ地區ヲ代表シテ記念式典ヲ舉行優渥ナル勅語ヲ賜リタル次第デアアル自治制ガ我國運ノ發展ニ寄與シタル事ハ實ニ多大ナルモノテ世界史上比類ナキ業績ヲ輝カシテ居ル。我等ハ此ノ光榮感激ニ蹶然トシテ奮起シ聖旨ニ答エマツラネバ成ラヌ次第デアアル。

本村ノ行政區域ハ山之内村、樋口村、志津川村、西岡村ノ四ヶ村ヲ包含シテ居ル明治二十二年市町村制實施ニ當リ旧村名ハ其儘大字トナリ久米郡北吉井村ト称スルニ至ツタ久米郡ハ明治三十年四月ニ至リ温泉（松山ヲ除ク）和氣、風早ノ全部ト伊豫下浮穴ノ一部トヲ合併シテ温泉郡ト總称サレルコトトナツタ。

横川ト八山之内ガ谷ヲ出テ一時南流スル所カラ附サレタ名稱デアアルガ小字名トシテ從來志津川樋口（旧国道

ヲ堺トシ南ハ志津川北ハ樋口）兩部落ニ屬シテ居タ。然ルニ伊豫鉄道ノ終點驛ガ設置セラルルニ至リ急速ナル發展ヲ遂ゲ戸口ノ蕃殖ヲ来シ戸數二百、人口九百余ヲ有スル一小街ヲ形成スルニ至リタルヲ以テ自治行政上大正六年ヨリ横河原區ヲ設ケルコトトナツタ。故ニ、現今北吉井村ハ大字山之内、大字樋口、大字志津川、大字西岡ノ四部落ト別ニ横河原區ノ一區ヲ加エテ五ヶ區ニ分タレテ居ル

## 二、役場沿革

自治制發布サレテカラ初代村長トシテ就任シタ人ハ山内元凱氏デアアル明治二十三年二月四日附ヲ以テ村長ノ認可ヲ得テ居ル大體氏ハ戸長トシテ在任中デアツタガタメ二十二年町村制實施ニ當リテモ引續キ事務ヲ取ツテ居タモノデアアル市制町村制發布ノ際上諭ニ「地方共同ノ利益ヲ發展セシメ……隣保團結ノ旧慣ヲ尊重シテ益々之ヲ擴張」ト仰セ出サレテアル通り原則トシテ旧慣ニモトツキ其ノ行政區ヲ立テラレタノデアツタ、然ラバ本村トシテハ夫レ以前ニ如何ナル状態ニアツタカト云フニ山之内、樋口、志津川、西岡ノ四ヶ村ヲ一單位トシテ樋口外三ヶ村戸長役場ナルモノヲ大字樋口得久（形上照次氏宅西隣）ニ設置シ四ヶ村ノ行政ヲナシテ居タガ故ニ自治制實施ニ當リテモ同時ニ此處ヲ村役場トシテ使用シテ居タモノデアアル其後役場ノ位置ハ大字志津川ニテ三回移轉セラレタガ（一回ハ加藤酒店、現今島田氏宅、二回ハ大東権吉氏宅、三回ハ會根高壽氏宅）役場新築ノ議ガ上提サルルニ至ルト此ノ記念スベキ樋口ノ土地ヲ選定サレタノデアツタ。左ニ役場新築ニ関スル一件記録ヲ記載シテ置ク

### 村役場位置變更認可申請

#### 變更ヲ要スル事由

從來ノ位置ハ志津川ノ西端ニシテ普通民屋ヲ充用セルモ老朽用ニ且ツ狹隘不便スクナカラザルヲ以テ御大典記念事業ノ一端トシテココニ新築移轉セントスルニアリ

役場現在地ノ戸口並ニ其ノ疎蜜

戸數百二十、人口五百八十五名ニシテ東西二丁、南北一丁ニ過ギザル一小部落ナリ  
變更地ノ位置及戸口並ニ疎蜜

位置大字樋口字前川老千三百六拾八番地及老千三百六拾九番八横川驛ノ西端ニ屬シ横河原ハ大字志津川及樋口  
二部落ヨリ成リ戸數百三拾七、人口六百八十二人ニシテ東西二丁南北一丁余ニシテ人家概蜜將來商業發展ノ地  
ナレバ適當ナル位置ナリ

役場現在地及變更地ヨリ四方ノ里程

現在地ヨリ東北大字山之内ノ東端迄約二十丁余、西大字西岡ノ西端迄約二十丁北大字樋口ノ中央工約二十丁變更  
地ヨリ東北山之内東端迄約三里十五丁西大字西岡ノ西端迄約二十五丁南重信川ノ村境ニ至ル約二丁北大字樋口ヲ  
距ル約二丁

地勢交通上ノ便否

地勢平坦變更地ト旧位置ヲ距ル東五丁余ニシテ當村ノ中央ヨリ西ニ偏スルモ松山ニ通スル国道ニ面接シ伊豫鐵道  
横河原停車場ノ附近ニシテ交通最モ便利を呈ス

以上列記スル如クニシテ位置變更ハ村民一般ノ拳望ニ有之且大正四年十一月二十五日村會ニ於テ決議候條御認可相  
成度此段申請候也

大正五年二月二十三日

温泉郡北吉井村長 菅原 繁三郎

愛媛縣知事 深町 鍊太郎殿

指令庶第九八三号

温泉郡北吉井村

大正五年二月二十三日一發第一一九号役場位置變更ノ件  
右町村制第五條ニ依リ之ヲ許可ス

大正五年三月拾七日

愛媛縣知事 深町 鍊太郎

一金老千九百五拾圓也

北吉井村役場建築費

此工事本館平屋建

桁行 十三間

梁行 五間

此建坪七拾九坪九合四勺四才

(但シ六尺三寸平方尺)

着手工事 大正五年三月ヨリ起工シ落成期間八五月三十日限リトス

當時村長 菅原 繁三郎

同 助役 藤岡 落治郎

村會議員

渡部 新五郎	和田 富太郎	和田 音次郎	坂本 和市	和田 伍郎
和田 昌義	田中 幾太郎	中村 誠一郎	野村 亘	河原 八内
大西 倭夫	浅井 平三郎	山内 忠平	伊賀 忠次郎	

建築委員

和田 富太郎	和田 昌義	河原 八内	中村 誠一郎	伊賀 忠次郎
--------	-------	-------	--------	--------

請負人

田中 政五郎	丹生谷浦太郎	恒岡 八太郎	窪田 卯一	弓立 数太郎	松末 熊太郎
--------	--------	--------	-------	--------	--------

大工

鎌田 又四郎

露口 永太郎

伊賀 政次郎

大正五年七月十四日

役場移轉執務

大正五年十月二十九日

新築移轉開宴

歷代村長 并 助役

期	間	村長	助役
自明治二十三年二月二十四日	至 〃 二十七年二月二十七日	山内 元凱	藤田 建太
自明治二十七年九月二十四日	至 〃 二十九年五月十五日	和田 宥詮	同
自明治二十九年五月十五日	至 〃 三十三年五月二十六日	藤田 不二太 (建太)	清水 甚太郎 河原 八内
自明治三十四年二月十五日	至 〃 三十四年二月十六日	村上 常重	河原 八内
自明治三十四年二月十六日	至 〃 三十四年二月十六日	武智 懋心	和田 富太郎 坂本 和市
自明治三十四年二月十六日	至 〃 三十四年二月十六日	坂本 和市	和田 伍郎
自明治四十五年一月十一日	至 大正四年三月十一日	浅井 平三郎	高塚 自由太 和田 伍郎

自大正四年四月十七日 至〃 六月十九日	職務管掌 温泉郡書記	山内 晴朝	
自大正四年六月十九日 至〃 八年六月十八日	菅原 繁三郎	藤岡 藤治郎	
自大正八年六月二十六日 至〃 十二年一月二十日	渡部 新五郎	同	
自大正十二年一月二十四日 至〃 十五年十一月六日	露口 守雄	野村 亘	
自大正十五年十二月一日 至昭和四年三月七日	和田 伍郎	藤岡 藤治郎 丹生谷 博孝	
自昭和四年三月十四日 至〃 五年六月三日	山内 範平	丹生谷 博孝	
自昭和五年七月二十一日 至〃 六年十二月五日	大西 彦四郎	丹生谷 博孝	
自昭和七年一月十八日 至〃 八年四月二十四日	奥村 覺藏	窪田 外一	
自昭和八年七月十七日 至〃 十一年三月二十六日	渡部 盛一	窪田 外一 中野 清	
自昭和十一年九月十日 至〃 十二年八月二十六日	宮倉 次郎	田中 好忠	

自昭和十二年十一月二十日

丹生谷 博孝

同

四、役場吏員職務担任

昭和十三年現在

役名	職務担任	姓名
村長		丹生谷 博孝
助役	社會	田中 好忠
収入役		和田 豊五郎
書記	兵事 議事	丹生谷 良一
同	稅務 衛生	門田 益太郎
同	學務 國稅 庶務 土木	大西 侃在
雇	戶籍 土地	高塚 繁
技術員	勸業 農會	藤田 良二郎
書記	出征中	恒岡 定俊

五、村會議員 并 區長

初代村會議員

和田 富太郎	和田 忠六	露口 保平	武智 純一郎
露口 亘	和田 宥詮	小川 秀次郎	田中 良次
山内 静也	藤田 建太	河原 八内	山内 元凱

現在村會議員

和田 觀平	加藤 孫作	渡部 丹次	和田 孫三郎	山内 辰五郎
藤岡 五郎一	田中 好忠	藤田 寅一	松末 磨多一	野村 林蔵
佐伯 運三	武智 八九郎	島田 要	武智 登	

現在區長

大字山之内	和田 觀平	大字樋口	和田 孫三郎	大字志津川	渡部 逸蔵
大字西岡	須川 福載	横河原	佐伯 運三		

現在農會

農會長 田中 好忠 副會長 高塚 善河 技手 藤田 良二郎

褒 賞

温泉郡北吉井村役場

大正三年戸籍事務成績良好ニ付本會則所定ノ第一等褒賞ヲ授與ス

大正四年二月二十三日

戸籍研究會長

松山區裁判所監督判事 甲斐 一之

第一章

第二節 警察

治安警察ハ内務行政ニ屬スルト共ニ司法警察事務ヲ担當シ大衆ノ安寧秩序ノ維持ニ從事セラル。今日聖代ノ御代ヲ歐歌シテ安恕タリ得ルモ又警察ノ恩惠デアアル。本村ハ松山警察署管内ニ屬シ早クヨリ川上村ニ警察分署ヲ設置セラシ其統轄下ニアツタガ明治二十九念一月ヨリ各村ニ駐在所ガ設置セララルニ至リ警官一名宛常置セララルニ至ツタ伊豫鉄道横河原驛ノ設ケラルル以前ハ国道二十四号線ハ唯一ノ幹線道路ナリシ爲メ本村ニ於テハ通過部落ノ中央血点タル大字志津川ニ駐在所ノ位置ヲ定メ居タルガ、其後時代ノ變遷ハ横河原ノ異常ナル發展ヲ見、遂ニ本村出入ノ玄關口タルノ觀ヲ呈スルニ至リタルヲ以テ、大正四年村役場ノ新築移轉後、村有志ノ寄附ヲ得テ大正十一年五月十日起工シ同年七月十日竣工ヲ見タノデアアル建築費七百五十圓位置北吉井村大字樋口字前川

一、歴代駐在巡査

明治二十九年一月ヨリ

宇佐美 彦一	西山 和太郎	長曾我部 貞衛	堀内 丑太郎	岡崎 兵次	池内 幸太郎
三室 勝次郎	鎌田 和田兵	田村 猪之吉	近藤 仲蔵	津村 忠三郎	中原 竹四郎
山本 貞孝	岡本 正津	松本 重吉	三好 駒太郎	西岡 義光	相田 元吉
松浦 善磨	武智 近太郎	御幡 恒三郎	篠原 清作	宮田 儀助	香川 喜之治
有田 庄三郎	石川 卓郎	井上 齋吾	井手 一夫	野口 重五郎	佐伯 民助
松浦 利通	山田 久太郎				

現在巡査

昭和十三年四月八日赴任

小谷 雅義

二、犯罪

一、昭和十二年度ニ於ケル本籍人犯罪調

傷害	賭博	贈賄	窃盜	交通違犯狩猟法	建築法違犯	詐欺	選舉違犯	私文書偽造	其他	計
三	六	一	一	二一	一	一		二	一	二〇

一、司法保護會ニ於テ釋放者ノ保護中ノモノ 昭和十二年度

男 越人員 二 新人員 一 計 三

三、消防

一、沿革

消防ハ治安ノ方面ヨリシテ縣警察部ノ管轄ニ屬スル。近来防空事業モ擧ゲテ消防組員ノ努力ニ、マタネバナラヌ關係上益々村内ニ於テ重要ナル位置ヲ占ムルニ至ツタ。

其沿革ヲ尋ヌルニ大正四年志津川ノ人渡部常吉氏私設消防組設置ノ件ヲ時ノ村長菅原繁三郎氏ニ計ル。村長ハ其ノ事業ニ賛意ヲ表シタルモ組員組織ニ付テ渡部氏ノ苦心ヲ察シ之ヲ和田昌義氏ニ計ル。和田氏ハ大西彦四郎、中村誠一郎ノ兩氏ノ外數氏ト熱議シ組員百十一人ヲ得、更ニ西岡、志津川、樋口ノ三部落區長ニ計リテ金壹百圓ノ寄附ヲ得タルヲ以之ヲ村長菅原氏ニ呈シ、同時ニ公設消防組タラシメン事ヲ提議シタ。村長、渡部ノ兩氏モ共ニ感激賛成シ、渡部氏ハ所持の警鐘二個ノ寄附申出アリ、大正四年村會ニ議案提出、協賛ヲ得テ北吉井消防組ノ設置ヲ見ルニ至ツタ。其組織ハ左ノ如シ

二、組織

北吉井消防組第一部 樋口 横河原

第二部 志津川 西岡

消防組頭 和田 昌義 同組員 百十名

警鐘代ノ位置ニケ所 横河原 志津川

ポンプ其ノ他消防用具ノ置場ヲ横河原、志津川ニ設置ス

三、事業成績

爾来内容設備、備品ニ於テ改良整備セラレ組員亦多ク在郷軍人ヲ基幹トシ訓練モ軍隊的ニ規律、嚴肅ヲエ来ツタノ  
テ毎年出初式ニ於テ其成績ヲ擧ゲ左ノ如キ賞状ト金馬簾ノ授與セラルルコト前後三回ニ及ンデ居ル

賞状

温泉郡北吉井村消防組 第一部

組員 克ク一致協力以テ水災警防鎮滅ニ盡瘁シ且規律、嚴肅ニシテ訓練モ亦熟達シ他ノ模範ト爲スニ足ル依テ之ヲ

賞シ金馬簾一條ヲ授與ス

大正十年七月二十九日

愛媛縣警察部長 縦五位勲六等 小林 一男

北吉井村消防組第二部同文

賞状

温泉郡北吉井村消防 第一部

規律、嚴肅ニシテ訓練熟達ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ル依テ消防施行細則第三十三條第一項第一号ニ依リ之ヲ賞シ  
金馬簾ヲ授與ス

昭和四年十一月一日

警察部長

愛媛縣書記官 正六位 安原 舜一

北吉井村消防組第二部同文

四、歴代消防組頭

和田 昌義 藤岡 藤次郎 野村 亘 藤岡 禎十郎 丹生谷 博孝

五、昭和十二年度災害件数

家屋火災 三件 山林火災 二件  
 現在警鐘台 五ヶ所 樋口 横河原 八丹地 志津川 西岡

第三節 財政

町村制実施當時ノ財政状態ヲ調査シタガ未ダ其ノ記録ヲ発見スル事ガ出来ナイ。今ノ所最モ古イ本村ノ豫算所ハ當時ノ村長山内元凱氏ヨリ明治二十七年村會ニ提出サレタモノガアル。今ニシテ思ヘバ、自治体ノ発達經過ヲ知ルニ重要ナル参考ト成ルカ故ニ、左ニ記シテ置ク。

明治二十六年歳入出決算表

		豫 算	
歳入額	老千百七拾四円六拾三銭一里	老千百九拾三圓〇九銭七里	
歳出額	老千百七拾四円六拾三銭老里	老千百九拾三圓三拾三銭五里	

差引残金四拾七圓七拾六銭式里

之ニ對比スルニ便ナル爲メ昭和十三年度ノ經常費豫算ヲ示スト

歳入出豫算合計三萬五百式十五圓

四拾五六ねん間ニ約三十倍ノ膨張ヲ見ルノデアルガ自治体ノ発達ガ国運ヲシテ光輝赫々タル発展ヲセシメタ事ハ世界史ニ稀有ナル事デアル。諸般ノ発展ハ是ノ如キ成績ヲ示シタモノナルガ、尚一般經濟及諸般ノ施設經營八年々膨張擴大ノ一路ヲ辿ルノミデ、殊ニ暴支膺懲ノ戦時体制下ニアツテハ国民精神國家総動員ノ主旨ノ下ニ時局ヲ認識シ克

自治ノ本領ヲ發揮セネバナラヌ現勢デアル。

然シ歐州大戰後世界的ニ見テ經濟界ハ多年不況混亂ヲ来シ内部的ニハ昭和九年度ノ未曾有ノ大旱魃並二十年度風水害ニ遭遇シ本村モ亦經濟的一大苦境ニ立チ至ツタノデアル。村當局トシテハ毎年緊縮經濟策ヲ立テ村民負担ノ輕減ニ留意サレ国家トシテモ臨時地方財政補給金下附ヲ議決シ農村ノ更生ヲ企各面サレテ居ル。然リトイエドモ國策ニ順應スルハ自治体ノ本領ニシテ、萬民ノ共存共榮ノタメニハ、何処迄モ積極的施設ノモトニ發展ヲ期セネバナラヌモノデアル。此處ニ我々ハ確固タル信念ノモト義務ヲ履行シ村治ノ圓滑ナル處理ニ助力致シタキモノデアル。依テ村ノ財政状態ヲ記録シ一般ノ知悉ニ供シテ置ク。

一、基本財産

一、財産表

名稱	金額又ハ數量	摘要
勸業銀行株券	貳百圓	
預金	一萬貳千九百七十式円十一錢	
山林	百四拾町一反三畝二十五步	保安林共四十八筆
田	一段三畝十三步	山之内岡一〃四二七番地外七筆
宅地	八拾參坪	西岡字河之内
溝梁	八段四畝六步	志津川玉瀾泉外二筆
原野	七畝二十五步	志津川字大原九百參十番地ノ第一九

特別基本財産

貧民救濟基金 老千百四拾老圓七拾八錢

土地之部

名稱	數量	
役場敷地	老段拾貳步	樋口字前川一三六八番地外五筆
北吉井小學校敷地	老町參段九畝五步	同所一四〇八番地ノ外二十九筆
山之内小學校敷地	老段九步	山之内神子野一六〇四番地
避病舎敷地	老段六畝拾九步	志津川字夏梅九一九番地ノ二外五筆
墓地	老町五反八畝拾貳步	山之内大畑一〇一番地ノ二外二十二筆

役場備品 金庫外三百二十二点  
建物之部

名稱	種類	棟数	坪数	数
役場	木造瓦葺平屋建	四	八三	九四四
北吉井小學校	同	六	七一五	八〇〇
山之内小學校	同	二	一四六	八〇〇
駐在所	同	一	一六	七五〇
避病舎	同	五	一〇五	五〇〇
山之内教員住宅	同	一	三四	五〇〇
計		一九	一一〇三	二九四

外三川上、北吉井村共同火葬場（竈煉瓦造外敷地一・木造平屋建一）

二、稅務

一、國縣稅

昭和十二年度

種別	調定額	徴収額	滞納額
國稅	六,二一三:一二	六,二一三:二四	一一六:八八
縣稅	九,八五四:九五	九,〇九三:六二	七六一:三三
合計	一六,〇六八:〇七	一五,一八九:八六	八七八:二一

二、村稅

昭和十二年度

稅目	調定額		納期內徴収額		調定額ニ対スル收入歩合	
	人員	稅額	人員	稅額	人員	稅額
地租附加稅	一四五八	二六六五:六八	八九六	一四五七:一一	六一,四五	五五:三三
特別地租附加稅	五三〇	三一〇:一七	三七六	二二三:九八	七〇,〇九	七二:二一
營業收益稅附加稅	六〇	五七四:三二	九	五〇:五二	一五,〇〇	八:九七
營業稅附加稅	一八四	一七〇:一九	七六	七三:二五	四一,三〇	四三:三〇
家屋稅附加稅	一二六三	九五三:六〇	九二六	六七二:三九	七二,五二	七〇:五一
雜種稅附加稅	一一八四	一一九九:三二	四三七	六一四:九〇	三六,九〇	五〇:四三
特別稅戶數制	一三三二	八六八二:八四	九六五	七一〇五:七六	七二,四四	八一:八三
合計	六〇一一	一四五五六:一二	三六八一	一〇二一五:九一	六一,二三	七〇:一八

右表ヲ見ルト納稅成績ハ村稅ニ於テ七〇、一八%デアアルガ納期後徴収ノ成績ヲ加算スレバ九四、九二%デアアル昭和十二年度ハ臨時地方財政補給金中、一般補給金三千九百三十七圓ノ交附アリ之ニ依リ戸數割及雜種稅、附加稅等ノ輕減ヲ計ラレタガタメ村民ノ負担ハ非常ニ過重ヨリ脱ツスルヲ得タ、ワケデアアル納稅ハ國民ノ義務ナレバ觀念ノ普及及徹底ヲ計リ銃後ノ完璧ヲ期スベキデアアル

三、豫算

豫算八一ヶ年間ニ於ケル諸般行事ノ指針タルモノナレバ重要ナル部門ニシテ議員ガ連日嚴密ナル検討ヲ加工テ當局ノ原案ノ修正追加承認ヲ經テ出来上ルモノデアアル。村民タルモノモ一應ハ留意閱覽ヲ致シ置クベキデアアル。昭和十三年度ニ於ケル歳入出豫算書ヲ添附シテ置ク

昭和拾参年度

歳入歳出豫算書

温泉郡北吉井村

歳入		豫算		豫算		説明		△印ハ減ヲ示ス	
科	目	款	項	種目	本年度	前年度	増減		
		臨時ヨリ生ズル			七八〇	七六〇	二〇		
		基本財産			七二〇	六九九	二一		
					七二〇	六九九	二一		
				一借地料	二一七	一九八	一九		大字志津川玉渕宗床賦米 六石六斗代三拾三円
				二小作料	一四	一四	〇		大字山之内岡田九畝七步定米四斗四桮 代石代三拾三円

使用料 及手数料		二貧民 救済 収入		三小學校 積立金 収入		一使用料		二手数料	
			四二		一八		二〇		二五一
	三株金 配当		四二		一八		二〇		二五一
	四豫金 配当		四二		一八		二〇		二五一
	四七九		四二		一九		二〇		二五〇
	四七五		四二		一九		二〇		二五〇
	一〇		〇		△一		〇		一
	一〇		〇		△一		〇		一
	勸業銀行株二百円 年五分配当		四		元金一、一四一円七八銭ノ 利子年三分七厘		見込		
	基本金一二、九七二円一一銭ノ 利子年三分七厘				元金五〇〇円ノ利子 年三分七厘				

		交付金													
縣稅徵收 交付金		國稅徵收 交付金													
一〇九		二七四		三九五											
	國稅徵收 交付金			閱覽料	公簿	證明料	諸 手 數 料	督 定	膳 本 料	馬 籍	閱 覽 料	戶 籍	抄 本 料	戶 籍 膳 本	
一〇九	二七四	二七四	三九五	八	八〇	八〇	一〇	一六	一	一	二	二	一五〇		
一四〇	三二七	三二七	四七九	一〇	八〇	八〇	一六	一六	一	一	二	二	一四一		
△三一	△五三	△五三	△八四	△二	〇	〇	△六	△六	〇	〇	〇	〇	九		
	徵收金三一五〇円百分ノ三 知書発行三〇〇〇枚一枚六錢一八〇円			八〇件 一二付一〇錢		四〇〇件 一件二付二〇錢		五〇件 一件二付二〇錢		十枚 一枚二付金十錢	一五件	一件二付一五錢	一枚二付金一五錢	膳本抄本合計一〇〇〇枚	

国庫補助金	国庫		下度金		徴収交付金		徴収交付金		徴収交付金	
	義務教育費下度金	特別町村下度金	義務教育費下度金	特別町村下度金	手数料	木炭検査	手数料	鑑札再交付	手数料	鑑札再交付
八〇			七〇〇〇			一〇		二		
	八〇	七〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	一〇	一〇	二	二	一〇九	
	一一〇	七〇〇	七二〇〇	七二〇〇	一〇	一〇	二	二	一四〇	
	△三〇	〇	△一〇〇	△一〇〇	〇	〇	〇	〇	△三一	
		下度アル見込		下度アル見込		手数料証紙売上高 一五〇円ノ百分ノ四		縣稅鑑札再交付十件 一件二付金二十錢		地租附加稅特別地稅二五〇〇円ノ千分 ノ二十七円其他二三〇円百分ノ四 百五

繰越金										
繰越金	前年度		救済費補助	貧困児童		社会事業費補助	整理費補助			土地名寄帳
	五〇〇	五〇〇		一一〇		三七				五
			学校給食費補助		事業補助	救護費補助	統計補助	米産調査	整理補助	土地名寄
	五〇〇	五〇〇	一一〇	一一〇	〇	三七		一五	五	五
	一一一	一一一	一一〇	一一〇	一一五〇	三七	一一八七	一五	三五	三五
一七一	△	一七一	〇	〇	一一五〇	〇	一一五〇	〇	△三〇	△三〇
			補助アル見込			救護費一五〇円ノ四分ノ一		補助アル見込	土地名寄帳整理費補助	

繰越金		貸付金 収入					
前年度	繰越金	社会事業 費補助	貧困児童 救助補助	社会改善 事業補助	救護費 補助	米産調査 統計補助	繰越金
五〇〇	五〇〇	三七	一二〇				五〇〇
				〇	三七	一五	二二二
				一一五〇	三七	一五	二二二
△	△			一一五〇	〇	〇	△
一七二	一七二		〇	〇	一五〇	〇	一七二
			補助アル見込		救護費一五〇円ノ四分ノ一	補助アル見込	前年度剩餘金



村 税		繰替金収入		選挙公営収入		選挙公営収入		選挙公営収入		選挙公営収入	
税附加税	営業収益	特別地稅附加稅	地租附加稅	特別地稅附加稅	地租附加稅	繰替金	選挙公営収入	選挙公営収入	選挙公営収入	選挙公営収入	選挙公営収入
	五二八	一七三	一八四八	一八八五八							
税附加税	営業収益	特別地稅附加稅	地租附加	特別地稅附加稅	地租附加	繰替金	選挙公営収入	選挙公営収入	選挙公営収入	選挙公営収入	選挙公営収入
五二八	五二八	一七三	一八四八	一八八五八	一八四八	一〇〇〇	一五〇	一五〇	〇	〇	〇
五に八	五二八	二四八	一八四八	一八四八	二六四〇	六〇〇	一五〇	一五〇	一〇	一〇	九
〇	〇	△七五	△七九二	△七九二	△七九二	△四〇〇	〇	〇	〇	〇	△九
本税八〇〇円ノ百分ノ六六		三・一 百分ノ・八〇	地租二八〇〇円ノ百分ノ六六			見込	見込	見込	見込	見込	見込

繰入金		繰入金		特別税 戸数税	特別税	家屋税 附加税	家屋税 附加税	縣稅雜種稅 附加稅	縣稅雜種稅 附加稅	縣營業稅 附加稅	縣營業稅
	0	0		一四二五三		八九六		九八〇		一八〇	
繰入金	基本金		特別税 戸数税	特別税	特別税	家屋税 附加税	家屋税 附加税	縣雜種稅 附加稅	縣雜種稅 附加稅	縣營業稅 附加稅	縣營業稅
	0	0	一四二五三	一四二五三	一四二五三	八九六	八九六	九八〇	九八〇	一八〇	一八〇
	五〇〇	五〇〇	七〇七	七〇七	七〇七	九〇〇	九〇〇	一〇一八	一〇一八	一八〇	一八〇
	△五〇〇	△五〇〇	七〇七	七〇七	七〇七	△四	△四	△三八	△三八	〇	〇
			村稅總額ノ七七五九強戸數六六〇戸ニ 除シ一戸二一円五九錢五厘強			本稅二八〇〇円ノ百分ノ三二		本稅一四〇〇円ノ百分ノ七〇		本稅二〇〇円ノ百分ノ九〇	

歳入合計	寄附金		借入金		財政補給金			臨時地方
	寄附金	借入金	借入金	預金部	特別補給金	一般補給金	臨時地方	財政補給金
三〇五二五	0	0	0	0	0	0	0	0
三〇五二五	0	0	0	0	0	0	0	0
五六	一八二二	一八二二	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	〇二三八八	〇三九三七	〇六三二五
二〇四	一八二二	一八二二	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	二三八八	三九三七	六三二五
△	一八二二	一八二二	△一〇〇〇〇	△一〇〇〇〇	△一〇〇〇〇	△	△	△
二五	一八二二	一八二二	△一〇〇〇〇	△一〇〇〇〇	△一〇〇〇〇	二三八八	三九三七	六三二五
六七九	一八二二	一八二二	△一〇〇〇〇	△一〇〇〇〇	△一〇〇〇〇	二三八八	三九三七	六三二五

歳出經常部

豫算		豫算		豫算		豫算		豫算		豫算		豫算		豫算	
科	目	項	目	種	目	本	前	增	減	附	記	本	前	增	減
款	目	項	目	種	目	年度	年度	減	減	記	記	年度	年度	減	減
神社費	神饌幣帛料	一七二	一七二	神饌料	一七二	一七二	一七二	0	0	例祭一社四円新年祭新嘗祭一社二円		一七二	一七二	0	0
	神饌幣帛料	一一〇	一一〇	幣帛料	一一〇	一一〇	一一〇	0	0	例祭一社十円新年祭新嘗祭一社八円		一一〇	一一〇	0	0
	供進金	五二	五二		五二	五二	五二	0	0	村社一社八円無格社末社一社五円計八社		五二	五二	0	0
會議費	費用辨償額	二六七	二六七	費用	二六七	二六七	二二九	三八	四二	議員十四人開会日数十八日臨時會計検査		二六七	二二九	三八	四二
	費用辨償額	二五六	二五六	辨償額	二五六	二五六	二二四	四二	四二	立會議員二人検査二回延二五六人 一円		二五六	二二四	四二	四二
	需要費	一一	一一	備品費	一一	一一	一五	△四	△四	火鉢新調費一個二円五十錢 四個代		一一	一五	△四	△四
	需要費			消耗品費			一四	△	△	筆 鉛筆 茶代					
役場費	報酬	四八七六	四八七六		四八七六	四八七六	五三四一	△四六五	二四			四八七六	五三四一	△四六五	二四
	報酬	九四七	九四七		九四七	九四七	九二三	二四	二四			九四七	九二三	二四	二四

				雑給					給料							
				一一四三					一七五六							
収入役代理	使丁給	雇人給	旅費	費用弁償額		嘱託手当	産業技術員	書記給	収入役給		委員報酬	林野常設	學務委員	常設委員	助役報酬	村長報酬
一一二	四〇二	一六五	一〇〇	一五〇	一一四三	二四	一三一	四二〇	一七五六	五	一八	六〇	四三二	四三二		
一二	三六五	二三二	一九〇	二四〇	一四七三	二四	一四二	四〇八	一八四四	五	一八	六〇	四二〇			
〇	三七	△六七	△九〇	△九〇	△三三〇	〇	△一〇〇	一二	△八八	〇	〇	〇	一二	一二		
月一円ノ者一ケ年	日給平均五十五銭ノ二人一ケ年	一日一円ノ者一六五人分	月給吏員一ケ年	村長助役七五円其他委員七五円一ケ年		一ケ月二円ノいちケ年	月俸平均三十三円三人応募者十円三三銭	月俸三十五円ノ一ケ年		一人一円宛五人ノ一ケ年	一人三円宛六人ノ一ケ年	一人一二円宛五人ノ一ケ年	一ケ年	一ケ年		

北吉井學校費	需要費										一〇一三					
	役場修繕費										一七					
一三八六一	一三七	一三五	一四八	一五八	一六六	一六二	一六三	一〇三	一〇〇	四一五	一八三	一〇一三	八四	一〇〇	七〇	六〇
一三六一	一七	三五	四八	五八	六	二	六三	一〇三	一〇〇	四一五	一八三	一〇一三	八四	一〇〇	七〇	六〇
一四〇二六	四〇	三〇	四八	六〇	六	二	六三	一〇三	八〇	四二五	二四四	一〇六一	八四	二四〇	五〇	六〇
△一六五	△二三	五	〇	△二	〇	〇	〇	〇	二〇	△一〇	△六一	△四八	〇	△一四〇	二〇	〇
	庭木手入二円窓硝子修繕十円其他五円	一ヶ年分	一ヶ年分	臨時燈並電球破損七円二〇銭 電燈七燈休燈一燈五一円八〇銭	有給吏員五人一ヶ月十銭一ヶ年分	一夜二十銭十日分	宿直吏員一夜十銭使了七銭一ヶ年分	町村会費一六円外	一ヶ年分	別紙ノ通り	別紙ノ通り		愛媛縣町村吏員互助會費町村負担金 一ヶ月七円一ヶ年分	一ヶ年分	一ヶ年分	有給吏員五名使了二名分

給料		雑給		需要費	
一一八二〇		六六一		一三一六	
教員給	一一九二〇	一一九二〇	一一〇〇六	△一八六	月平均五十六円ノ者一六人分年一〇七五二円専任教員月平均五十四円ノ者一人六四八円補助教員月平均三五円一人四二〇円
休職給	〇	一八六	△一八六	〇	
旅費	六六一	六四八	一三	〇	多額旅費二五円校長出張十円担任旅費二〇円諸公用車旅費一二円教員研究大会四円恩賜問題講習会五円各種研究会七円諸学文化講習会四円職業講習会三円修学旅行費等常時二人分八円高等科二人分一六円
使了給	一八三	一八三	〇	〇	日給五〇銭ノ者一ヶ年分
教員住宅料	九六	八四	一二	〇	二月二円一人月一円六人ノ一ヶ年分
恩給基金	一一七	一一九	△二	〇	教員給ノ百分ノ一
醫師手当	三〇	三〇	〇	〇	一ヶ年分
慰勞金	一一一	一〇八	三	〇	教員一人平均六円ノ者一八人分三三円
備品費	四五〇	四〇〇	五〇	〇	別紙明細書ノ通り
消耗品費	四五〇	四〇〇	五〇	〇	別紙明細書ノ通り
児童	二七〇	二六二	八	〇	運動会費六〇円学年末賞与七〇円修学旅行費等常時一人八〇歳七〇人分五六円高等科一人一四四〇人分生徒出席費二四四新字用紙賞与二〇円
奨励費					
通信運搬費	九	九	〇	〇	一ヶ年分
農園費	一〇	一〇	〇	〇	種子 小作料他



山之内小 學校費		給料		雑給		需要費	
三三〇一	二六〇四	二五二	四三七	三三〇一	二六〇四	二六〇四	二六〇四
消耗	品費	通信運搬費	生徒	奨励費	雑費	筆墨料	教員給
一六五	一四七	五	六三	一五	二	二六〇四	二六〇四
一八	一四七	五	五〇	一七	〇	二六〇四	二六〇四
一	一四七	〇	一三	△二	二	二五二	二五二
電灯料九百円印刷費入用紙九百円墨汁四円筆尖費一七円裁縫材料費四円手芸材料費六円大葉代三円筆トシ代五〇銭報告用紙五〇張出庫用紙一冊学校日記一冊心算四円漢字帳六円他	電灯料九百円印刷費入用紙九百円墨汁四円筆尖費一七円裁縫材料費四円手芸材料費六円大葉代三円筆トシ代五〇銭報告用紙五〇張出庫用紙一冊学校日記一冊心算四円漢字帳六円他	一ヶ年分	由議果費十円学年末費二〇円贈答費若行費三円行幸十円諸金費五円公費五円諸金生徒補助十円	總督年教育研究會及聯合演習分組金六円教職研究會三円青年學校研究會三円青年學校手帳三円	月十銭一人十一ヶ月分	赴任旅費五円校長出張式十円修学旅行引率五円研究会十円參觀十円	使丁日給三十銭一人一一〇円雇四人四円本俸加俸ノ百分ノ一
慰勞金	醫師手当	恩給基金	使丁雇人給	旅費	教員給	給料	需要費
二六	三五	二七	一一四	五〇	二六〇四	二六〇四	四三七
四一〇	三五	二七	一一四	五〇	二六〇四	二六〇四	四三七
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二
教員平均六円ノ四人使丁二円野一分	醫師手当一ヶ年分	本俸加俸ノ百分ノ一	使丁日給三十銭一人一一〇円雇四人四円	赴任旅費五円校長出張式十円修学旅行引率五円研究会十円參觀十円	月俸平均五四円二五銭ノ四人分一年分	給料	需要費

山之内青年		學校費		修繕費		雜給		需要費	
備品費	一三〇	一二六	一四	別紙明細書ノ通り	備品費	一〇〇	七二	二二八	備品費 一〇〇 七二 二二八 備品費 一〇〇 七二 二二八
消耗品費	一七〇	一五四	一六	別紙明細書ノ通り	慰勞金	二四	〇	一人平均六円ノ四人分	
通信運搬費	六	四	二	一ヶ年分	教員手当	一九二	〇	月手当七円ノ者二名八ヶ月分二二円 年手当四十円ノ者二名八十円	
児童	六五	六八	△三	年費六円ノ者一人一月二〇銭十人分 一人一月費等一人一月二〇銭十人分	旅費	二〇	一	主事講習六円行軍引率二名二回四円 指導員講習十円	
奨励費					教員手当	一九二	〇		
宿直賄料	三七	三七	〇	教員一夜十銭一ヶ年分	旅費	二〇	一		
雜費	二四	二二	三	年費六円ノ者一人一月二〇銭十人分 年費六円ノ者一人一月二〇銭十人分	旅費	二〇	一		
筆墨料	五	〇	五	教員一人月十銭四人分	校舎修繕費	八	△五	硝子代五円炊事場土間修繕費三円	
校舎修繕費	八	一三	△五		校舎修繕費	八	△五		
修繕費	八	一三	△五		校舎修繕費	八	△五		
雜給	二二六	二三五	一		雜給	二二六	二三五	一	
需要費	一三六	一〇六	三〇		需要費	一三六	一〇六	三〇	

傳染病 豫防費		就学奨励費		學校給食費		青年學校 演習費		雜給		需要費		雜費	
一五	三一九	一五〇	一五四	一五	一五〇	六〇	一〇	三五	一五	一五	一五	一五	一五
消耗品費	奨励費	就学奨励費	學校給食費	聯合演習費	學校給食費	醫師手当	雇人給	備品費	消耗品費	雜費	需要費	雜費	雜費
二四	一二	一五〇	一五四	一五	一五四	一五	一五	一〇	二五	一五	三五	一五	一五
二四	一〇	二八三	一五〇	一五	一五〇	一五	一五	二五	七五	八〇	一〇〇	三〇	三〇
〇	二	二八三	四	〇	四	〇	〇	△一五	△五〇	△六五	△六五	△一五	△一五
石油四缶十二円木炭五俵五円ランプ 二個四円用紙二円銃器油一円 学年末賞二円出席賞二円 視察費六円運動会二円			學用品費見込	青年學校演習分担金見込	一日六銭ノ者七人ノ一ヶ年分	村條例ニ依ル	トラホーム検診六円種痘四回二十四円 防疫消毒人夫一人一日一円ノ十五人分	器具修繕代見込	種痘苗五円薪炭五円消毒薬品十五円				

方面委員費		救護費		勸業費			火葬場費		隔離病舎費			
方面委員費		救護費		社業調査費			費		修繕費	雜給		
二五	二五	一五〇	一五〇		六五	六五	五	五	三	七二	七五	
		救護費		調查員手当	米生産統計	調査員手当	修繕費		修繕費	監視人手当		貧困患者費
二五	二五	一五〇	一五〇		三〇	三五	六五	六五	五	五	五	一〇
二五	二五	一五〇	一五〇		三〇	三五	六五	六五	五	五	八	二五
〇	〇	〇	〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇	△五	△一五
		救護法ニ依ル救助見込	母子保護ノ救助	基礎製作八円会議費四円筆炭紙代二円	調査員年三円ノ者四名分坪刈員四円	調査員五人一人一ヶ月七円		見込	戸樋修繕見込	一ヶ月六円ノ者一ヶ月分	適時開会二回	食費乗代一日五十銭ノ者二十日分





豫備費		雜支出			納稅獎勵費		選舉費			
豫備費	豫備費	繰替金	過年度支出	過年度支出	納稅獎勵費	納稅獎勵費	選舉諸費	選舉諸費	負擔	負擔
五〇〇	五〇〇	三六〇	二〇	三八〇	九〇〇	九〇〇	一〇	一〇	二七	二七
豫備費	豫備費	行旅・精神病人救護費 名譽兵費 名譽兵費 名譽兵費 名譽兵費 名譽兵費	過年度支出	過年度支出	組合獎勵費	納稅獎勵費	選舉費	選舉費	縣費負擔金	縣費負擔金
五〇〇	五〇〇	一〇	二〇	二〇	五〇	八五〇	一〇	一〇	二〇	二七
五〇〇	五〇〇	一五〇	二〇	二〇	五〇	一〇五〇	二〇	二〇	二〇	二七
五〇〇	五〇〇	二〇〇	二〇	二〇	五〇	一一〇〇	二〇	二〇	七	七
五〇〇	五〇〇	三六〇	二〇	二〇	五〇	一一〇〇	二〇	二〇	七	七
五〇〇	五〇〇	七六〇	二〇	二〇	五〇	一一〇〇	二〇	二〇	七	七
〇	〇	△四〇〇	〇	〇	〇	△二〇〇	△一〇	△一〇	〇	〇
		見込	見込	見込	優良納稅組合表彰見込	村條例二依ル	選舉費正費其他見込	見込	見込	見込

經常部計	二八二九二	二二九二	二二九六	△一〇七七
------	-------	------	------	-------

歳出臨時部

豫算		豫算		説明		附記
科	目	本年度	前年度	増減		
公債費	元金償還	五四四	五四二	二		
	元金償還	三八一	三六五	一六		失業救済借入金六三〇〇円ニ對スル年賦償還元金支払額
運用金	利子償還	一六三	一七七	△一四		失業救済借入金六三〇〇円ニ對スル利子支払額年三分六厘
	基本金補填	一九六	六一八	△四二二		
補助金	元金	〇	四〇〇	△四〇〇		
	利子	一九六	二一八	△二二		基本財産借入金六五〇〇円ニ對スル利子年三分二厘
九九四		九九四	一三五九	△三六五		

△印ハ減ヲ示ス

		勸業員補助		社会教育補助				教育費補助		兵事補助			補助		
		二八〇		九〇				一一一		四八〇			一〇		
耕地協会	村農會補助	商工會補助	森林組合	海外協會	女子青年團	青年團補助	婦人會補助	青年學校	教育協會	軍友會補助	國防婦人會	在郷軍人會	兵事支會	慈照會補助	
一〇	一五〇	一〇	一〇〇	二八〇	一〇	三〇	五〇	九〇	九六	一一一	五〇	七〇	三三〇	四八〇	一〇
一〇	一五〇	一〇	一〇〇	二九〇	一〇	三〇	五〇	一二五	八五	一〇〇	二〇	七〇	六八九	八〇九	一〇
〇	〇	〇	〇	△一〇	〇	〇	三五	△三五	一一	一一	三〇	〇	△三三九	△三二九	〇
愛媛縣耕地協會補助	北吉井村農會補助	北吉井商工會補助	北吉井村山之内森林保護組合補助	愛媛縣海外協會補助	北吉井村女子青年團補助	北吉井村青年團補助		生徒訓練服代補助二円四〇錢ノ四〇人分	愛媛縣教育協會補助	北吉井村軍友會補助	國防婦人會北吉井村分會補助	帝國在郷軍人會北吉井村分會補助	北吉井村兵事支會補助	慈照會補助	



歲出合計	臨時部計	小學校		事業費		地方改善		
		地築費	北吉井校舍	事業費	地方改善	地方改善	事業費	
二〇五二五	二二三三三		0	0			0	0
二〇五二五 五六二〇四	二二三三三 三六八三五	北吉井校舍地築費	0	0	北吉井校舍地築費	0	0	0
			110000	110000	北吉井校舍地築費	110000	110000	110000
二五六七九	二四六〇二	△110000	△110000	△110000	△110000	△110000	△110000	△110000

昭和十三年二月二十二日提出

温泉郡北吉井村長

丹生谷

博孝

## 第二章 教育

### 一、學校沿革

學校創始時代ノ記録ガ現存シナイ今日ハ、已ニ傳説ノ境域ニ屬シテ居るの感ガアルガ、古老ノ言ヲ巡リテ見ルニ、寺古屋式教育ヲ改組シテ小學校組織ニ成サレタノハ明治八年ノ頃デアル。大字山之内ニ藤山小學校、大字樋口ニ日吉小學校、大字志津川ニ吉山小學校ヲ設ケテ山之内、樋口、志津川、西岡ノ三區ニ分ケテ就学セシメタノデ、アツタ。然シ當時ハ尚義務教育制デ、ナカツタ爲メ其ノ就学モ自由デアリ、通學植えノ關係等ニ依リテハ、私塾ヲモ認メラレテ居タモノデアツタ。明治二十年教育令ノ發布ヲ見、義務教育ガ唱導サルルニ至リテ近代的學校組織ト成ツタガ其間本村ニ於テハ幾多ノ學校分立集合ヲ見タノデ、今之ヲ表ニ作リテ一覽ノ便ニ供スル。

本村小學校沿革表

明治八・九年頃

明治十二年頃

自明治二十年五月

自明治二十三年五月

至〃二十三年志月

至〃二十五年六月

吉山小學校 (三區)

志津川尋常小學校

志津川尋常小學校

日吉小學校 (三區)

西山小學校 (三區) — 荒木谷簡易小學校

志津川尋常小學校 — 第一荒木谷分教場

藤山小學校 (三區)

藤山小學校 (三區) — 藤之内簡易小學校

志津川尋常小學校 — 第二藤之内分教場

自明治二十五年六月  
至〃三十七年六月

明治三十七年四月三十日

明治四十一年三月改名變更

志津川尋常小學校——志津川尋常小學校

志津川尋常高等小學校——北吉井尋常高等小學校

尋常高等小學校  
尋常高等小學校

第一荒木谷分教場——荒木谷尋常小學校

明治三十七年四月三十日

明治四十一年三月

山之内尋常小學校——山之内尋常高等小學校

第二藤之内分教場——藤之内尋常小學校

分教場

分教場

明治二十六年北吉井、川上、三内、三ヶ村組合川上高等小學校ヲ設立シ大字南方、南昌寺ヲ校舍トシ高等科教育ヲナス、同三十五年廢止シ本村高等科生徒ハ川上尋常高等小學校ニ委託ス同三十七年四月ヨリ旧制高等科一、二學年（現制尋常科五、六年）ヲ本村ニ收容翌三十八年ヨリ現在制ニ成ル

### 二、 歴代校長

古キ時代ハ古老ノ言ニ依リ其ノ他ハ記録ヲ寫ス故ニ中間ガ抜ケタリ書キ落ノアルハ又止ムヲ得ナイノデアル

日吉校——松原 喜観 安岡 文三郎

吉山校——大野 万太郎 関屋 尚久 川島 志摩之助 渡部 正利

荒木谷校

荒木谷校

明治二十九年六月十五日退職 奥平 貞国

自明治二十九年六月二十一日 渡部 久雄

至〃 三十年四月一日 仙波 秀一

自明治三十一年一月六日 至 三十二年六月六日

至 四月二十日 相原 信次郎

藤之内校

自明治二十五年十月一日 渡部 新五郎

至〃 三十年四月六日 自明治三十年四月六日 加藤 弥三郎

自明治三十年六月十日 渡部 助太郎 至〃 六月六日

至

以上中ニ於テハ校長デナイ人ノ姓名モアルコトト思ハル

北吉井校

志津川尋常小學校時代モ含ム

自明治二十五年七月六日 渡部 正利

至〃 二十七年三月七日 自明治二十七年三月七日 細野 詢

自明治三十年五月二十六日 池内 茂 至〃 三十年五月十日

至 中間不明

自明治三十五年四月 山上 嘉太郎

至〃 三十七年三月 自明治三十七年四月 真鍋 圓充

自明治三十八年三月 竹下 延太郎

自明治三十九年十月 西村 稻三郎

至大正二年三月

自大正四年四月八日

八束 壽弘

至〃 九年六月十五日

自大正十一年六月二十七日

渡辺 佐一郎

至昭和三年三月三十一日

自昭和六年三月三十一日

篠崎 覺一郎

至〃 八年三月三十一日

自昭和九年十月三十一日

白形 信一

至〃 十二年三月三十一日

至 昭和十二年三月三十一日

村上 喜代太

至〃 四年三月三十一日

自大正九年六月十五日

永山 庸

至〃 十一年四月二十二日

自昭和三年三月三十一日

山内 良太郎

至〃 六年三月三十一日

自昭和八年三月三十一日

金子 千太郎

至〃 九年九月三十日

自昭和十二年三月三十一日

山之内校

自明治三十五年三月二十八日

花見 常林

至〃 四十年二月二十八日

自大正三年三月三十一日

伊賀 寅五郎

至〃 十二年三月三十一日

自大正十三年三月三十一日

岡山 正利

至昭和四年三月三十一日

自昭和六年三月三十一日

松浦 正美

至〃 十一年三月三十一日

杉原 利三郎

自明治四十一年三月五日

大口 崇賢

至大正三年三月三十一日

自大正十二年三月三十一日

水田 貞四郎

至〃 十三年三月三十一日

自昭和四年三月三十一日

二神 孫太郎

至〃 六年三月三十一日

自昭和七年三月三十一日

自昭和十一年三月三十一日 渡部 常盤 至”

二、現在職員

北吉井校

訓導校長 村上 喜代太

訓導

白石 義貫 二神 政數 松尾 見道 大森 計男 渡部 豊重

専科

大西 シモ 松友 ヨシノ 田井野喜三郎 岡田 進 中矢 理

森 正義 中島 友重 重松 修治 高須賀ヨリ 山田 翠子

丸山 キヨ子 八木 可賀

山之内校

訓導兼校長 渡部 常盤 訓導 長曾我部吉太郎 訓導 高谷 修 代用教員 平松 瑛子

四、學校現勢

北吉井校 (昭和十二年四月三十日現在 學校一覽表参照)

一、在學児童数

男 尋常科 二九三 高等科 八四

女 二六五 六一

計 五五八 一四五 合計 七〇三名

二、學校編成

尋常科一、二年ハ松竹ノ二組宛ニ別ケテ其他學年男女別トナシ全校十六學級トス平均一學級児童数尋常科四六名

高等科三六名ナリ

三、卒業児童現況

	尋常科卒業者		高等科修業者		高等科卒業者	
	男	女	男	女	男	女
卒業者總數	三五	四七	六一	三三	四〇	三四
高等科入學者	三三	三六				
中學校入學者	二		一			
高等女學校入學者		三		二		
實業學校入學者	ナシ	ナシ	三	一	二	二
青年學校他入學者	ナシ	二	ナシ	一	二七	二六
不進學者數	ナシ	六		一	一一	六
四、尋常科卒業者不進學百分比						

男 〇 女 一二、五五

五、児童出缺狀況

	十一年度尋常科出席總數	同欠席總數	高等科出席總數	同欠席總數
男	六九六五四	七八八	二五二七二	二四六
女	六八二一〇	八一六	一六九一五	二四三
計	一三七八六四	一六〇四	四二一八七	四八九

一、十一年度児童出席百分比

	尋常科九八、八八	高等科九九、〇四
男	九八、八二	九八五八
女	九八、八五	九八、八五
計	九八、八五	九八、八五

一、就學児童百分比

男	九九、四九	女	九九、七一
計	九九、六〇		

一、通學區域

大字西岡、志津川、樋口、大字山之内字荒木谷以西

一、通學最遠距離

尋常科 一里二十丁 高等科 一里二十丁

六、學校位置 變遷

自明治二十年五月 至明治三十七年四月 大字志津川下市

自明治三十七年四月 至明治四十二年五月 大字志津川上市

現校舍位置 大字志津川字柑ノ木 大字樋口字前川

一、高等科併置年月日 明治三十七年四月十九日

一、校名變更 明治四十一年二月

一、現校舍新築落成屆提出 明治四十二年五月七日

一、御真影奉載年月 大正天皇 大正四年十月 今上天皇 昭和六年一月

一、獨立奉安所 昭和十一年九月十二日建築

七、兒童貯金

尋常科一〇九三〇、〇八 高等科五二四、二二 計二〇四五四、三〇

一、學校基本財産

山林拾參町六段四畝二十步 價格八千七百圓

八、校地

建築物敷地坪數 七八五坪 屋外体操場二、一二二坪 學校園九〇坪 其他一、〇〇三坪

計四、〇〇〇坪

九、昭和十三年度學校經常費豫算 壹萬三千八百六拾壹圓也

山之内校

昭和十二年度、四月三十日現在

一、在學兒童數

尋常科 九七名

高等科 二五名

計一二二名

一、學級編成

一、學級	二、學級	三、學級	四、學級
尋一、九	尋三、二二	尋五、一五	高一、一四
尋二、二〇	尋四、一四	尋六、一七	高二、一一
計 二九	計 三六	計 三二	計 二五

一、卒業兒童現況

青年學校入學缺當者中

在村者

二二名

中青年學校入學者

二二名

他出者 縣内

一五名

縣内右〃

一三名

縣外

三名

縣外右〃

三名

中學校其他ノ學校入學者ナシ

一、兒童出欠狀況

(出欠百分比)

男 九三、六七

女 八九、八五

計九一、八四

一、就學兒童百分比

一〇〇、〇〇

一、通學區域

大字山之内中、木地、奈良松、馬木、恩地、大野、藤之内、黒瀧、神子野、岡、竹谷、麓、福見

一、通學最遠距離

福見ヨリ學校迄一里半(六軒)

一、校地面積

建物坪數

教室五室 六四、七 其他 建物（住宅ヲ含ム）  
校地合計 九二九、五

一、児童貯金

尋常科九十名 四百六十円 高等科十名 三十八名 計百名 四百九十八円

一、校舍改築年月日

昭和十一年五月三十日落成 學校經常費豫算 参千参百〇壹圓也

北吉井青年學校

一、沿革

大正二年九月十六日創立

北吉井實業補習學校（本校）ヲ北吉井尋常高等小學校ニ併置シ分教場ヲ大字山之内ノ左ノ箇所ニ置ク

神子野分教場ヲ山之内尋常小學校 麓分教場ヲ麓集會所 荒木谷分教場ヲ 荒木谷ニ置ク

大正七年十一月二十八日日本校ヲ分離シテ左記ノ部落別教授ヲナス

樋口分教場 樋口集會所 志津川分教場 志津川集會所

西岡分教場 西岡集會所 横河原分教場 法華説教所

大正九年九月一日山之内分教場ヲ廢シテ單獨ノ山之内實業補習學校ヲ山之内小學校ニ設置ス

大正九年九月一日荒木谷以西ノ各分教場ヲ統一シテ北吉井實業補習學校ト改稱シ北吉井尋常高等小學校ニ設置ス

大正十三年四月專任女教師ヲ聘シ晝間女子部ノ教授ヲ開始ス

大正十五年七月一日男子部ニ研究科ヲ設ケ認定北吉井青年訓練所トシ青年訓練ヲ實施ス

陸軍歩兵小尉 島田要氏ヲ囑託教官トス

昭和十年六月二十四日青年學校令ニ基キ學則ヲ改正校名變更ノ件認可申請ス



一、在學生徒數

在學該當者中他出者 十八名 縣内十五名 縣外三名

入學歩合 一〇〇、〇〇 出席狀況 出席百分比九一、三三

二、學級編成

普通科一、二年 本科一、二年ヲ合シテ第一學級

本科三、四、五年研究科ヲ合シテ第二學級

三、現在職員

助教諭兼校長 渡部 常盤 助教諭心得 長曾我部 吉太郎

教練指導員 森 一 代理渡部 正二 教練指導員 和田 信一

四、昭和十三年度經常費 三百七拾貳圓也

五、學校豫算

前章ニ於テ記載シテ置イタ明治二十六年度歳入出決算表ニ依ル教育費ハ村校ニ於テ四百六拾九圓三拾一錢五厘、組合立高等小學校費用負担學百拾參圓四拾五錢九厘計五百八拾二圓七拾七錢四厘テアル時代ハ進歩シ昭和十三年度ニ置ケル教育費總額ハ左表ノ通りデアル誠ニ隔世ノ感ヲ深クスルしだいである

昭和十三年度學校經常費

前年度

北吉井校負担(本校)	一三〇八六一	一四〇〇二六
山之内校負担(本校)	三〇三〇一	三〇二七七
北吉井青年學校費(本校)	一〇八三一	一〇三四一
山之内青年學校費(本校)	三七一	三四一
義務教育費国庫下度金	七〇〇〇	七〇〇〇

計

二六〇三六五

二六〇〇八五

昭和十三年度本村經常費豫算總額 參萬五百貳拾五圓

同學校經常費本村負担學 壹萬九千參百六拾五圓

本村經常費百圓ニ對スル學校經常費比率 六拾參圓〇八錢

以上ヲ見ルニ如何ニ自治体ガ教育ニ多額ノ出費ヲナシテ居ルカガ想像セラルル若シ此ノ經費ヲ國庫ニ於テ全額負担スルト、ナラバ農村ノ更生ハ推察スルニ餘リアルコトデアル

### 六、學校建築

學校創設時代ノ校舍ハ旧藩時代ノ殿倉等ノ假屋ヲ使用シテ居タガ、タメ學校建築ノ議ハ早クヨリ問題トナツテ居タ本村ニ於ケル最モ古キ記録ハ明治式十九年五月十一日村長和田有詮氏ノ村會提出ニカカル小學校新築議案デアル但シ實現ハ見ナカツタガ其ノ當時ノ規模ヤ情況ヲ知ルニ便テアルカラ其ノ内容ヲ左ニ記ス

志津川尋常小學校新築ノ件

校舍建築坪數 七拾坪 内 六拾坪 生徒貳百人收容教室 十坪 事務室、附屬建物

建築費 四百五十五圓 坪當リ六圓五十錢 百貳拾圓 敷地買入費貳反歩

百圓 但囲ヒ遊戯場仕構 上棟式等雜費 計金六百七拾五圓

附 新築ニ付山之内部落ノ一校ヲ廢シ同部落中央ヨリ以前ハ志津川校へ通學セシム随テ本校位置ハ通學ノ便宜ヲ計リ變更スルモノトス

當時山之内部落ニハ荒木谷、藤之内ノ二校ヲ設置シテ居タ夫テ荒木谷校ヲ廢止スルノ案ガアツタガ此ノ案ハ明治三十七年實現ヲ見、荒木谷ヲ以テ境トナシ竹谷以東ハ山之内校ニ以テ西ハ志津川校ニト通學區域ヲ分ツタノデアルガ志津川校ハ校舍狭ノ故ヲ以テ同年部落字上市ノ養蚕家屋ヲ貸入シ一時ノ仮校舍トナシタノデアル。折柄國運ヲ貼シタ日露戰爭勃發ノ故ヲ以テ諸事緊縮方針ヲ堅持シ學校建築案モ一時中止スルニ至ツタ。當時各村ヲ見ルニ殆ンド新校舍ヲ有

シ新時代ノ設備ヲ有シテ居タガ本村ノミハ旧態依然ノ儘不備ヲ忍ンデ居タノデアアル。夫ニハ外ナラヌ理由ヲ存シ帯ノ如本村ノ地形ヨリシテ位置問題ニツキ上下ノ部落ニ利害ヲ有シ、私情ヲ挾ンデ其決定ヲ常ニ遅延セシメタガ爲デアツタ。山之内、樋口、二部落ハ一時通學児童ノ同盟休校ヲナサシメテ下村ニ對抗スルト旨有様デアツタ。戦後新築案ノ再発シタル時郡長ニ差出シタ位置決定ニ関スル進達書ガ其事情ヲヨク物語ツテ居ルカヲ左ニ記ス。

明治三十七年十一月十四日

志津川校新築地選定委員申請ニ對シ左按副書ヲ進達ス

一、第一一〇三号

別紙村會議員志津川校建築地選定委員ヨリ該地御選定ノ儀申請候處右ハ兼テ御指定ハ相成居候志津川部落字下市ハ狭狹ニシテ生徒収容難致ヲ以テ先年字市頭へ仮校舍ヲ設ケ授業致居候へ共不完全ニ付今般新築ノ儀決議候處大字山之内、藤之内尋常小學校及荒木谷尋常小學校ヲ廢シ更ニ山之内尋常小學校設置以來山之内荒木谷組以西ノ生徒ハ志津川校ニ登校致候ヨリ御指定ヨリ東方ニ選定可致必要モ有之候ニ付村會議員ニ於テ實地ヲ踏査シ別紙略図付ノ箇所ヲ豫選致シ候得共孰レモ一利一害ヲ免カレズ候得バ夫ニ見込ヨ異ニシ決議ニ難至ヨ以テ遂ニ委員ヲ設ケ右選定ノ儀ヨ一任候處各部落民ヨリ私情ヲ以テ種々ノ申立ヲ爲スモノ有之候故或ハ情實ニ流シ偏私ノ選定ニ陥リ他日ノ悔ヲ招カシムコトヲ恐ルルガ爲メ寧口局外者ノ公平ナルニ如カザルヲ知り遂ニ閣下ノ御選定ヲ可迎旨ヲ評決致タル次第ニ有之候就テハ御指定ノ上ハ村會ニ於テモ異議無之筈ニ右之候条御採納ノ上適當ノ地所御指定相成度此段副申候成リ

北吉井村長 武智 樹心

温泉郡長 大道寺 一善殿

位置選定委員八渡部新五郎、和田伍郎、河原次郎、浅井平三郎ノ四氏デアツタ斯テ郡長ノ裁量ニ從ヒ現在地、位置ノ選定ヲ見遂ニ明治四十一年九月校地整理ニ着手四十二年五月七日建築落成ヲ見タノデアアル

北吉井尋常高等小學校建築要項記事

建築關係者 村長坂本 和市 助役 和田 伍郎 校長 西村 稻三郎

建築委員 渡部 新五郎 和田 伍郎 河原 次郎 淺井 平三郎

學務委員 淺井 平三郎 河原 八内 和田 宥詮 渡部 新五郎

村會議員 山内 忠平 伊賀 忠次郎 淺井 平三郎 河原 次郎 島田 富士太郎

武智 百太郎 大西 倭夫 和田 宥詮 和田 伍郎 田中 好五郎

和田 富太郎 加藤 忠平 渡部 庫太郎 渡部 新五郎

請負人 吉田 嘉太郎 專務監督 大西 實太郎

建築經費 積立金 四〇八七四、六〇一 借入金 八〇〇〇〇、〇〇〇

建築豫算 一七〇一三二、一六〇

校地整理 明治四十一年九月起工、同十月竣工

校舍建築 明治四十一年十二月六日起工、同四十二年五月七日落成

同四十二年五月八日落成屆進達

開校式 明治四十二年六月二日

校舍坪數 教室二〇二坪 其他二〇一坪 合計四〇三坪

校地坪數 建築物敷地坪數四〇三坪 屋外体操場坪數一〇〇八坪

其他一〇三九坪 計二〇五〇〇坪

當時ニ於ケル村勢調査

北吉井校建築當時ニ於ケル就学兒童數(四十二年度)

山之内一四二(内北吉井四七) 樋口二一四 志津川一五六 西岡一〇三 横川五二 計五六七名

内高等科生徒八二 内山之内一六

當時本村戸数

山之内一七九(山之内校一三六北吉井校四三) 樋口 本村一二五 横川四五

志津川 本村一七一 横川四四 西岡 一二二 計 六八六

當時人口

山之内八三一 樋口七名名〇 志津川一、〇四一 西岡五三七 計三、一七九

村經常費豫算

五〇八二〇、八二二

二六〇〇三六、九六四

明治四十年度

明治四十一年度

北吉井校 増築

第一回 大正三年九月一日出願

村長 浅井 平三郎

同年九月十六日 認可

知事 深町 練太郎

建築設計 桁行十間

梁間 五間

土間廊下一間

坪数六十坪

建築豫算

選八百十三圓二十錢四厘

着手大正三年九月二十日

落成大正四年一月三十一日

請負人

丹生谷 浦太郎

大工 露口 永太郎

第二回

建築設計

桁行二十間

梁間 五間

土間廊下一間

坪数百二十坪

運動場擴張坪数 千五百坪

起工 大正十五年七月二十七日

落成大正十五年十二月三十一日

建築委員 村長代理助役 藤岡 藤治郎

山内 範平 松末 磨多一 大西 彦知郎 丹谷生 博孝

請負人 坂本 喜市 現場監督 園部 前 大工 水田 卯一郎

### 山之内校

藤之内校、荒木谷校ヲ合併シ山之内尋常小學校ヲ設ケタルハ明治三十七年六月六日デアアル当然直子ニ新築スベキデアツタガ北吉井校ト同様建築ハ日露戦争ノ終局後トナリ認可ヲ得タルハ明治三十九年十月十四日デアアル位置ハ大字山之内神子野ニ選定シタ当時縣廳提出ノ土地状況ハ左ノ如シ

### 山之内校 土地ノ状況

南 四十間ノ松林ヲ隔テ重信川ニ接ス 東 松林及宅地ヲ併セ三十間余ニシテ山林トナル

北 畑宅地二十間ノ外ハ山林トナル 西 松林三丁余ノ外ヲ谷川トナス實ハ究メテ清冽ナリ

風位 午前ハ東風ニシテ午後ハ西風ヲ通例トス

建築坪数 三十三坪 便所 二坪五合

建築委員 渡部 新五郎 和田 伍郎 河原 次郎 浅井 平三郎

請負人 丹生谷 浦太郎

### 第一回 山之内校復築

村長 坂本 和市 建築委員 山内 忠平 河原 次郎 和田 宥詮 渡部 新五郎

### 第二回 改築

經費 七千四百拾圓 起工落成 昭和十一年五月三十日

村長 宮倉 次郎 委員 渡部 熊五郎 伊賀 政二郎

### 七、學務委員

川上村外二ヶ村組合高等小學校議員

河原 八内 渡部 熊次郎 浅井 平三郎 山内 菊郎 田中 良次 武智 京平  
 川上尋常高等小學校 (學務委員)

北吉井村學務委員 (現在迄) 就任者ヲ列記ス  
 大西 喜五郎 浅井 平三郎 露口 惣太郎

渡部 熊次郎	山内 静也	田中 良次	浅井 平三郎	和田 宥詮	渡部 新五郎
大西 喜五郎	河原 八内	河原 次郎	大西 完能	和田 昌義	和田 伍郎
和田 富太郎	野村 耳	山内 範平	露口 守雄	渡部 熊五郎	和田 善次郎
奥村 覺藏	渡部 庫太郎	坂本 和市	藤岡 藤次郎	大西 彦四郎	島田 要
丹生谷 博孝	渡部 盛一	渡部 助太郎	和田 觀平	田中 好忠	中野 清
窪田 知一	岡野 自猛	野村 勤一	松末 磨多一	山内 辰五郎	

### 第三章 兵事

#### 一、兵事支會

日露戦争ノ勃發ヲ見ルヤ統後国民ノ團結奉仕軍隊支援ノタメ設ケラレタル今次事變ノ軍事後援會ノ如キ性質ヲ帯ビタル會ナリシガ戰後解組セラレ平時ヲ於ケル軍民ノ連繫ヲ保持ノ必要上大正四年九月規則改正ヲシテ組織サレタルモノガ次ノ各村兵事支會デアル

其目的トスル所ハ陸軍軍人ノ優待、国民尚武心ヲ振興シ兵役服務者ヲしょうれいするにある。組織ハ各郡ヲ單信トス兵事會ヲ設ケ各町村ニ支會ヲ置キ之等ヲ縣ニ總轄シテ愛媛縣兵事會聯合會ナルモノヲ縣廳内ニ設置シ各兵事會相互ノ連絡ヲ保持シ事業ノ画一ヲ図リ尚武ノ實ヲ擧ゲントスルモノデアル役員ニ支會長、理事、評議員アリ當該町村長ハ支會長ニ推舉セラレ理事評議員ハ支會長ニ於テ囑託又ハ解囑スルモノデアル

本支會ノ經費ハ寄附金又ハ補助金アル時ハ先ヅ充用シ其足ラザルモノハ村稅戸數割ニテ徵收セラレルモノデア  
昭和十三年度ニ於ケル本村支會ノ豫算ハ左ノ如シ

一、金參百參拾圓也

本支會ノ行フベキ事業

一、軍人待遇奨励事業

二、軍隊宿營シタル場合ノ規定

三、現役軍人慰問ノ規定

四、軍人待遇酬勞規定

五、入營入團者ニ對スル餞別旅費等ノ規定

六、簡閱點呼參會者ニ對スル規定

七、戰時事變ニ於ケル應召者ニ對スル規定

等ノ諸規定ニ基キ本會事業ノ目的達成ヲ図テ居ル大正九年迄二三回ノ規則改正ヲ見タルガ今次事變ニ際會シテハ其事  
變ノ重大性ニ鑑ミ本會ノ内容ノ擴充強化ノ必要アルヲ以テ別途ニ軍事後援會ヲ組織シ總動員ノ形式ニテ本會ノ事業ヲ  
其方ノ手ニテ處理致シテ居ル故ニ兵事支會ハ最早用ナキ會ノ如ク見受ケラレルガ元來軍事後援會ナルモノハ諸團體ノ  
連合体ナルヲ以テ軍事ニ關スル諸般事業ノ主体ハ依然トシテ兵事支會ニ在ルモノト見ルベキデア

二、現役軍人

陸軍ノ部

現役軍人	住所	家	族	現役軍人	住所	家	族	現役軍人	住所	家	族
岡田房次郎	志津川	岡田	馬藏	武智陽次郎	志津川	武智	次郎	和田	義雄	樋口	和田孫三郎
奥村 忠	西岡	奥村	覺藏	和田 明	志津川	和田	禎助	松本	進	西岡	松本 ツヤ
今井 昇	志津川	今井	關次	丹生谷研作	西岡	丹生谷	篤一	泉	辰雄	志津川	泉 一枝
奥村 重二	樋口	奥村	好太郎	篠森 光雄	志津川	篠森	トメ	渡部	安雄	山ノ内	渡部鬼子夫
和田半次郎	樋口	和田	龜吉	松本 秀雄	西岡	松本	定市	形上	昇	樋口	形上 照次
和田 章範	樋口	和田	龜太郎	加藤 良雄	山ノ内	加藤	淺次郎	中野	忠良	志津川	中野 清

海軍ノ部

武智 殿雄	志津川	武智八九郎	岡本 寛一	西岡	武智卯太郎	吉川啓次郎	志津川	吉川高太郎
岡本 三郎	西岡	岡本聡次郎	山本 数雄	樋口	山本 隆三	青野 忠夫	志津川	青野 喜作
松本 保	志津川	松本安太郎	和田 好範	山ノ内	和田菊五郎	大石 龜雄	山ノ内	大石 兼吉
中村 虎一	志津川	中村卯太郎	仙波 茂	西岡	仙波 重十	山内 丹一	西岡	山内 元太
野間 時一	志津川	野間 源造	丹生谷馬左太	西岡	丹生谷篤一			

現役將校

陸軍砲兵中尉 武智 弘

陸軍機関中佐 松末 元完

海軍主計少尉 高橋 久信

昭和十二年度現役兵数 陸二〇名

海一五名

昭和十三年度現役兵数 陸三志名

海二三名

昭和十二年度壯丁数 五八名

昭和十三年度壯丁数 六一名

昭和十三年度海軍志願兵 四名

### 三、在郷軍人会

在郷軍人会ハ日露戦争後国防軍ノ組成ニ関シ大戦ノ経験ニ基キ研究ノ結果全国的ニ設置セラレタモノデアツテ本村ニ於テハ砲兵軍曹山内辰五郎氏初代会長ト成ツテ明治四十一年北吉井村在郷軍人分会ナルモノガ組織サレタモノデア  
ル軍ニ於ても聯隊区司令部其衝ニ當リ在郷軍人ノ軍事知識ノ向上軍人精神ノ涵養ニ意ヲ用ヒ着々會其モノノ強化團決  
ヲ図リ軍ニ在リテハ忠勇ナル臣民タルベキ良兵良民ノ二大目的ノ下ニ發展セシメタノデアツタ、大正三年漸ク在郷軍  
人会ノ全国的組織整備セラルルヲ待ツテ大元帥陛下ニハ勅諭ヲ下シ置カレテ在郷軍人ノ向フベキ所ヲ明示セラレタモ  
ノデアツタ翌大正四年全国ノ在郷軍人会支部ハ役員ヲ選拔東京ニ参集セシメ宮城ニ重橋前廣場ニ於テ在郷軍人会ノ結  
成式ヲ舉行シタ本村分会ヨリハ二代分會長海軍一等兵曹和田昌義氏ガ参列ノ光榮ニ浴シタノデアツタ大正六年七月分  
會旗ヲ購入シ旗ノ下ニ一致團結ノ奉公ヲ宣シ昭和三年今上陛下御即位ヲ御慶祝申上ゲンガ爲メ全国ノ分会ハ東京

ニ參集シ陛下ノ御親閱ヲ辱フシ奉公誠忠ヲ盟ヒ奉々本分會ヨリハ三代分會長砲兵伍長藤岡五郎一步兵伍長和田菊平氏ノ兩氏參列シ我分會旗ヲ奉ジテ陛下ノ萬歳ヲ壽ギ奉々

來今日ニ及分會長陸軍歩兵少尉島田要氏統率ノ下ニ事変下ノ重大ナル統後ノ任務ニ服シ在郷軍人會ノ真意ヲ發揮シツツアルノデアル

二、分會ノ行事

毎年役員會協議ノ上行事豫定表ヲ作成シ着々実施計画ヲ立テ居ル昭和十二年度ニ於ケル行事予定ノ概要ヲ左ニ記ス

行 事		行 事	
四月	天長節拝賀式參列	十月	招魂祭參列
五月	末教育補充兵營内宿泊 海軍記念日祝典	十一月	退營兵歡迎
六月	壯丁予習教育 徴兵検査立會	十二月	青年學校參觀
七月	在營兵慰問 簡易點呼予習教育	一月	新年拜賀式參列 入營兵見送
八月		二月	紀元節拝賀式參列
九月	温泉郡聯合分回武道競技會	三月	陸軍記念日祝典 總會 入退會式 戦病死者墓參

昨年度ハ折柄日支事變ノ勃發ヲ見タノデ右予定表ハ臨時取捨セラレ動員事務、應招者見送、軍事公用者遺家族慰問、慰安、吊慰等軍事後援會ヲ指導シ統後事務ニ忙殺サレタノデアツタ

三、基本財産

分會長藤岡藤五郎一氏就任時代村有財産山林ノ内分會ハ分讓ヲ交渉シ御大典記念トシテ植樹ヲヒ基本財産ニ充當致スバク時ノ村長和田伍郎氏ニ斡旋致シタル結果分讓ヲ受ケ契約ヲ了シタ、其地所左ノ如シ

位置 温泉郡來た吉井村大字山之内字東河原樋乙老千百六拾九番地

基帳面積 參町參反五畝貳拾壹步 実測面積 同

契約 大正十四年一月十日ヨリ昭和五十年一月九日ニ至ル五十年間

右期間ヨ一代期間トシ土地所有者ニ於テ施業ノ都合ニ依リ随意伸縮スルコトヲ得

大体右ノ如キ契約ニテ其間ノ納稅義務ハ村負担トシ植樹手入等施業上ノ事ハ在郷軍人分會ニ責任ヲ持チ利益金ハ切半トスル等綿密ナル事項ヲ具シ昭和二年九月十二日契約ノ締結ヲ了シ村長和田伍郎氏分會長藤岡五郎一氏契約書ヲ取替シタルモノデアアル植付八分會各班之ニ奉仕シ大正十四年二月三日ヨリ植付ヲナシタルモノデアアル 別二

基本金八百九拾七圓

右八分會員ノ道路工事、横河原治水工事等ノ請負勞力奉仕ニヨリ基金ヲ作り蓄積利殖ヲナシ昭和十二年度ニ於テ右記額ニ達シタルモノデアアル

四、組織

一、歴代分會長

陸軍砲兵軍曹 山内 辰五郎 海軍一等兵曹 和田 昌義

陸軍砲兵伍長 藤岡 五郎一 陸軍歩兵少尉 島田 要

二、班ノ設置

第一班 山之内(竹谷以東) 第二班 山之内(荒木谷以西) 第三班 樋口

第四班 横河原 第五班 志津川 第六班 西岡

三、現在役員

分會長	後備役陸軍歩兵少尉	島田 要	副會長	後備役陸軍上等看護卒	和田 忠良
理事	陸軍歩兵伍長	武智 良弥	理事	陸軍輕重兵伍長	丹生谷良一
監事	陸軍歩兵軍曹	森 一	監事	陸軍歩兵上等兵	桐山 常修
評議員	予備役陸軍歩兵上等兵	渡部 鬼子男	評議員	予備役陸軍歩兵一等兵	渡部 正二
	陸軍歩兵上等兵	和田 信一		後備役陸軍歩兵上等兵	和田 貞利

評議員	補充兵役陸軍歩兵	和田 健良	評議員	予備役陸軍歩兵上等兵	山内 稔
	陸軍輕重兵	入木 政行		後備役陸軍砲兵一等兵	和田 胤一
	後備役陸軍歩兵伍長	武智 茂		陸軍歩兵伍長	奥村 實
	陸軍歩兵上等兵	山内 進		補充兵役陸軍歩兵	渡部 久弘
	陸軍歩兵上等兵	大西 章			

四、分會員

在籍人員 一九九名 現在住員 一四七名 既教育員 五四名 未教育員 一四五名

五、既教育兵

歩兵少尉五名 歩兵準尉二名 下士官一三名(憲一、衛生一、主計一、輕一步九)

兵八二名(歩四四、騎一、砲一〇輕二五、電信二) 計一〇〇人

以上八本村出身者調ニテ他郷移住、轉籍者モアルガ故ニ在郷軍人在籍数トハ合致セス

四、軍友會

非常時局下ニアツテ退役軍人モ安閑タルヲ得ズ全国的ニ再度奉国ノ熱意ニ燃エ銃後國民トシテ一大團結ヲ叫ビ在郷軍人會ト並行スルノ意氣ヲ以テ各支部ニ結成ヲ見タノデアル

本村ニ於テハ昭和十二年三月十日陸軍記念日ノ佳節ヲトシテ役場會堂ニ結成式ヲ挙擧ゲ會長奥村覺藏氏就任セシモ老体ナルヲ以テ間モナク辭セラレタルヲ以テ退役砲兵伍長藤岡五郎一氏就任ス會員百三十名

海軍々友會モ同年五月二十七日會員拾四名ヲ以テ結成シ會長トシテ退役海軍一等兵曹和田昌義氏就任ス

同年十月七日海軍々友會ハ佛敎團ノ後援トシテ高松海軍人事部長海軍大佐畠山耕一郎氏ヲ招待シ北吉井小學校ニ於テ時局講演會ヲ開催シ銃後村民ニ多大ナ肝銘ヲ與フル所ガアツタ同年十二月二十日海軍々友會ハ、軍事公用者遺家族慰安ノタメ横川公會堂ニ於テ浪花節會ヲ開催シタ

十三年三月十日軍友會ハ第二回聯會ヲ本村役場會議室ニ執行シ時局柄更ニ結成ヲ確タル所アツタ  
同年五月二十七日日本村軍事後援會ハ戰没者慰靈祭ヲ北吉井校ニ於テ神佛兩式ニテ行フ所アツタガ海軍々友會ニ於テ  
ハ式後日本海々戰ヲ追憶シ會規ヲ變更シ益々結成ヲ堅メタ

## 五、軍事後援會

支那事變ハ東亞永遠ノ平和樹立ヲナサントスル我國最高ノ國策顯現ニシテ微妙ナル國際關係ノノモトニ聖戰ヲナサ  
ントスルニアルガ故、舉國一致ノ戰時體勢下ニアツテ銃後國民ノ緊密ナル協力ヲ要スルノデアル事變ノ勃發ト同時ニ  
上ハ政府ヨリ下自治體ノ國家細胞ヲ動員シテ軍事後援會ナルモノヲ設立シ一線將兵ヲシテ後顧ノ悠ナカラシメ且ツ聖  
戰ノ目的貫徹ヲ期シテ居ルノデアル本村モ縣ノ指示ニ基キ昭和十二年九月四日本村役場ニ關係者ノ集合シ村内各種團  
體ノ密接ナル連繫ノモトニ軍事後援會ノ設立ヲ見タノデアル

目的トスル所ハ軍事公用者並ニ遺家族ニ對シ慰藉及扶助ヲナスニアリ其事業トシテ生活ノ扶助、勞力奉仕、出征者  
ノ慰問、傷病兵士ノ慰藉、祈願祭、慰安會等、萬遺漏ナキヲ期シ銃後ノ團結ヲ堅メルニアルガ夫ガ事業達成ノタメモ  
千六百圓ノ一般村民ノ寄附ヲ仰ギ向フ一ケ年ノ豫算ニ充當シ本會ハ昭和十二年九月一日ヨリ事變終了ニ至ルマデ繼續  
セラレルコトトナツタ

右事業中間報告トシテ昭和十三年四月八日會計報告アリ生活扶助延人員二十四名ヲ始メ、慰問袋發送、慰問金支出  
慰安會、吊慰金、留守宅慰問費等ノ報告アリ殘餘金ハ信用組合へ當座預金トシテ長期戰ニ適應スベク銃后ノ對處策ヲ  
立テテ居ル

尚右軍事後援會ト並行シテ本村ハ昭和十二年末方面委員ノ設置ヲナシ宮田仰順（山之内）岡宮自猛（樋口）鐵宮道  
範（志津川）野村勤（西岡）岡山正利（横川）ノ五氏夫々担任ヲ分チ軍事扶助法ノ徹底ヲ期シ出征者留守宅訪問等ヲ  
ナシテ生活狀態ノ調査ヲ爲ストコロアツタ

事變關係トシテ此ノ外二本村ニ於テハ昭和十二年十月二十五日北吉井村綜合委員會ヲ開催シ役場ニ於テハ委員ノ囑  
託ヲナシテ國民精神聽動員ノ旨ヲ體シ運動ノ實施申合事項ヲ選定シ村民ノ精神的緊張ヲ促シタノデアル

此ノ外本村国防婦人會ハ事變當初ニ於テ會員各戸ニ糧秣（マクサ）ノ調製献納ヲナシ且ツ毎月ノ慰問袋製作ニ従事スル等婦人トシテノ奉仕ニ専念ヲシタ

其他神社佛閣ニ於ケル武運長久戰勝祈願祭ヲ舉行スル等精神誠意ノ奉仕ヲナシタ、以上簡單ニ軍事後援會事項ニ附記シテ今次事變統後奉仕ノ一端ヲ記載シテ置ク事ニスル、尚事變ハ第三段階ニ入りタリト雖モ末ダ終局ニ至ラズ各種ノ事業記録モ其ノ中途ニ属スルモノナルガ故ニ何レ將來ノ補正ヲ待ツコトニスル

### 六八、出征事項

#### 一、出征者数

古イ所ハ記録ガ発見サレナイノテ誠ニ遺憾デアアルガ将来補訂スルコトニシテ記録ノ存ズルモノノミヲ記載シテ置ク  
日露戦争以後ニ於ケル出征者数ハ左ノ如シ

日露戦争	明治三十七、八年	一二二人	日獨戦争	大正三年	八人
西伯利亚出兵	大正八年	一七人	上海事變	昭和七年	八人
支那事變	昭和十二年應召者	八八人			

#### 二、戦病死者名

戦争	階級	姓名	戦争	階級	姓名
西南役(三陸十志)	歩兵一等卒	和田 半次	日清戦争		
日露戦争	陸軍歩兵大尉	白戸 浅次	日露戦争	陸軍歩兵曹長	大西 藤吉
〃	〃 歩兵上等兵	黒瀬 吉助	〃	〃 歩兵一等卒	西原覺二郎
〃	〃 歩兵一等卒	和田 半次	〃	〃 輕重輸卒	和田馬太郎
〃	海軍三等兵曹	清水作十郎	〃	海軍三等機関兵曹	末光 作郎
西伯利亚出兵	陸軍歩兵上等兵	武智喜佐雄	支那事變	陸軍歩兵伍長	武智 治隆
支那事變	陸軍歩兵伍長	佃 登	〃	〃 歩兵上等兵	渡部 常治

陸軍歩兵上等兵	和田半次郎	陸軍歩兵上等兵	岡本周次郎
輕重上等兵	中村明		

三、支那事變應召者

大字山之内

杉原 猛	渡部 常次	鈴木 友一	渡部 陸蔵	渡部 正二	渡部 鹿	武智 勝
和田 唯一	渡部 義弘	清水 栄三郎	渡部 明	鈴木喜佐太郎	川村長三郎	杉原 嘉助
和田高 稔	加藤 荒一	森 一	仙波 時清	渡部 市郎	渡部 穰夫	和田 満重
加藤 正良						

大字樋口

和田 清美	恒岡 定俊	恒岡 利市	渡部 一夫	渡部 栄	佃 登	田中 良雄
水田 宥海	近藤 照元	佐伯 弥蔵	渡部長太郎	徳永 亨	尾崎 春見	

横河原

清水 政隆	篠原 好行	日野喜四郎	和田 照一	近藤 鶴市	八木 正行	和田 完一
佐伯 進	長谷川利春	大西 寅一				

大字志津川

和田 完二	森 勝茂	武智 治隆	松本 茂	玉井 満利	池川光五郎	池川 明
井上 長久	中村 明	笠松 春市	増田 正一	渡部 磯雄	武智 鶴男	船田 武一
武智與太郎	岡本 盛一	岡本 又市	松本 實			

大字西岡

和田 盛	木村多久間	山内 三夫	山内 進	丹生谷鬼子雄	大窪 正夫	大熊 章
------	-------	-------	------	--------	-------	------

山内 元太	岡本周次郎	和田喜與志	仙波 重十	山内 善一	渡部 常行
奥村 實	宮本 明				

七、防空

近代戦ノ特色ハ化學兵器ノ發達ニアル。特ニ飛行機ノ異状ナル發達ハ戦争ノ慘戦ハ戰場ニ限ラズシテ交戦国ノ都市  
 爆激ヲ以テ銃後非戦闘員ノ戰意消滅ヲ企図シ人道上カラ見テモ之ヲ放置スベカラザルモノト成ツタ。故ニ防空ハ一般  
 將兵ノ一線奮闘ト共ニ銃後国民ノ等閑シ能ハザル重大事ナルヲ以テ政府ハ昭和十二年四月五日法律第四十七号ヲ以テ  
 防空法令ヲ出シ都市ノ守リヲ堅クナサシメンガ爲メ、燈火其他ノ統制ヲ計リ、平時ヨリ防空訓練ヲ要所ニ執行致シツ  
 ツアツタガ日支事變ノ勃發ト共ニ愈々本格的防空設備ヲ施シ国民ヲシテ訓練シ防空知識ノ涵養ニ盡瘁致スコトナツ  
 タ。當地方ハ中部防衛司令部管区内ニ属シ其訓練ヲ受クル事トナツテ居ル。其一般の警戒通達ハ、ラヂオ、電話電信  
 警鐘等ニヨリ一般ニ急報致スガ、一致團結ヲナサザレバ一人ノ不注意ニ依リ警戒ノ効ヲ失フコトアルヲ以テ、充分ナ  
 ル演習ヲ繰リ返シ實施致サネバナラス。依テ本村ハ昭和十二年十一月二十日村内關係者ヲ役場ニ招集シ防空法令施行  
 後最初ノ聯合防空訓練實施ニ對スル打合會ヲ舉行シ、北吉井村防空規定ナルモノヲ設定シ之ヲ施行シタ。

第一回訓練ハ十一月二十三日ヨリ二十五日迄施行セラレ第二回ハ十三年四月二十二日二十三日ノ両日ニ行ハレ特ニ  
 警報ノ聴取、傳達ノ訓練ヲ施行セラレタ、之等ノ關係書類ハ後ニ添附シ置ク

尚村内關係者ハ村當局ヲ始メ警察官各種團體長郵便局長等デアル

北吉井村防空規定

第一條 本規定ハ防空法關係法令及愛媛縣防空實施計画ニ基キ戰時事變ニ際シテ本村防空ニ関スル細部ノ事項ヲ規  
 スルモノトス定

第二條 本村ノ防空ハ本規定ニ基キ實情ニ則スル如ク細部ノ計画ヲ作製シ之ガ準備ヲ爲シ實施ニ際シテ遺憾ナキヲ

期スルモノトス

### 第三條

本村防空實施ノ爲メ委員ヲ設ケ防空ニ関スル諸般ノ業務ヲ指揮監督スルモノトス其ノ編成左ノ如シ

委員長 村長 副委員長 助役

委員 警察官吏 各部落聡代 在郷軍人分會長 青年學校長 消防組頭 青年團長 軍友會長

海軍々友會長 郵便局長 国防婦人分會長 女子青年團長 役場吏員

### 第四條

防空ハ概不左ノ範圍ニ於テ實施スルモノトス

一、防空監視及情報ノ蒐集傳達

二、燈火管制及防護ノ實施

三、其他臨機指示セラルル事項

### 第五條

本部ヲ本村役場打ちニ置ク

分團ヲ別表第一(ハ)ノ如ク設クルモノトス

### 第六條

各分團ハ情報傳令者トシテ自轉車携行者二名ヲ警戒警報後直チニ本部ニ差出シ置クモノトス

但分團本部ニ電話ノ架設アル場合ハ前項傳令ハ差出スニ及バズ分團本部ニテ受信係トシテ報務セシムルモノトス

### 第七條

燈火管制ハ警戒管制、非常管制ニ區分ス之カ實施方法ハ別表第二ニ依ルモノトス

### 第八條

燈火管制ハ各個ニ行フヲ本則トス

各個ニ實施スル方法ハ個人毎ニ消燈隱蔽滅光及遮蔽等各種ノ手段ニ依リ上空ニ對シ燈火、火焰其ノ他ノ光ヲ秘匿スルモノトス其ノ程度及實施ノ方法ハ別表第三ニ依ルモノトス

### 第九條

防護トハ敵航空機ノ來襲ニ際シ必要ナル警報傳達燈火管制實施ノ補助、消防、防毒、救護、避難、交通整理、工作、配給等ノ諸作業ヲ聡稱ス

其ノ目的ハ敵機ノ攻撃ニ對シ其ノ被害ヲ豫防輕減シ以テ村民ノ生命財産ノ保護ヲ完全ナラシム

- 第十條 防護ノ實施ニ付テハ別表第一ヲ以ツテ防護團ノ編成ヲ爲ス
- 第十一條 防護團員ハ各所屬團體正規ノ服裝ヲ着用スルモノトス
- 第十二條 團員ノ行動區域ハ村内ニ限ルヲ原則トシ隣接地區ト連繫行動ノ必要アル場合ハ臨時指示スルモノトス
- 第十三條 防空實施ニ要スル經費ハ村ニ於テ負担スルモノノ外各部落ノ負担トス
- 第十四條 防空法ニ基ク防空訓練ハ本規定ニ據リ之ヲ實施スルモノトス

附則

本規定ハ昭和十二年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

別表第一

委員編成表 (防護團)

- 一、委員ハ本部並ニ分團ニ區分シ其ノ編成左ノ如シ  
(イ) 防空委員本部編成(防護團本部)

委員長 團長	副委員長 副團長	委員	任務
村長	助役	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、警察官吏 一、青年學校長</li> <li>一、在郷軍人分會長 一、消防組頭</li> <li>一、軍友會長 一、海軍々友會長</li> <li>一、国防婦人分會長 一、郵便局長</li> <li>一、男女青年團長 一、各部落聡代</li> <li>一、役場吏員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、委員長ハ燈火管制防護全般ヲ統轄ス</li> <li>二、副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アル場合ヲ代理ス</li> <li>三、委員ハ委員長ノ指示ヲ受ケ一般業務ニ從ヒ各團體長ハ所屬團體員ヲ指揮監督シ各分團ノ連繫ヲ緊密ナラシム</li> </ul>

(ロ) 同分團編成表

分團長 (部落總代)	警報班	交通整理班	班長	班員ノ數ハ分團地域ノ狀況ニヨリ分團長之レ ヲ決定ス
副分團長 (同代理)	監視班	防火班	各一名	
	救護班			

一、分團長ハ委員長ノ指示ヲ受ケ分團ヲ指揮監督ス、  
(ハ)分團ヲ左表ノ通設置ス

分團名	地 區	分團長	副團長
第一	山之内ノ第二分團地区ヲ除ク	部落總代	山之内青年學校職員
第二	山之内荒木谷以南	〃	部落總代々理
第三	樋口	〃	〃
第四	横河原	〃	〃
第五	四津川	〃	〃
第六	西岡	〃	〃

別表第二

燈火管制

燈火管制ハ左ノ二ツニ區分ス

	期 間	目 的	警報ノ種類
警戒管制	敵機ノ來襲ヲ豫期スル時期より敵機ノ空襲ヲ受クル顧慮消失スル迄継続実施ス	飛行ノ準備トナルベキ中間要部発見ヲ困難ナラシム	警戒警報ヲ発ス 別表参照
非常管制	敵機ノ來襲ヲ確知シ其ノ空襲ヲ受クル危険ニ臨ミタル時機ヨリ敵機退去スル迄實施ス	敵機ニ対シ全ク火光ヲ秘匿シ要地発見ヲ困難ナラシム	空襲警報ヲ発ス 別表参照



## 北吉井村防空實施計画

本計画ハ北吉井村防空規定ニ定ムル事項ノ外尚細部具体的方法ヲ計画ス

### 一、警報傳達ニ関スル件

警報受領場所（役場）ニ於テ警報ヲ受領セバ直チニ各分団ニ対シ傳令ヲ以テ傳達ス

打鐘信號ハ防空規定信号ニ依ル、各分団ニ於テハ警報班員ヲ以テ各部落警鐘ニヨリ傳達スルト共ニ警報班員ヲ以テ一般ニ傳達ス

分団ニ於ケル規定ハ別ニ定ム

### 二、燈火管制ニ関スル件

#### 1 各個管制

個人毎ニ消燈隱蔽制限等ニヨリ上空ニ対シ火光ヲ秘スルモノトス

監視員ヲシテ實行ヲ促サシム

2、街燈、社寺燈、常夜燈警鐘燈其他個人ニ屬セザル燈火管制

（イ）社寺ノ管理者ト連繫ヲトリ所在地監視員ヲシテ管制セシム

（ロ）警鐘台ノ燈火ハ所在地消防組員

（ハ）街燈、常夜燈其他直接管理者ナキ燈火ハ其ノ所在地監視員

### 三、一般交通燈及其他燈火管制

自轉車燈及個人ノ通行用燈火及其他燈火ノ管制ハ防空規定別表第三ノ通りトス

### 四、防護警報

防護警報ハ敵機ガ爆彈ヲ落シタ爲メ火災發生ノ時又ハ瓦斯攻撃ヲ受ケタル場合發セラレル警報デ火災警報瓦斯警報ニ分ル

1、火災警報 平常ノ規定ヲ準用スルモノトス

## 2、瓦斯警報

瓦斯彈ヲ落サレタル場合又ハ飛行機カラ毒瓦斯ガ撒カレタル時直チニ發セラレ毒瓦斯ガ吹流サレテ終フカ被害地ニ立入禁止ノ処置ガ出来テ毒瓦斯ノ危険ガナクナレバ解除セラレル此警報ハ割合短時間實施セラルルノガ普通トス又餘リ廣範圍ニ傳達スルノ要ナク、又空襲警報ト混同スル處アルヲ以テ太鼓拍子木、空鐘等ヲ以テ報知ス

発第三十九五號

昭和十二年十一月二十二日

北吉井村長 丹生谷 博孝

和田 畢義殿

来ル二十三日ヨリ實施ノ防空訓練ニ於ケル本部員ノ分担業務左記ノ通ニ付キ服務相成度

追而、服務期間ハ警戒警報時ヨリ警戒警報解除迄トシ所管團體ノ統制的指揮監督ニ當ラレタシ

一、團長 村長

二、副團長 助役

一、警報係 島田 要、村上 喜代太、坂本 良雄、八木 利雄

一、交通整理係 佐伯 民助、恒岡 多喜男、藤田 良二郎

一、監視係 和田 昌義、和田 四郎、橋 延四郎

一、防火係 藤岡 五郎一、丹生谷 良一

一、救護班 露口 ヒサ、管野 龜乃、和田 豊三郎

尚訓練實施中ノ各分団本部並ニ警報受信所左ノ通り

分団名	分団本部所在	分団警報受信所
北吉井村防護團	北吉井村役場	同上 電話横河原一番
第一第二分團(山之内)	山之内木炭組合	同上 二番
第三分團(樋口)		後二通知スル
第四分團(横河原)	横河原佐伯運三宅	同上 電話横河原六番
第五分團(志津川)	志津川公會堂	志津川大西彦四郎宅電話横河原一七番
第六分團(西岡)	西岡協議所	西岡野村宅電話横河原二七番

発第三一八六號

昭和十二年十一月二十二日

北吉井村村長 丹生谷 博孝

各分團長殿

各班長 殿

防空訓練ニ関スル件

今回實施ノ防空訓練ニ際シ追信用並ニ軍用統監部用警察用等自動車類ノ燈火管制ニ就イテハ左ノ通承知相成度

記

一、軍用自動車、統監部用自動車、警察自動車、救急用自動車、省營バス、ハ非常管制中ト雖モ警戒管制ノ程度ニ依ルコトヲ得前項ノ自動車諸ニハ前照燈二次ノ標識ヲ附ス

イ、軍用自動車



ロ、統監部用自動車



ハ、警察用自動車



救急用自動車



ホ、通送用、郵便配達用、電報配達用及電信電話障礙修理用車輛燈ニ限リ警戒非常面管制ヲ通シ前照燈硝子面ニ布又ハ色紙(紫色、青色又ハ緑色)覆ヒ相當光力ヲ減シ且表面ニ干ノ記号ヲ赤色ヲ以テ表示ス

ハ、省營バス二八前照燈警戒管制時ハ黒布一枚ヲ非常管制時ハ黒布二枚ヲ以テ覆ヲナシ工ノ記号ヲ表示ス

尚◎二十五日夜間ハ街路燈類門(軒)燈類其ノ他屋外燈類(但シ標識燈類及屋外作業燈類ヲ含マズ)ヲ警戒

警報發令ニ先チ豫メ消燈スルコト

◎二十五日夜ノ十二時迄(訓練終了迄)警戒管制ヲ継続シテ實戰敵訓練ヲナスコト

◎訓練開始以後訓練終了迄空襲ニ關スル警報(發令及解除共)及防護警報類似ノ音響ヲ一般ニ禁セシメラ  
レタシ

### 防空訓練計画要綱

#### 第一章 總則

#### 第一訓練目的

防空計畫ニ基キ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ迅速確實ニ傳達スルコトヲ主眼トス

#### 第二訓練地域(沿岸水域ヲ含ム)

静岡縣 岡山縣 三重縣 岐阜縣 島根縣 富山縣 香川縣 和歌山縣 福井縣 高知縣 滋賀縣 愛知縣  
鳥取縣 京都府 奈良縣 大阪府 石川縣 徳島縣 兵庫縣 愛媛縣

#### 第三訓練日

自 四月二十二日 至 四月二十三日 二日間

#### 第四統監及連絡廳

本防空訓練ノ統監ハ内務大臣トシ府縣内ノ訓練ニ關シテハ知事ヲ府縣統監トシ訓練ノ指導統制ニ任ス

本訓練ニ對シテ大阪府廳ヲ連絡廳トス

#### 第五陸海軍ノ指導

中部防衛司令官ハ全般及第四師団管内ノ又第三第九第十第十一第十六師団長ハ夫々師管内ノ防空訓練(海軍ノ指導

擔任ノ範圍ヲ除ク）指導ニ任ズ横須賀鎮守府司令長官、吳鎮守府司令長官、及舞鶴要港部司令官ハ夫々防空擔任區域内ノ防空くんれんの指導ニ任ス

## 第二章 實施要領

### 第六訓練豫定行事左ノ如シ

四月二十二日

- 一、警察電話ノミニヨリ市町村ニ至ル迄ノ警報傳達（第一回）
- 二、通信電話及鉄道電話ノミニ依り市町村ニ至ル迄ノ警報傳達（第二回）
- 三、警察電話ノミニ依り各個人ニ至ル迄ノ警報傳達（第三回）
- 四、通信電話及鉄道電話ノミニ依り各個人ニ至ル迄ノ警報傳達（第四回）
- 五、各種傳達方法ヲ総合シ各個人ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達（第五回）

四月十三日

- 一、各種傳達方法ヲ総合シ市町村ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達（第六回）  
但し ラジオ及都市特設音響警報機ニ依ル警報ヲ除ク

- 二、各種傳達方法ニ依り各個人ニ至ル迄ノ最モ迅速ナル警報傳達（第七回）

第七防空警報ハ訓練空襲警報及訓練空襲警報解除ノミヲ発スルモノトス

第八第一日第一回ノ警報発令時刻ノミニハ豫メ之ヲ概示スルモ其ノ他ハ隨時之ヲ発ス

第九警報ニ関スル必要ナ規定ハ別ニ示ス

第十訓練實施要領ノ細部ニ関シテハ必要ナル範圍ニ別ニ示ス

第十一警報ニ應スル燈火管制防護団（警報班ノ活動ヲ除ク）等ノ動作ハ之ヲ行ハサルモノトス

## 第三章 訓練成果ノ調査及報告

第十二各府縣知事ハ訓練間毎日警報毎ニ左記事項ヲ調査シ逐次四月末日迄ニ

通ヲ統監部ニ報告スルト共ニ關係

陸海軍司令官ニ通報スルモノトス

及 要点ノミハ翌日中ニ速報ヲ要ス

左記

1、傳達系統 2、傳達機關 3、傳達方法 4、傳達所要時間

5、傳達特ニ迅速又ハ遅延セル時間及其ノ事由 6、傳達漏又ハ著シク遅延セル場所及其ノ事由

7、傳達機關整備状況ノ傳達速度ニ及ぼせる状況 8、傳達成早ムノ所見

9、實施ニ鑑ミ将来ノ爲ノ意見 (傳達系統機關方法施設、訓練要領其ノ他ヲ含ム)

市町村長ハ右ニ準シ府縣知事ニ對シ調査報告スルモノトス

警察署長ハ右報告ヲ取纏メ知事ニ報告スルモノトス

第十三警報ノ徹底ノ確否ヲ點檢シ且前項ノ調査ヲ行フ爲メ府縣市町村大事業所ニ於テ所要ノ調査員ヲ設クルモノトス

第十四前項ノ點檢調査ハ主トシテ警察官市町村吏員之ニ當リ防護団家庭防空組合長青年団學校生徒其他ノ団体ハ之ヲ

補助スルモノトス之ガ爲メ市町村長ハ警察署長ト密ニ連繫協力スルモノトス

第十五調査及報告ノ細部ニ關シテハ警報傳達調査要項ニ依ルモノトス

#### 第六章 經理其ノ他

第十六本防空訓練ノ準備及實施ニ要スル經費ハ關係各官公衛及団体自ラ夫々其ノ所要經費ヲ負擔スルモノトス

第十七關係各官公衛団体ハ本訓練ノ準備及實施等ニ關シ連絡ノタメ主任者ヲ定メ之ヲ連絡廳ニ通知スルモノトス

連絡廳ハ之ヲ一表トシ關係各方面ニ通知スルモノトス

第十八ラジオ放送ハ左ノ如ク實施ス

四月十九日 防空訓練ノ主旨 四月二十二日及二十三日 毎日數回時報

四月二十二日及二十三日 隨時訓練空襲警報

第十九訓練關係者及其他必要アルモノハ前項ラジオヲ確實ニ聴取スルモノトス

第二十訓練関係者ラジオ時報ニヨリ時計ヲ規正スルモノトス

防空訓練實施計画案（昭和十三年四月北吉井村役場）

- 一、本防空訓練ハ編成其他ニ関シテハ北吉井村防空規定ニ據リ實施スルモノトス
- 二、本部ヲ村役場内ニ置キ委員長ノ命令ニ依リ役場吏員ヲ以テ本部一般ノ業務ヲ行ヒ各団体長（委員）ハ所屬団体員指揮監督シ各分団ノ連絡ヲ緊密ナラシム
- 三、本部ノ警報主任ハ夫々警報傳達責任官ヨリ訓練防空警報受領ヲ終リタル時刻傳達係統傳達手段等ヲ調査シ別表第二表ニ依リ警察署長ヲ經テ知事ニ報告スルモノトス
- 四、各分団長ハ警報班ノミヲ編成シ別ニ個人警報受領者一名ヲ指定訓練開始前日迄ニ委員長ニ報告スルモノトス  
個人警報受領者ハ警報ヲ受領セバ別表第一表ニ依リ委員長ニ報告スルモノトス（訓練終了直後）
- 五、各分団長ハ警報傳達者トシテ自転車携行者二名ヲ本部ニ差出シ置クモノトス
- 六、警報ノ傳達ハ受領場所（役場）ニ於テ受領セバ直チニ各分団ニ對シテ電話傳令等ニテ傳達ス
- 七、各分担ニ於テハ本部ヨリ警報受領セバ直チニ警報班員ヲ以テ打鐘信號及傳令ヲ以テ部落打ち一般ニ傳達ス  
（打鐘信號ハ北吉井防空規定ニヨル）
- 八、訓練防空警報ハ『訓練空襲警報』『訓練空襲警報解除』ノミ發セラルモノニシテ警報ニ應スル燈火管制防護（警報班ノ活動ヲ除ク）等活動ハ之ヲ行ハサルモノトス
- 九、防空訓練實施ニ要スル經費ハ村ニ於テ負担スルモノノ外各部落ノ負担トス
- 十、各分担長ハ本計画ニ基キ部落打ちノ最迅速ナル警報傳達ヲ計画考究シ置クコト

別表第一

警報受領用紙（個人用）

防空訓練第一日（四月二十二日）	第二回	警報受領者ノ所在氏名	愛媛縣温泉郡北吉井村志津川加藤武夫
警報受領	領	警報受領方法及時刻	



# 第四章 産業

## 第一節 農事

農村八国家の倉庫トモ云フ可キモノナレバ農村産業ノ振否ハ直接国家勢力ノ消長ニ重大關係ヲ有スルモノデアル故ニ帝国農會ハ研究調査ヲ嚴密ニシテ各村ノ農會ヲ指導シ其ノ改良發達ヲ加エツツアル本村ハ早クヨリ農業技術員ヲ常置シ農業技術方面ニ關シテ連絡ヲ保持シ年々村内ノ産業調査統計ヲ精密ニシ産業政策ノ重要ナル指標タラシメテ居ル今左ニ記スル所ハ昭和十二年度ノ本村産業成績デアル

### 一、農業

- 一、北吉井村全耕地面積三七八町二段 田二七八町七段 畑九九町五段
- 二、米
- 三、麥

種類	作付反別	收穫高	平均相場
粳米	二三九三反	五〃四九五石	石高三三円
秈米	一四五反	三〇九石	〃 三六円
計	二五三八反	五〃八〇四石	

種類	作付面積	收穫高	平均相場
大麦	三三反	五八石	石高 一一円〇〇
裸麥	一五六九反	二〃三七三石	石高 一八円八〇
小麦	五二三反	八四五石	石高 二三円八〇
計	二一二五反	三〃二七六石	

### 三、特種農産物

種類	作付反別	收穫高	種類	作付高	收穫高
甘藷	八六反	二〃〇五六七貫	菜種	一二反	一九石
粟	三六反	三四石	三椗	二四反	七二〇貫
王蜀黍	八八反	六六石	大根	五三反	一六〃九六〇貫
大豆	二四二反	一七七石	馬鈴薯	二七反	九〃二八〇貫

蚕豆	一五二反	一二九石	茄子	三〇反	一二〇〇〇〇貫
小豆	七六反	一四石	里芋	二八反	一三〇〇四〇貫

二、林業

一、林野面積

種類	公 有			社 寺 有		私 有		計
	公	有		社	寺	私	有	
立 針葉樹林	九六三反			二一五反		五二四四反		六四二二反
潤葉樹林	二五五反			三三八反		一〇四七二八反		一〇五三二一反
混 濁林	一五〇反			一四七反		一〇一五一七反		一〇一八一四反
竹 林	二反					二五〇反		二五二反
地 計	一三七〇反			七〇〇反		三〇一七三九反		三〇三八〇九反
無立木地	三二反			四六反		七三二三反		七四〇一反
合 計	一四〇二反			七四六反		三〇九〇六二反		四〇一二一〇反

二、林野産物

樹實、栗 七石

竹皮

一五〇貫

樹皮、

二一〇七二〇坪

松茸

七六〇貫

椎茸

一〇貫

用材

二二五〇四八石

筍

二〇五〇〇貫

薪炭材

五三三〇六〇〇貫

木炭

三四〇七九六俵

竹材

五五二束

三、山林苗木

聡反別 一三〇二〇〇坪

杉 九五四〇〇〇〇本

檜 三四〇〇〇〇〇本

松 二〇〇〇〇〇本

計 一二九六〇〇〇〇本

四、果樹

聡反別 貳拾六町壹反

柑橘 十二町 梨 一町五反 柿 十二町二反 梅 四反

五、蚕業

養蚕戸数 一〇六戸 桑園反別 一一八反 掃立数量三〇四九〇瓦 繭産額 一〇七六二貫

平均相場五一銭

六、鶏

飼養戸数 三〇三戸 鶏数 三〇五三三羽 産卵数 二二三〇七五五個

七、牛馬頭数

牛 二四一頭 馬 二五頭

八、農家戸数

専業 五三九戸 兼業 一二六戸 計六六五戸

自作農 七三戸 小作農 二三九戸 計六六五戸

### 第一節 信用組合

#### 一、沿革

北吉井村ニ於ケル信用組合ノ発端ハ樋口信用組合購買組合ノ設立ヲ以テ濫觴トス

明治四十三年三月二十三日樋口有志ノ談合計画ニ基キ組合設立會ヲ大蓮寺ニ開催シ諸般ノ説明ヲ行ヒ豫メ諸種ノ打ち合せ及賛成者ヲ得テ置イタガ爲メ其ノ日ニ於テ大体設立具体案ヲ得タルヲ以テ翌二十四日設立許可申請ヲ愛媛縣廳ニ發送シ諸般ノ準備ヲ整調スルコトトナリ四月一日縣ヨリ設立許可書ノ下附ヲ得タレバ着々出資者ヲ募集シ準備完了シタリテ六月一日第一回總會ヲ行ヒ同五日出資払込ノ完了ヲ見タノデアル。依テ同月十七日松山區裁判所川上出張所ニ於テ設立登記申請ヲ済マセ遂ニ温泉郡北吉井村大字樋口有限責任樋口信用購買組合ナルモノガ誕生シタノデアツタ。初代組合長ニ和田伍郎就任シ事務所ヲ組合長宅ニ置キ事務ノ運行ヲナシメタ同年末ニ於ケル事業報告ヲ左ニ添付スル

明治四十三年有限責任樋口信用購買組合事業統計

一、組合員ノ数及出資口数ノ異動並ニ組合員ノ職業別出資口数

組合長 和田 伍郎  
 監事 藤岡 林太郎  
 同 田中 幾太郎

職業別	組合員数	増加出資口数	本 年 度 末	
			組合員数	出資口数
農業	六六	一九二	六六	一九二
商業	一	一	一	一
雑業	二	二	二	二
計	六八	一九五	六八	一九五

樋口信用組合八年々時流ニ乗ツテ発展加入者ノ増加ヲ見ルニ至リ大正二年七月三十日愛媛縣信用組合へ加入申込ヲナシ其經營見ルベキモノアツタガ村内ニ於テ組合組織ヲ變更シ更ニ之ヲ擴大一村ノ信用組合タラシム可キ議ガ起リ同年十二月ニ入り臨時總會ヲ開クコトニ回遂ニ北吉井村有限責任北吉井信用購買組合ト改称組織變更ヲ見、米券倉庫建築組合事務所ノ設立ヲナシ更ニ昭和十年十月十八日付ヲ以テ保證責任北吉井信用購買販売利用組合ノ認許ヲ受ケ今日ニ及ンダノデアル

二、信用組合役員及職員

理事 渡部 運之 和田 觀平 和田 菊平 和田 忠良 藤田 寅一 高須賀 数芳  
 島田 要 高塚 壽 奥村 覺蔵 伊賀 平九郎  
 監事 渡部 盛一 藤岡 五郎一 渡部 類次郎 久保 良二郎 山内 重一郎  
 信用評定委員 水口 熊五郎 和田 伊之助 田中 政重 和田 澤五郎 中奥 文吾

信用組合職員

山内 建次郎

武智 登

八木 健三

山内 進

野村 林蔵

組合長 島田 要

専務理事 和田 菊平

書記 土井 保定

書記 水口 滋雄

書記 奥村 實

書記 清水 九一

三、組合事業成績

昭和十二年末財産目録

資産之部

種 目	摘 要	金 額
拂込未済出資金	九七口	三五三円〇九〇
貸付金	五三七件	一四四〇六五九円二七〇
當座貸越金	一四件	一三〇六七二円三六〇
年賦貸付金	三三三件	五〇六九七円一三〇
販売部		一〇九八七円七一〇
購買部		三〇二一七円六三〇
購買品賣掛金	二〇四件	五〇八七三円四八〇
預け金	二〇四人	六八〇六一五円六一〇
有價証券		九九三円八六〇
土地		三〇五三八円九〇〇
建物		五〇〇四七円〇九〇
什器		九八四円〇〇〇
産業組合中央金庫出資金	一九口	一〇九〇〇円〇〇〇

聯合會出資金			八〇〇〇円〇〇〇
縣信用組合聯合會持分	一件	一〇口	九九三円三六〇
縣購買販売利用組合聯合會	一件	六口	一二二円〇九〇
未収金		肥料代	二二五円四〇〇
假拂金		二五件	一六八円八七〇
現金			六〇四一三円六五六
合計			二七二〇四六七円五〇六

負債之部

種目	摘	要	金額
組合員貯金		四九八人	七八〇九五円四三八
組合員外ノ貯金	七六九人	三八団体	一〇九一六六円八八一
購買品買掛金	九件	二人	二〇四円三二〇
借入金		二件	九〇七一一円〇七〇
定額貯金給付備金		一〇八件	五〇三二九円九八〇
未拂金		一三件	五二円九六三
聯合會拂込未済出資金			七〇四円〇四〇
縣信用組合聯合會持分積立金	一件	一〇口	九一〇円四五〇
縣購買販売利用組合聯合會持分積立金	一件	六口	一二二円〇九〇
未拂配當金		一二一人	九三〇円五六五
貯金利息拂準備金		一件	四〇六〇〇円〇〇〇

合計

二一〇〇六八六円七九七

差引金六萬零千七百八拾圓七拾錢九厘也

資産高

昭和十二年度末貸借對照表

貸方之部

借方之部

貸方之部		借方之部	
種目	金額	種目	金額
拂込未済出資金	三五三円〇九〇	出資金	二七〇二三〇円〇〇〇
定期貸付金	一四四〇六五九円二七〇	準備金	二〇〇九五〇円五二〇
年賦貸付金	五〇六九七円一三〇	其他積立金	八〇四九一円〇〇〇
當座貸越金	一三〇六七二円三六〇	購買品買掛金	二〇四円三二〇
販賣部	一〇九八七円七一〇	定期貯金給付備金	五〇三二九円九八〇
購買品	三〇二一七円六三〇	聯合會払込未済出資金	七〇四円〇四〇
購買品買掛金	五〇八七三円四八〇	借入金	九〇七一〇円〇七〇
預金	六八〇六一九円六一〇	定期貯金	一一五〇三二三元八五〇
有價証券	九九三円八六〇	當座預金	三八〇七九三元九一〇
土地	三〇五三八円九〇〇	小口貯金	一七〇九六一円八一九
建物	五〇〇四七円〇九〇	定額貯金	一六〇〇四一円七四〇
什器	九八四円〇〇〇	未拂金	五二四九六三
産業組合中央金庫出資金	一〇九〇〇円〇〇〇	未拂配當金	九三〇円五六五
縣信用組合聯合會出資金	四〇〇〇〇円〇〇〇	貯金利息拂準備金	四〇六〇〇円〇〇〇
全國購買組合聯合會出資金	一〇〇〇〇円〇〇〇	縣信用組合聯合會積立金	九一〇円四五〇
縣購買販売組合出資金	三〇〇〇〇円〇〇〇	縣購買販売組合持分積立金	一二二円〇九〇

縣信用組合聯合會持分	九九三円三六〇	債権銷却振當金	一〇一六〇円九三〇
縣購買販売利用組合聯合持分	一二二円九〇〇	本年度剩餘金	三〇九四八円二五九
未収入金	一二五円四〇〇		
假拂金	一二九円一〇〇		
現金	六〇四一三円六五六		
合計	二七二四六七円五〇六	合計	二七二〇四六七円五〇六

昭和十二年度組合員及出資口数

出資一口金額拾圓

保證金総額貳萬七千二百參拾圓

	前年度末現在		本年度加入及脱退		本年度末現在	
	組合員数	出資口数	加入員数	脱退員数	組合員数	出資口数
農業	四四九	二〇三三一		二	四四七	二〇三二〇
工業	一〇	一八			一〇	一八
商業	六一	三九三		一	六〇	三六四
其他	一一	二一			一一	二一
合計	五三一	二〇七六三		三	五二八	二〇七二三

胃所う昭和十二年度事業報告書ニ依ル

### 第三節 農業倉庫

農村ノ重要産物タル米穀ニ對シ其保存並ニ米價ノ高低ニ関スル一般の利益ヲ計ランガタメ米券倉庫設立ノ計画ヲ立テラレンハ大正二年十月ノ事デアアル當時温東郡役所當局ハ臨時町村長會ヲ開催シテ其議ヲ練リ郡長ハ具体案ノ作製ヲ

ナシ大正三年五月郡民協議會ヲ開キ米券倉庫組織並ニ役員ノ選定ヲ行ヒ各町村代表會開評議ノ結果鶴本房五郎氏ヲ米券倉庫長ニ舉ゲ組織ヲ編成シ其基礎ヲ作りタルモノデアル将来各村信用組合ニ併置致シタルモノナルガ農村施設トシテ時流ニ適合致シ發展農業倉庫今日ノ發展ヲ見たるものである

昭和十二年度北吉井村農業倉庫

受寄物ノ品目別入出庫數量

	前年度末現在數量	入庫數量	出庫數量	年度末現在數量	備考
玄米	二、七九〇俵	四、六八〇俵	五、三五〇俵	二、二〇石	
	一、一一六石	一、八七二石	二、一四〇石	八四八俵	
小麥	一九四俵	二、〇二三俵	六五九俵	一、五五八石	一俵八
	八五、三六〇石	八九〇、一二〇石	二八九、九六〇石	六八五、五二俵	四斗四枳
裸麥	一九〇俵	一、六九七俵	一、七四〇俵	一四七石	
	八三、六〇〇石	七四六、ご八〇石	七六五、六〇〇石	六四、六八俵	

昭和十二年度農業倉庫収支計算書

収 入 之 部		支 出 之 部	
保管料	八六〇円二六〇	熨蒸費	四七円二〇〇
特定保管料	九八九円九二〇	鼠切米辨償費	二七円一三〇
雑収入	二九〇	雑支出	一〇円〇〇〇
合計	九五九円四七〇	合計	八四円三三〇

差引

金八百七拾五圓拾四錢也

本年度剩餘金

### 第四節

#### 木炭組合

木炭生産ハ山村ノ産業トシテ欠クベカラザルモノニシテ且ツ製産品ノ改良ハ一般需要者側ニ取リテ要望高キコトナレバ斯道ノ改善研究ハ之又肝要ナルコトデアアル製産側ニ於テモ價格ノ協定出荷販路ノ擴張モ亦緊要事ナレバ木炭組合ノ設立ヲナシテ共同利益ヲ計ルハ當局并ニ當事者ノ當然着目セナケレバナラヌ事デアツタ

依テ各農山村ニ於ケル従業者製産額ノ調査ヲナシテ木炭組合設立準備ニ手ヲ染メタルハ大正七年ノコトデアアル本村ニ於ケル右照會ニ對シ温泉郡役所ヘ回答シタル當時ノ調査ハ左ノ如シ

大正七年五月三十日

北吉井村分掌事務

助役 藤岡 藤治郎

種類	製産数量	姓名	種目	製産数量	姓名
黒炭	二〇、〇〇〇貫	和田 栄三郎	黒炭	八〇〇	藤田 寅一
同	三、〇〇〇貫	渡部 助太郎	同	二〇〇	藤岡 タネ
同	二、〇〇〇貫	渡部 国次郎	同	八〇〇	大西 彦四郎
同	三、〇〇〇貫	野中 常吉	同	五〇〇	山内 範平
同	一〇、〇〇〇貫	加藤 狂吉	合計	四〇、三〇〇	

カクテ伊豫木炭同業組合ヲ加入シ販賣製産品ノ検査技術方面ノ指導等同組合ノ手ヲ經テ行フテ来タモノデアアルガ昭和五年十月ニ至リ北吉井村木炭組合ヲ組織シ翌六年事務實施ニ當リ今日ニ及ンデ居ル

組織役員職員左ノ如シ

温泉郡北吉井村北吉井木炭組合

組合長 和田 宗武

専務理事 水口 熊太郎

理事 加藤 與作

理事 白戸 定雄

理事 加藤 孫作      理事 和田 伊太郎      監事 和田 觀平      監事 渡部 助太郎  
 監事 黒瀬 十郎      組合書記 武智 茂      組合書記 渡部 正興  
 木炭製造業者 百名      出荷数 參萬四千八百三十五俵      本年度豫想 四萬俵  
 木炭検査 昭和十年ヨリ縣營検査トナリ從來ノ六貫俵廃止四貫俵トナル  
 検査員區域 三内、川上、拜志、北吉井、四ヶ村

### 第五節 村内職業別

農業 六一三戸      商業 七六戸      工業 二四戸      林業 一八戸      公務・自由業 九七戸      其他五六戸  
 村内商工業概観

横河原區ノ發展ニ伴ヒ商家 柳比ノ繁盛ヲ来シ商品ノ各種販賣店ヲ有スルヲ以テ顧客範圍ハ拜志、南吉井、川上ノ各村ニ亘リ東温唯一ノ商業區ヲナシテ居ル料理店三、雜貨店四、穀物商四、青魚商二、菓子製造商一、履物店二、新聞取次店二、其他商店軒ヲ連スル現況ナルガ家並ノ整頓街道ノ照明、店頭ノ裝飾ニ意ヲ用ユレバ直チニ近代商區ノ觀ヲ呈スルナラン

道路ノ發達ト山村ヲ控エルガ故ニ木材ノ出荷多数ナルヲ以テ早くヨリ製材業ガ行ハレ現今三軒ヲ算スルニ至ル多ク箱材料製作ニ從事致シ居ルモ角材モ又需要ニ應ゼラルル様、機械機器ノ整備ト従業員ノ多数ヲありして居ル

醸造業ハ村内三軒アリ小富士、男花、仙花ノ吟醸酒ハ地方ニ名聲高ク醬油ハ隣村ニ迄販路ヲ廣メテ居ル本村ニ於ケル昭和十二年度各種營業稅ハ一万四千五百五十六圓テアル以テ農村トシテ比較的多数ナルヲ見テモ其商工業ノ活発ナル情勢ガ察知セラルルト思フ

尚村内ニ馬車二十五台、自轉車四百三十二個ヲ有シ貨物自動車二台アリ之又商工業現状ノ一面ヲ物語ルモノト云フベキデアアル

## 第五章 水利

### 一、葛蒲五ヶ村井堰沿革

農村ニ取りテハ水利ガ最大ノ生命デアル古来北吉井村大字山之内部落ニ生ズル重信川ノ水コソハ地方村落ニ取りテ唯一ノ水源トシテ居タ、溜池井泉ヲ有スル部落ニ於テモ之ニ養ハルル小數ノ田面ヲ除イテハ専ラ添水トシテノ用意ニ過ギス擧ゲテ山之内ノ谷水ヲ以テ主タルモノト成シテ居タガ爲メ其分水ニ関シテハ古来幾多ノ紛争ヲ重ネテ居ル

其分水點ハ本村葛蒲井堰デアツテ之ニ關係スル村落ハ川上村大字北方ト北吉井村大字樋口、師津川、西岡、南吉井村大字田窪、牛瀨ノ六部落デアル下五部落ハ利害關係ヲ同シクスルガ故ニ一ヶノ井堰ヲ有シ一團トナツテ川上村ニ對坑シテ居タモノデアル故ニ此ノ井堰ヲ稱シテ葛蒲五ヶ村井堰ト呼ンデ居タ往古ハ水利ニ関スル成文ノ規約ト云フモノハナク旧慣ニ依リ萬事處理致ス例デアツテ時々旱魃ノ年ニハ臨時ノ便法ヲ立テテ處断シテ来タヤウデアル故ニ水利上ノ紛争八年々歳々跡ヲ断ツト云フ事ハナカツタ今記録ノ存スル所デ最モ古イ水利上ノ規定ハ貞享年中定ト稱スルモノデアル（葛蒲五ヶ村井関旧記元文四年ノ記録ニヨル）後年此ノ定ガ基準

五ヶ村（樋口、志津川、西岡、田窪、牛瀨）

六分水

北方

四分水

分水場ハ西山根ヨリ三間ノ土台ヲ入ル水上ヲナシ四分ノ水ヲ北方村ニ取り土台ノ三玉目ノ次カラ水ヲ落シテ五ヶ村入堰ニ取ルノデアル原則トシテハ川ノ中央ヲ以テ瀬トナシ兩門樋明放シトナツテ居ル

此ノ貞享年中定ノ分水場工事ハ詳細ガ判然シカネルガ元文四年六月ニ提出シテ居ル伺立書中ノ「堰法并二分ん水事」ニ依ルト其ノ當時ノ堰場ガ抵窪デアツテ北方村ノ井口ガ高クナツテ居ルタメ土台ヲ入レテ水揚ヲナシタモノデアル然シ其後此ノ土台ハ梶枕ニ變更サレ西側ヨリ向山根迄入レ渡スコトニナツタ此ノ梶枕ト云フハ、モヤ竹ヲ置キ荒砂ヲ以テ押エトナシ水上ゲヲナスルモノデアル此ノ工費ハ北方村ノ負担トナツテ居ル。然シ此ノ事ガ將來長ク紛争ノ基ヲナ

シタト云フノハ荒砂押エト云フノデアルカラ其間漏水ノ相等アルコトヲ前定トシタ規約デアルノニ北方村ニ於テハ、上ニ井堰ヲ有スル有利ナ立場ヲ利用シテ関切りガ古来ヨリ規約デアルト称スルニ至ツタ（五ヶ村堰ノ上三島下ニ北方ノ井堰アリ）尚星霜ヲ経ルニ從ヒ河庄變化シ洲ガ闊エ河水潛流ノ減少ヲ見ルニ至ツテ本村側ハ非常ナ不利ナ立場ニ置カレル事トナツタ。夫テ旱魃困苦ノ場合ハ代官所ノ裁定ヲ願ツテ居タ。明治時代ニ入ツテカラハ九年七月七日付ヲ以テ愛媛縣令ノ裁断ヲ仰イテ居ル。其結果ハ同年八月十日附ヲ以テ北方村エハ舊藩堰エ土砂ヲ用ヒ洩見ズヲ留ルことは相成ラズト違セラレ、本村側エハ慣法ニ從ヒ從前ノ儘据置クト云フ違ガ来テ居ル。以上ノ關係記録ハ繁雜ナ事ナガラ左ニ添附シテ置ク

旧記寫

區内久米郡十一小區樋口村十三小區西岡村志津川村三ヶ村ヨリ拾二小區来た方村舊藩井堰水差縫ノ義ニ付別紙ノ通り御処分願出申候既ニ北方村ヨリ前日願書差出申達仕候條双方トモ御事實御尋問ノ上御詮儀披成下候様奉願候以上

第六大區副區長

明治九年七月七日

豊島 直明

愛媛縣權令 岩村 高俊殿

舊藩堰表分水差縫シ儀ニ付伺

別紙ノ通り舊藩堰表分水差縫ノ儀ニ付御処分願出申候區内、西岡、志津川、樋口三ヶ村共確拋タル証書類ハ無御座候得共以前差縫レノ度度旧記及検査候処村方申立ノ通り相違無御座候間公明ノ御処分奉仰候以上

第六大區十一小區

戸長 山内 元凱

代判組頭 藤岡 六郎

第六大區十三小區

戸長 井上 機

明治九年七月七日

愛媛縣指令 岩村 高俊殿

菖蒲堰表分水差纏御処分願

久米郡山之内官有重信川通り字横河原二有之候菖蒲堰同郡北方、樋口、志津川、西岡四ヶ村分水ノ儀上ニ北方村ニ於テ不法ノ堰揚水仕リ候故下、三ヶ村樋付差<sup>二</sup>願<sup>一</sup>本年六月二十八日大區まで甲乙号記面ノ通り伺願書進達甲処現在樋付不相整際前格流例訂正等ノ儀ハ今日通り見込難相立目今急務配水ノ情ヲ盡シ北方村役係工應接ニ及候以上ハ前以テ四課御中エ手續書差出置候別記寫ノ通り上申ノ時宜ニ御座候依テ下モ三ヶ村井係リ衆民水落方仕候就テハ客月三十日及爭論本廳御官員御派出御取捌被成下率恐畏候夫レ旧記等取閱候処北方村ト下モ樋口始メ三ヶ村ト爲取換又ハ定約等ノ確拠タル証書ト申ハ無御座候得共以前ヨリ傳來ノ旧來等取閱証拠トスル廉々拔萃書載仕リ候通りノ事情ニテ全ク古來ヨリ北方村四步下三ヶ村ろく歩ノ分水ニ御座候処近年流例相成候義ハ北方村上ノ事故何時トナク古格ヲ崩尚近頃ハ旧藩代官所ヨリ適宜配水等取計ニ相成居候故難澁ノ際ハ臨時配水ヲ以テ危急相凌キ養水季節内ヲ外レ候時ハ流弊詰問ノ情モ想像ニテ時ヲ<sup>二</sup>延<sup>一</sup>リ況流例ヲ重タルニ至リ三ヶ村ハ弥増々困窮ニ立至リ罷在候今般旧復ノ御処分被成下向後ノ龜鑑等相製爲取替置今後村民安座仕リ公租貢収ノ基本相立候様御處分被成下度此段奉願候以上

旧記傳來ノ拔萃左ノ通り

第一條元文四年六月菖蒲堰表流例ノ節右三ヶ村ヨリ伺立書中堰法并ニ分水ノ事

一、北方村井堰ノ儀北方村、井口高ク御座候二付一通リハ向ヒ山根迄梶枕入渡被申候テハ井口工水乘リ被申候二付水乘リ申程梶枕爲入申二付古來ヨリ関切ト申立今年ニ至リ水関切取申候個様ノ儀申立ニ仕候得ハ向後ハ右梶枕、川瀬四分ナラテハ爲入申儀難相成御座候

但シ此ノ梶枕ト申ハ、モヤ竹ヲ置キ荒砂押エニ仕候法ニ御座候古來ハ堰場低窪ノ故ケ様ノ仕成リ相始リ候儀左候時ハ此前々ニハ双方分水堰形當時トハ大ニ相違仕リ候最モ北方村ヨリ好ニ依リ梶枕関入サセ候仕成リヲ以テ上井堰ハ北方村ニ工作ノ費用動来リ候義ニ有之候事

一、古来ヨリ水六歩通り取来候意味貞享年中五ヶ村分水定ノ節役人立合ノ上六歩水ヲ元々立テ一步ハ浮穴郡両むらエ一步四厘西岡エ二歩六厘志津川エ一步樋口村エ都合六分水ヲ日數六日ニ相定メ只今迄取遣仕来候 但シ浮穴郡田窪村牛淵村兩村ノ儀ハ分水僅カ一步通りニテ舊藩堰表ヨリ遠隔ノ地方ニ付分水水路ニテ減水仕リ養水助ケニモ難相成故入費償却方々堪兼井堰水取り組合相離度旨申出三ヶ村ト熟談ノ上、其ノ意ニ仕セ一步通りノ分水ハ三ヶ村エ貰ヒ受意味離仕候共其ノ縁ゆえに依テ樋口村北井手筋ヲ五ヶ村井手ト唱エ敷地床符ハ今ニ浮穴郡兩村ヨリ樋口村エ出来仕来リ非常ノ早魁ニ及候節ハ三ヶ村融通水仕遣シ候約定ニ有之候、

## 第二條

天明六年五月中差纏シ四歩ノ分水并ニ土臺木分間ノ事

一、天明六年五月中分水差纏レ節旧藩代官所手代重松儀兵衛出張分水相成候節六歩三ヶ村エ落水ニ相成リ其節分水取井手ニテ相定リ候分木寸法左ニ記載仕候事

五寸三步

五ヶ村當時三ヶ村

但シ井手幅廣ク

五寸六歩

北方村

但シ井手幅狭ク

右双方トモ水増減ノ節申出候エバ早速立合穩便ニ分水方仕ル様被仰聞候事

但シ前件ハ門樋ノ廣狭ヲ量リ分水高二テ分ん界有之歩合現今見競ニ立兼候工共四歩北方村六分下モ三ヶ村分みずニ相立候儀ハ次條ニテ判然候尤モ門樋ニハ今古例ヲ存シ尺度相立居候事

## 第三條

寛政元酉年五月中北方村法外ノ仕成リ致シ候ニ付下三ヶ村ヨリ出願百ノ箇目中ニ左ノ通り有之候事

一、北方村井手五ヶ村今三ヶ村井手水分量去午歳重松儀兵衛殿御差向ニテ四歩北方村六分五ヶ村今三ヶ村前々ノ通り御仕成被仰付兩々納得仕リ罷在然ル処又々大ニ不直ニ御座候事

## 第四條

文久年度新法水門北方村ニ掘方致候事

一、文久三年掛合ニ及ヒ一旦潰方ノ処又々其ノ後相用居リ候ニ付明治六西歳以来掛合本年六月二十四日取潰方ノ儀治定相成候得共未タ着手不仕候

第五條

二番堰ヨリ北方村工分水ノ事

一、二番堰ニテ三ヶ村取水ノ内十歩ノ一北方村下タ井手工分水ノ事

右條件餘書類多数ニ有之候得共御解リノいたるリ委詳御尋問御座候得ハ村役係リ并ニ聡代ノ者ヨリ御伺答可申上ニ付略之

附言

一、堰表ノ義第一條元文四年頃迄ハ堰表低窪ニテ流水モ現今ヨリ多流ニ有之候見込ニ御座候其後川底洲 候ニ付流水洲下ヲ潜流シ浮水減少ニ至リ候度毎下モ三ヶ村ハ溜池築造仕リ添水ノ用度ニ供シ候工共北方村ニ於テハ葛蒲堰養水懸リノ分ハ古来ヨリ同堰水ノミニテ添水ノ備エ不仕候故源水減少ニ至リ候ハ三ヶ村難波ト相成ルハ必然ノ儀ニ御座候事

一、現今四ヶ村葛蒲堰水ヲ以テ養懸水ニ供シ候田面左ノ通り御座候事 但シ近来旧藩代官所配水ノ節此反ペ津ヲ以テ養配相成居候事

一、式百拾老町六反老畝八歩 四ヶ村葛蒲水掛リ田地

内譯

百十七町四反六畝二十八歩

内、 九十五町一反四畝二十八歩 海上、古市、川上、西ノ側 葛蒲井堰掛リ

二十二町三反二畝歩 古市、横川原、葛蒲下井堰掛リ 以上北方村

百六十四町市反四畝十歩 樋口、志津川、西岡、三ヶ村

内、 三十六町七反十四歩 葛蒲口ヨリ字前川迄 樋口村葛蒲井堰掛リ

八拾壹町八反一―壹畝歩 千田窪ヨリ梅反迄 志津川葛蒲井堰掛リ  
 四拾五町六反二畝二十六歩 木原ヨリ熊畑迄 西岡村葛蒲井堰掛リ  
 以上

明治九年七月七日

第六大區十一小區樋口村聡代	和田 忠六	第六大區十三小區西岡村聡代	伊賀 市郎
〃 十三小區志津川聡代	山内 九郎衛	〃 十一小區樋口組頭	藤岡 六郎
〃 十三小區志津川組頭	藤田 建太郎	〃 十三小區西岡村組頭	大西 喜五郎
愛媛縣令 岩村 高俊殿			
十一小區戸長 山内 元凱	代判組頭 藤岡 六郎		
十三小區戸長 井上 機	副區長 豊島 直明		

第六大區々長

其區内久米郡北方、樋口、西岡、四ヶ村二係ル葛蒲堰分水ノ儀ハ従前確タル定規無之年々臨時処分致来候儀法ニ付  
 先ツ従前ノ儘据置候條今後年々於其ノ役場配水方申付時々上下ノ水勢ヲ見計ヒ分量加減爲致其上用水不足ノ節ハ其役  
 場ヨリ出張右川筋大落可取手此段相違候事

明治九年八月十日

岩村権令

北方村工

書面願ノ趣、樋口、志津川、西岡ノ三ヶ村用水不足ノ節ハ臨機差配向ノ儀區長工相違置候條差函可受尤モ葛蒲堰工  
 土砂ヲヒ洩水ヲ留候儀ハ不相成儀卜可相心得候事

明治九年八月十日

愛媛縣權令 岩村 高俊

大落ニ関スル旧記寫

西岡村 志津川村

北方村	一、上井堰	三步落	七步残り
北方村	一、下井堰		根水無之二付其儘
樋口村	一、新田井口		根水五步落
山之内村	一、車井手		根水八步落
同	一、除ヶ井手		根水八步落
同	一、上井手		根水六步落
同	一、御所新田井手		根水皆落
同	一、麓谷		根水皆落
同	一、津ヶ坂井口		根水皆落
同	一、竹谷井口		根水皆落

右者西岡、志津川両村田方及旱方候ニ付實地検査ノ上先例ヲ酌量シ臨機ノ処分ヲ以テ山之内川筋大落申付候也

明治九年八月三日

愛媛縣十四等出仕 黒川 通成

其後 井堰分水ニ関シテハ差シタル紛争モナカツタ様デアルガ明治末カラ大正ニカケテ大紛争ヲ以テ終幕トシ往古ヨリノ両村間ニ於ケル水論ハ、其跡ヲ絶ツニ至ツタ。此時ノ衝突ハ矢張上堰閉止ノ一件デアツタガ北吉井村下三ヶ村下三ヶ村部落ノ民衆ハ大舉葛蒲表エ出動シ上堰ノ切り落シヲ断行シ松山署ヨリ多数ノ警官出動鎮壓ヲ見タル事件デアツテ、解決迄前後三ヶ年ヲ要シ。終ニ川上村ヨリハ當時ノ縣地しけ(深町鍊太郎)ヲ相手取行政裁判迄成シタル大事件デアツタ。此処ニハ其ノ間ニ於ケル關係文書ノ必要ナル部分ノミヲ記シテ置ク

協定書

葛蒲上堰ノ關係地タル川上村ト下堰ノ關係地タル北吉井村トハ用水上ノ利害ヲ異ニシ時々衝突ノ不幸ヲ見機リタル処是レ等ノ不利益ヲ避クル爲ニ此処ニ本年度限り有効ナル暫定條約ヲ締結スル事左ノ如シ

一、上堰ハ從來仕来リノ通齒朶エノ方法ヲ以テ全川堰止メノ出願ヲためシ其ノ許可ヲ得ルモ下堰ノ利益ノ爲メニ善意ヲ以テ相當ノ漏水アルベキ様工作ヲ施ス可キ事

二、上堰ヨリ漏水スル処ノ水ヲ以テ下堰方ノ田地ヲ養フ事

三、前記ノ方法ヲ以テ下堰方ノ田地ヲ養フニ足ラサル場合ニ於テハ大落ノ方法ヲ以テ下堰ヨリ上堰ニ請求シ其ノ協議調ハサル時ハ其配水方ヲ温泉郡長大導寺一善殿ノ決定ニ一任シ温泉郡長大導寺一善殿ハ舊記慣例及入用反別等ヲ斟酌シテ裁量スベキコト

二謂フ所ノ大落ハ單ニ兩堰間ノ關係タル用水配給ノ方法ニシテ拾個堰間ニ行フ慣例ノ大落ノ意義ニ有ラス從テ此ノ大落ニハ樋口字モ水ノ配給ヲ受ルモノトス

四、温泉郡長大導寺一善殿ノ決定シタル大落シ着手ノ時期及分量等ニ對シテハ絶対ニ服従スルコト

明治四十四年八月八日 温泉郡北吉井村長 坂本 和市 温泉郡川上村長 松木 喜一

大正二年三月十四日付北方普通水利組合管理者松木喜一氏ハ縣廳宛葛蒲井堰水揚場工事施行ノ申請ヲナシタル所關係村タル北吉井村ニ對シ縣ハ諮問シタルニ、當時ノ北吉井村長淺井平三郎氏ハ樋口外ニ部落普通水利組合管理者トシテ反對ノ答申ヲ與エタルニ依リ縣ヨリ工事不許可ノ回答ニ接シ、北方普通水利組合ハ知事ヲ相手取り行政裁判ヲ仰イダノデアツタガ温泉郡長片野淑人氏ノ仲裁其ノ功ヲ奏シ左ノ如ク圓滿ナル解決ヲ見ルニ至リタルモノデアアル

温泉郡川上村大字北方普通水利組合

温泉郡北吉井村樋口外ニ部落普通水利組合

愛媛縣温泉郡葛蒲上堰水利事件ニ對シ大正二年十月二十二日付兩組合管理者及妥協全權いんノ上申ニ依リ別紙之通り裁定功條其旨相心得將來兩組合和衷共同シテ互ニ推讓之徳ヲ尊重シ以テ圓滿ニ踐行スベシ

大正二年十月二十四日

温泉郡長片野 淑人

葛蒲堰水利事件裁定書

第一款

河川引用定量へいに配水方法

(一) 葛蒲上堰ニ於ケル河川全量中其六歩二厘ハ北方水利組合ノ所用水トシテ全組合ガ優先引用シ亦餘ノ參歩八厘ハ樋口外二部落水利組合ノ所要ニ充ツルモノトス

但シ北方水利組合ハ本井堰ノ下流ニ猶北方堰ト唱フル井堰ノ古形ヲ存シ不時ニ備フル由ナルモ當該井堰ニ対シ樋口外二部落ハ本文河水ヲ八分割スルノ義務ナキモノトス

(二) 亦ハ害虫駆除若クハ旱損等ノ爲メ一時ニ多量ノ用水ヲハ引用スルノ必要アル時ハ關係兩組合中其一方ノ請求ニヨリ双方管理者商議ノ上河水全量ヲ交互ニ引用スルコトヲ得此場ニ於テハ前項ノ割合ハ之ヲ時間ニ換算シ且ツ北方組合ガ其當然引用スベキ時間ノ約三分ノ一ヲハ先ツ全組合ニ引用シ而シテ樋口外二部落ニ及ホシ更ニ北方ニ復スルモノトス例ハ八北方ニ二十二時間樋口外二部落ニ三十八時間北方ニ四十時間樋口外二部落ニ三十八時間北方ニ六拾貳時間ト爲ス力如シ

第二款

井堰ノ構造其他ノ装置并ニ經費分担

(一) 井堰ノ構造及河水分配方法等ハ兩組管理者協議ノ上旧慣ニ泥マス實際ニ適切ナル方法ヲ撰ミ兩組合管理者立會施設シ其之二要スル費用ハ折半シ兩組合ニ於テ負担スヘシ

(二) 兩組合ニ於ケル井堰并ニ水配ノ看守人ノ詰所ハ現ニ北方水利組合ガカ設置セル詰所ヲ以テ之ニ充テ樋口外二部落組合ハ當該詰所評價額ノ半額ヲ北方組合ニ支払拂ヒ以テ兩組合ノ共有トナスヘシ  
但シ本文ノ評價ハ兩組合管理者ノ評定ニ依ルベシ

(三) 第一款第二項配水ニ要スル費用ハ之カ配水ヲ請求シタル組合ニ於テ負担スベシ

第三款

雜定

(一) 大正式年度ニ於テ設ケタル井堰ニ要セシ費用ハ兩組合ニ於テ折半負担スベシ  
(二) 今年度中同井堰ニ対シ行政命令ニヨリ数次開閉又ハ變更シタル費用ハ樋口外二部落組合ニ於テ賠償スベシ

(三) 北方組合ニ於テ縣知事ヲ被告トシ提起シタル行政訴訟ハ直チニ取下願書ヲ提出スベシ

#### 第四款 裁定

(一) 本條款ニ基キ關係組合ノ行フ協商并ニ將來本事件ニ付行フ所ノ商談ニシテ其談合ハザル時ハ温泉郡長ノ裁決ヲ請フ可シ

以上

北方水利組合ヨリ裁定書ニ対スル質問アリタルヨリ大正二年十一月十一日温泉郡長ヨリノ回答

一、裁定書第一款第一項所定ノ河水引用歩合ハ係争葛蒲上井堰ニ流下スル幹流重信川ノ河水全体ヲ根基トシテ限定シタルモノナルガ故ニ關係兩組合ノ實際ニ引用スベキ河水ハ當該井堰ノ地点ニ流着シタル流水全量ニ対スル所定歩合ヲ超越セザル範圍内タラザル可ラス依テ現形態ヲ換エズシテ分水ヲ行フトキハ兩組合各個ノ用水溝梁ニ引入ルル水量其モノカ分水歩合ニ一致スルヲ要ス

二、既往ニ於ケル非常配水法タリシ大落ハ消滅シタルモノトス

三、第二款第一項及第三款第一項ノ井堰ハ北法組合引水箇所タル葛蒲上井堰ヲ指シタルモノトス

裁定書第三款第一、二、ニヨル井堰ノ工費

一金壹百三拾貳圓拾參錢

第一項ニ係ルモノ

此折半六拾六圓六錢後厘

一金貳拾圓八拾錢

第二項ニ係ルモノ

計金八拾六圓八拾六錢五厘

樋口外二分落水利組合負担

葛蒲事件費

樋口外二分落水利組合

一金壹千百貳拾壹圓九拾八錢壹厘

(反別一反歩ニ付後十錢)

内譯 一金三百拾圓三拾壹錢六厘

樋口負担、田六十二町六畝拾壹歩

一金五百貳拾六圓三錢五厘

志津川負担、田百五町二反二十一歩

一金貳百八拾五圓六十三錢

西岡負担、田五十七町一反二畝十八歩

第二款第二項ノ水配看守人詰所ノ兩組合供有スル件ハ川上村ニ於テ承諾ナク大正四年北吉井村事務管掌タリシ郡書記山岡晴朝氏ノ川上村長宛、督促ノ書状ヲ残シ居ルモ其ノ俛立消トナリタルモノノ如シ

二、五ヶ村井堰水取定

五ヶ村井堰ニ於テ北方村ト分水ナシタル六歩ノ水ノ割合ハ貞享五年七月十二日左ノ如ク定目手居ル

六分水ノ割合 老歩 田窪、牛瀨 老歩四厘 西岡 武歩六厘 志津川 老歩 樋口

日数割當 一、田方 百五拾老町三畝拾三步 樋口、志津川、西岡、三ヶ村

番水日数 五日、五夜

内、三日、二夜 志津川村 一日、貳二夜 西岡村 一日、一夜 樋口村

一、田方 三拾町八反三畝二拾三步 田窪村、牛瀨村 番水日数 一日、一夜

但シ舊藩水ヲ一トシテ其ノ十分ノ一ヲ樋口新田エ分水シ残り十分ノ九ヲ以テ右ノ如ク五ヶ村エ日割ト居タシタルモノデアル

此ノ新田ハ嘉左衛新田ト稱スルモノデ老萬石御分地、殿様新田ノ内デアルト云フノデ從來志津川井手ノ内ヨリ分水シテ居タガ後井口分水分股ヨリ上エ水口ヲ設ケタモノデアル

九歩ノ分水方法

一分五厘 (水一日十夜) 樋口村 四分 (水三日二夜) 志津川村 貳分 (水一日二夜) 西岡村

一分 (水一日) 田窪村 五厘 (水一夜) 牛瀨村 九歩日数六日一巡リ

但シ一日ヲ老歩トシ老夜ヲ五厘ト定メ六日ノ晝夜ヲ以テ九歩ト定メタモノデアル

尚井手符米ノ定モ同日(貞享五年七月十二日)ニ規定サレテ居ル之ヲ見ルト井手筋流末ノ關係并ニ村落ガ明瞭スルカラ併セテ記シテ置ク

三十二俵 樋口村エ可渡事 三俵二斗 山之内村エ可渡事 三十五俵二斗

内譯 四俵梅本村、水泥村、畑中村、日瀬里村 貳斗 樋口村 拾五俵老斗 志津川村

九俵貳斗 西岡村 六俵老斗 田窪村、牛瀨村

前掲元文四年六月伺立書中ニモアル通り、田窪村、牛瀨村、ノ両村八分水僅カニ老歩通りテ舊藩堰カラノ

距離遠キタメ流路中減水多ク養水ノ助ケニモ成リ難キ故入費償却ニ堪エ難イト云フ理由デ井堰水取組合ヲ離レル事ト  
ナツタ拾テ一步ノ分水ハ残三ヶ村ニ貰ヒ受ケルコトトナリ非常ノ旱魃ノ年ハ三ヶ村ヨリ融通水ヲ仕遣スト云フ約定デ  
樋口北井手筋ヲ五ヶ村井手ト唱ヘ敷地床符ハ樋口エ出米致スベキコトト成シタ。此処ニ於テ五ヶ村水利ハ即チ三ヶ村  
水利トナツタ譯デアル

日割水取、苗代水、植付水ニ関スル件ハ地理ノ關係上、上村下村共ニ互譲ノ精神ヨリ左ノ規約ヲ設ケテ居ル

一、日割水取渡ノ義 日ノ入り前ヨリ両々立合居候テ日ノ入り取渡致可申事

一、苗代水ノ義 上村ノ苗代早方ノ場所エ掛候上浮穴郡兩村エ水下リ候様可致事

一、植付水ノ義 上村ノ植付相整次第水下リ候様可致事

一、日割水當リノ節ハ當リ村ヨリ番付置水取候様可致事 菖蒲五ヶ村井堰旧記録ヨリ

右規約ハごヶ村水利ヨリ三ヶ村水利時代ニ入りテモ遵守セラレタル規約デアツテ三ヶ村水利ノ治乱ハ實ニ此処ニ存  
スト考ヘラルル大正二年村長浅井平三郎氏ノ縣内務部長ニ答申セル農業水利植え慣習調査ニモ此ノ点ヲ述ヘラレテ居  
ルカラ此処ニ附記シテ置ク

#### 農業水利上ノ慣習調査ノ件

大正二年十一月二十日

村長 浅井 平三郎

一、本村樋口外二部落普通水利組合ノ引用スル反別二百二十余町歩ノ用水源ハ村内大字山之内幹流重信川筋字菖蒲堰  
ニ仰キ用水逼迫ニ方りこらいより適當トセル分配慣習左ノ通り

一、全水量ノ十分ノ一 大字樋口新田井口

二、一日二夜大字西岡 三日二夜大字志津川 一日一夜大字樋口

二、旱害ノ憂アル場合ニ於テ特ニ慣習ト認ムベキハ「切り渡シ」ト唱ヘテ干田ニ引水スルニ田面上ニ行キ渡ルヤ直チ  
ニ切り下スモノニテ番人、配水係、水引夫等、多数「五六十人」ノ人夫ヲ要シ爲メ配水費ハ地租額以上ヲ要ス

三、大字志津川ハ田反別百町余アリテ旱害ヲ怠リ近年旱植ト稱シ **价紙** ヲ半月以上繰上ケ植付ヲ爲シ爲メニ昨今旱害

ヲ免レタル慣行アリ

抑モ本村水田ノ大部分タル樋口、志津川、西岡ハ式百式拾余町歩アリテ溜池、泉等部落ニ在リトモ其灌漑水ノ大部分ハ前記ノ如ク山之内舊蒲堰ニ掘ルモノトス而シテ該井堰ノ上部約五十間ノ箇所ニ方リ水利ノ利害ヲ異ニスル北方井堰アリ古来ヨリ該河水十分ノ約志歩五厘ヲ引用シ其他ハ下井堰ニ引用セシ慣行アリタルモ時世ノ變遷ニ隨ヒ慣行流例シ去ル明治四十三年以來水論ヲ惹起シ年々紛擾ヲ重ネ終ニ、本年七月井堰許可令命取消行政裁判ヲ北方組合ヨリ提起シタリシモ温泉郡長ノ斡旋ニ依リ關係両組合間ニ協定締結ヲ見タリトモ近來水源山林濫伐ノ結果水量大ニ減少セルニ依リ今後村内組合ノ水利ニ付テハ實ニ憂慮ニ堪エザルモノナリ仍ツテ小職之ガ救済策ヲ考究スルニ他ナシ當該河川ノ地下水引取工事ヲ施行シ以テ用水不足ヲ補ハバ或ハ大旱害ヲ免カルルヲ得ザルニアラザルナリ右回答候也

愛媛縣内務部長平塚廣義殿

昭和九年ハ未曾有ノ大旱魃年ナリ下二部落ハ渴水ノ爲メ樋口部落ト水利紛争ヲナシタル結果調停セラレタル條項左ノ如シ

調停書

昭和九年六月二十三日以來紛糾セル水利問題ハ樋口外二部落普通水利組合規約ノ規定ニカカワラズ昭和九年度ニ限り調定スル事左ノ如シ

昭和九年**柳秋**時に於ケル配水方法ハ左記ニ依ルモノトス

- 一、六月二十四日午後十時ヨリ六月二十六日ノ入り迄 大字樋口
- 一、六月二十六日、日ノ入りヨリ六月二十八日、日ノ入り迄 大字西岡
- 一、六月二十八日、日ノ出ヨリ六月三十日、日ノ入り迄 大字志津川
- 一、六月三十日、日ノ入りヨリ七月一日、日ノ入り迄 大字樋口
- 一、今後ノ配水方法ハ前記六月二十六日、日ノ入りヨリノ時間割ノ通りトス

一、降雨ノ爲メ水量豊富トナリタル場合ハ三部落水利委員ノ意見ヲ聞キ管理者ニ於テ適當ニ處理スルモノトス  
右、澤田松山警察署長近藤縣會議員池川縣會議員、武智地方事務官ノ立會ノ下ニ調定ス

昭和九年六月二十四日

温泉郡北吉井村樋口外二部落普通水利組合

管理者北吉井村長 渡部 盛一

因三二北吉井村ニ於ケル末 秧面積 樋口三十町歩 志津川八十町歩 西岡五十町歩

早魃非常対策トシテ樋口部落ハ左ノ如キ共同耕作ヲナシ二十町歩ヲ死守シタリ昭和九年八月二十四日決議

樋口部落ニ於テハ六十町歩ハ植付ヲ終リ残余四十町歩ハ水不足ノ爲メ枯死ノ状態ニ在リシカ部落民ノ自覚ニヨリ灌  
漑対策ニ付種々協議ノ結果非常時対策トシテ地主及小作人共同耕作ヲナシ前記二十町歩ニ対シ充分ナル送水ヲナシ、  
コレヲ生カシメ残余四十町歩ハ自然耕作トナス事ニセリ尚水利費收入其ノ他ノ雜費ハ平等ニ分配シ此ノ苦難ヲ打開セ  
リ

三、樋口外二部落普通水利組合

元品ノ普通水利組合ハ明治二十三年六月二十日ニ依ル水利組合法ニ依リ明治二十五年結成セラレタルモノデアツテ原則トシテハ旧慣ヲ遵守シ信義ヲ旨トナシタルモノデアル左ニ附記シテ水利規約ナルモノガ何処マデモ旧慣ヲ嚴守シテ立テラレテ居ルト云フコシヲ示ス。明治二十三年六月二十日発勅令ニヨリ水利組合條例ヲ定メラレ全国ニ普通水利組合ヲ結成ス

愛媛縣指令老、第一四四〇号 普通水利組合創立委員 久米郡北吉井村長 山内 元凱

本年六月十日付稟請久米郡北吉井村大字樋口二部落ニ關スル普通水利組合規約ノ件認可ス

明治二十五年七月十五日 愛媛縣知事 勝間田 稔

右ノ如ク樋口外二部落普通水利組合ハ明治二十五年ノ創立ナリ規約左ノ如シ

第一章 聰則

第一條本組合ハ當三部落ニ於テ土地所有者ヲ以テ組織ス

第二條本組合ハ田地養水灌漑ニ供スル用悪水路等専ラ土地保護上ニ就テ旧慣ヲ遵守セシメ相互ニ信義ヲ重シ將タ經濟

節儉ノ道ヲ講求スルモノトス

第三條本組合ハ第二條ニ掲クル養水灌漑ニ供スル費用及土地保護上ニ要スル者其他組合諸般ノ費用ハ聰テ組合員ノ負擔トス

第二章

第四條本組合ハ明治二十三年法律第四十六号水利組合法第三章第十区條ニヨリ普通水利組合ヲ設置ス

第五條組合會ハ通常會ト臨時會トノ二種ニ別テ毎年二回（四月十月）開クモノヲ通常會トシ臨時ニ開クモノヲ臨時會トス 臨時會ハ特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ開會スルモノトス

第三章 組織選舉

第六條組合會議員ハ組合内撰舉人其被撰舉權アルモノヨリ之ヲ選舉ス其定員及配置方左ノ如シ

一、議員十四名 内 四名 大字樋口 六名 大字志津川 四名 大字西岡  
第七條 撰舉人八條例第十條ニ依リ本組合員ニ限ル

丁年未滿及婦女戸主并ニ他町村他部落ヨリ地所ヲ有スル者ハ代人ヲ出シ撰舉ヲ行フ事ヲ得但シ一人ニテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任状ヲ携帶ス可シ

第八條 被撰舉人ハ組合内ノ現住者ニシテ公民中ノ男子ニ限ル

第九條 左ニ掲クル者ハ組合會議員タルヲ得ス

一、各部落水利委員 一、各部落補助員 一、各部落井手係

第十條 議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ二年毎ニ其半数ヲ改撰ス初回テハ抽籤ヲ以テ退任者ヲ定ム退任ノ議員ハ再撰セラルル事ヲ得

#### 第四章 職務權限

第十一條 組合會ハ條例第三章第二十一條以下第二十三條ニ至ル各条并ニ本規約第二條第三條ニ準據シ水利ニ関スル經常費收支方法及ヒ其他ノ事件ヲ議決スルモノトス

#### 第五しよ組合吏員組織選任

第十二條 本組合ハ舊蒲井堰養水取扱ヒノ爲メ管理者ノ補助トシテ臨時必要ノ場合ニ於テハ組合會ノ議決ヲ經テ條例第三十四條ニ依リ委員ヲ撰任スル事ヲ得 但シ前項ノ場合ニ於テハ實費ヲ辨償シ及相当ノ報酬ヲ給ス該費者其組合ノ負擔トス

第十三條 本組合ハ配水方三名ヲ置キ其配水方ハ旧慣ニヨリ各部落水利委員三名ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 本組合ハ井手係リ三名ヲ置ク其配置等ハ旧慣ニヨリ各部落ニ一名宛ヲ組合會ニ於テ推挙シ管理者之ヲ任用スルモノトス

但シ任期ハ組合會ノ議決ニ據ルモノトス

#### 第六章 組合吏員職務權限

第十五條 舊蒲瀨及段ノ下迄、井手筋修繕ヲ要スヘキ箇所ハ各大字配水方補助員井手係リ立會検査ノ上設計書ヲ造リ年番配水方主擔トナリ各部落補助員井手係リヨシテ修築セシメ或るハ三部落うち入札ヲ伊テ受員トシ工事落成ノ上ハ三部落配水方出来形ヲ検査シ其仕様設計書ニ抵觸スル時ハ改築セシムヘシ

第十六條 配水方ハ旧慣法ニ依リ三ヶ部落交番ヲ定メ主擔トナリ水利費ニ関スル明細帳簿ヲ製シ各自ヨリ費用受取方申出ル時ハ該帳簿ニ登記シ管理者ニ向ヒ支払ヲ請求スヘシ

第十七條 配水方ハ各大字補助員以下人夫出役ヲ監督スルモノトス

第十八條 配水方ハ管理者ノ指揮ヲ受ケ水利ニ関スル一切ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第十九條 井手係リハ配水方ノ指示ヲ受ケ養水期限中日勤シ舊蒲瀨ヨリ段ノ下分レ股迄分水量ヲ謀リ本堰場本村大字山之内ニアル川上村大字北方上井堰ト分水慣行ヲ履行シ専ラ養水引入レ方ニ注意シ且人夫出役ヲ指揮スルモノトス但シ非常ノ場合ハ配水方ノ指揮ヲ乞フモノトス

#### 第七章 組合員心得

第二十條 舊蒲瀨平水ヨリ旧慣ニヨリ大別スル事左ノ如シ

一、十分ノ一 大字樋口新田井口

但シ本村大字山之内川筋大落施行ノ節ハ根水ノ多寡ニヨリ適宜落シ方堪酌スルモノトス

右残り九分ヲ段ノ下分水所ニテ更二十分ト見直シ大別スル事左ノ如シ

一、十分ノ五分五厘 南井手 一、十分ノ四分五厘 北井手

但シ右両井手各大字（樋口、志津川、西岡）三部落分水取り方及取り扱方ハ慣行ニ依ルモノトス

第二十一條 舊蒲瀨井手筋段ノ下北井手南井手分水場所土台掘方ハ左記旧慣ニ依ルモノトス

（明和九年三月取究メタル旧記寫）

一、上土台 長一丈七尺 但シ一尺角

一、水通シ 長一丈 内五尺五寸志津川井手 四尺五寸西岡井手

- 一、中土手 三尺 一、両側凡四尺但シ一方二尺宛ニシテ 一、柱四本長四尺 但シ六寸角
- 一、右柱二樋ヲ掘 一、ハメ板、落シ入ニシテ越水ヲ以テ正直ニ分水 但シ板厚二寸巾一尺
- 一、中土手柱ノ間ハメ板仕込 一、上土台ヨリ井手筋五間下エ土台井手横通シ正直ニ据可申事
- 一、上土台下土台ノ間井手筋疊石ニ可仕事

一、大井手筋トト口疊石正直ニ念入水落ヨリ上土台迄間、五間ニ可仕事

一、上下土台ノ間中土手念入土并板埋水漏不申様ニ可仕事 但シ両方羽口ニ可仕事

一、右土台痛其他取繕ハ井手係リ村々立會相調可申事

一、右普請所入用人足等割賦ノ義ハ古格定法割ノ通り可仕事 一、右分水場所ハ志津川西岡兩村ヨリ番人月置ク

第二十二條照續ニテ下二部落田面養水逼迫ノ節ハ旧慣法ニ依リ大字西岡配水委員ヨリ大字志津川配水委員ト協議ヲ遂ゲ時間割ヲ以テ寄水取方ヲ爲ス事

但シ協議遷延相成候時ハ管理者ノ指揮ヲ乞フモノトス

本条寄水執行中降雨出水アリタル時ハ旧慣ニ拠リ平水ニ復スルモノトス

本條ノ寄水取り方順序及時間割法ハ左ノ如シ

一、一昼二夜 大字西岡 但シ日入ヨリ始メ一日ヲ置キ其翌日、日出限リ旧十八時間

一、三日二夜 大字志津川 但シ日出ヨリ始メ三日目ノ日ノ入り限リ旧三十時間

一、一昼一夜 大字樋口 但シ日入ヨリ始メ翌日、日入限リ旧拾貳時間

第二十三條寄水取方ノ節ハ番水前日大字樋口志津川水取井手各所ヲ留メル「コゲ」ハ水取番部落ヨリ運搬スルモノトス但シ該費用ハ水取番部落負担トス

第二十四條寄水時間中ハ番水取方各大字ヨリ留メ切り各所エ番人ヲ配置スルコト

但シ前條番人監督トシテ配水方打廻及ピ立番人ヲ附スル事アルベシ

第二十五條寄水配り方ノ外平水タリトモ北南井手筋水落人夫ヲ出ス事アルベシ

但シ該費用ハ水取番ノ部落ノ負担トス

第二十六條照續ニテ寄水実施スルモ尚養水欠乏スル場合ニ於テハ旧慣法ニ依リ本村大字山之打ち川筋大落水施行スルモノトス。本条大落水ハ志津川、西岡兩部落ニ關係アルモノニシテ大字樋口ニハ更ニ關係ナキヲ以テ該件ニ要スル費用ハ本組合費外ノ取扱ヒニ、ナルモ水路ニ關係セシヲ以テ本条ヲ以テ設ケ置ク尚施行ニ係ル一切ノ取扱ハ旧慣ヲ適用スルモノトス

第二十七條菖蒲水ニ掛ル取扱方ハ前條ニ掲グルトモ、モ尚旧慣及安政二卯年七月旧藩政代官菱田左源次殿ヨリ旧三ヶ村へ下渡相成タル規約ニ據ルモノトス 但シ大字樋口字舟小屋東ニアル新井手ト称スルハ同大字音井工新井手ヲ設ケ變更セシモノナリ

第二十八條大字樋口片山井口大字志津川井手口裏田井口ノ義ハ文化十三年五月取換證書ニ據リ施行スルモノトス

#### 第八章 組合賦課法

第二十九條本組合費ノ賦課法ハ条例第三十三條及第三十八條ヲ摘要シ旧慣分水法ニ基キ組合各大字限りノ賦課額ヲ定ム其歩左ノ如シ

- 一、本組合費額十分ノ五 大字志津川 一、同上、十分ノ二分七厘五毛 大字西岡
- 一、同上、十分ノ二分二厘五毛 大字樋口

第三十條本組合費ハ前條ニ掲クル旧慣分水法ヲ根拠トシテ組合各大字限り課額ヲ定メタル上、之レガ組合員ニ賦課額ヲ定ムルハ大字限りニテ各旧慣法ニヨリ管理者ニ於テ賦課スルモノトス

第三十一條本組合ハ其必要ニ依リ夫役及現品ヲ組合員ノ全部又ハ一部ニ賦課スルコトヲ得之ニ關スル課額ハ前條組合會ノ議決ニ依ル

(昭和十年三月十八日改正同年三月三十一日指令、地第一三七〇号許可)

第三十二條組合員ニシテ夫役ヲ出ス能ハサル者及時宜ニヨリ金錢代用ヲ以テ徴収ス 但シ夫役ヲ以テ金錢へ代フル金額ハ組合會ノ議決ニヨル

第三十三條本組合打ち二關係スル養水路床賦米旧價徴収額及負擔額并二支給額各大字ノ分別左ノ如シ

一、米貳拾五石八斗五榦 井手床賦米徴収額

内、米拾四石八榦 大井手床賦米 内 但シ従前ノ負擔額左ノ如シ

米六石七斗四榦八合 大字志津川 米四石三斗六榦貳合 大字西岡

米貳石九斗七榦 下浮穴郡田窪、牛淵村

但シ數十ヶ年前ヨリ該面村分水ヲ要求セズ且賦米ハ明治十二年以來分担セズ隨テ其分水ハ當三部落配水ノ慣行トナリ賦米ハ樋口ノ欠損トナリタリ依テ當明治二十五年年度ヨリ本組合（樋口、志津川、西岡）ノ分水法ニ依リ負擔ヲ議定スル事左ノ如シ

米一石四斗八榦五合 大字志津川 米八斗一榦七合 大字西岡 米六斗六榦八合 大字樋口

内但シ安政二卯年ヨリ負擔額ヲ定ムル左ノ如シ

米七斗二榦一合 大字志津川 米三斗九榦七合 大字西岡 米三斗二榦四合 大字樋口

米一石三斗五榦六合 葛蒲井手床賦米 内但シ従来ノ負擔額左ノ如シ

米六斗七榦八合 大字志津川 米二斗七榦一合 大字樋口 米四斗〇七合 大字西岡

米六斗七榦八合 同井手筋押田地與内米

但シ従来ヨリ三榦八合ト六斗四榦ノ二筆ニシテ負擔學左ノ如シ

内 米三斗三榦九合 大字志津川 米一斗八榦六合 大字西岡 米一斗五榦三合 大字樋口

米七石四斗七榦 泉井手床賦米 但シ従来ヨリ負擔セシモノナリ

内 米七石四斗七榦 大字志津川負擔

米五斗二榦四合 新左衛門東字音井手床賦米 但シ安政二卯年ヨリ負擔セシモノナリ

内 米五斗二榦四合 大字志津川負擔 米三斗 留メ地井手床賦米 但シ従来ヨリ負擔セシモノナリ

内 米三斗 大字西岡負擔 右負擔額寄左記ノ通り

一、米十七石九斗六桮五合 大字志津川 一、米六石三斗三桮三合 大字西岡  
一、米一石五斗五桮二合 大字樋口 計二十五石八斗五桮  
右支給額左記之通り

一、米二十四石一斗九桮四合 大字樋口 一、米一石三斗五桮六合 大字山之内  
一、米三斗 大字志津川 計米二十五石八斗五桮

#### 第九章 雜則

第三十四條撰擧ノ方法及其効力ノ有無其他本規約ニ明文ナキモノハ町村制第十九條ヨリ第二十三條第二十六條ヨリ第二十八條ニ至ラン摘要ス

第三十五條本組合會ノ細則ハ本村會細則ニ準據スルモノトス

第三十六條本組合費ノ徵收及息納處分ハ本村稅ノ條例ヲ摘要ス

但シ大正三年山之内井米敷買収ニ付現今ノ負擔左ノ如シ

以上

十七石二斗八桮七合 志津川 五石九斗二桮六合 西岡 一石二斗八桮一合 樋口 計二十四石四斗九桮四合  
大正三年各部落普通推理組合規約ヲ制定ス 同年五月西岡 同年六月大字樋口、志津川

#### 四、推理豫算、并ニ決算

昭和十一年度樋口外二部落普通推理組合歳入歳出決算

歳入合計金壹千八百九拾三円五十八錢

歳出合計金壹千六百二十二円七十四錢

差引殘金貳百七拾圓八拾四錢也 昭和十二年度繰越

昭和十三年度歳入豫算 一、金貳千六百九拾円也

同 歳出豫算 一、金貳千六百九拾円也

右内容説明ノ爲メ左式關係書類添附シ置ク

報告第一號

昭和十一年度樋口外武部落普通推理組合歳入歳出決算書組合會計本村収入役ヨリ提出ニ付審査スルニ収支其ノ命令ニ適合シ遺算ナシ依而別紙ノ通り報告ス

昭和十三年二月二十五日提出

樋口外二部落普通推理組合 管理者 北吉井村長 丹生谷 博孝

昭和十一年度樋口外二部落普通推理組合歳入歳出決算説明

歳入 第一款 組合費 金壹千五拾八円七拾四銭也

第一項 地租附加税 金九百五拾八円五十六銭也 第二項 特別地稅附加税 金壹百円拾八銭也

第二款 財産ヨリ生スル収入 金貳拾円五拾貳銭也 第一項 貸地料 金貳拾円五拾貳銭也

第三款 雜收入 金七百四拾九円八拾七銭也

第一項 賞與米代 壹円拾貳銭也 第二項 過年度收入 金七百四拾八円七拾五銭也

第四款 繰越金 六拾四円四拾五銭也 第一項 繰越金 六拾四円四拾五銭也

歳入合計 金壹千八百九拾參円五拾八銭也

歳出 經常部

第一款 管理費 金壹百九拾九円七拾四銭也

第一項 給料 貳拾円 第二項 雜給 金一百六拾五円參拾八銭也 第三項 需要費 金拾四円參拾六銭也

第二款 會議費 金四拾壹円六拾壹銭也

第一項 費用辨償額 金參拾円也 第二項 雜給 金八円四拾銭也 第三項 需要費 金貳拾一銭也

第三款 事業費 金四百七円六拾九銭也

第一項 水路非 金八拾貳円八拾壹銭也 第二項 井堰費 金參百貳拾四円八拾八銭也

第四款 雜支出 金六百七拾四円九拾銭也

第一項 借地料 金七拾參円五拾七錢也 第二項 過年度支出 金六百老円參拾參錢也

第五款 諸稅負擔 金八錢也 第一項 諸稅負擔 金八錢也

第六款 豫備費 金 第一項 豫備費

歲出經常部合計 金老千參百貳拾四円貳錢也

歲出臨時部

第一款 事業費 金貳百九拾八円七拾貳錢也

第一項 水路費 八拾參円九拾錢也 第二項 井堰費 老百九拾五円四拾貳錢也

第三項 番小屋修繕 拾九円四拾錢也

歲出臨時部合計 金貳百九拾八円七拾貳錢也

歲出合計 金老千六百貳拾貳円七拾四錢也

歲入歲出差引殘金貳百七拾円八拾四錢也 昭和十二年度へ繰越金トナル

昭和十一年度樋口外二部落普通推理組合歲入歲出決算説明

科		目		本年度決算高		本年度豫算高		増比	
第一項 組合費								増	減
第一項 地租附加稅				一〇〇、一八〇	一二五				二四、八二〇
	第一目	志津川負擔	五六一、六三〇	八三六					二七四、三七〇
	第二目	西岡負擔	二二六、三〇〇	三六八					一四一、七〇〇
	第三目	樋口負擔	一七〇、六三〇	二一六					四五、三七〇
第二項 特別地稅				一〇〇、一八〇	一二五				二四、八二〇
第一項 組合費				一〇〇五八、七四〇	一〇五五五				四八六、二六〇
第一項 地租附加稅				九五八、五六〇	一〇四二〇				四六一、四四〇

第款	科	歳出		第款	管理費	
		本年度決算額	本年度豫算額			
		比	較			
		増	減			
附加税	第一目志津川負担	五六、九六〇	七三		一六、〇四〇	
		第二目西岡負担	三三、〇九〇	三五		一、九一〇
		第三目樋口負担	一〇、一三〇	一七		六、八七〇
	第二款財産ヨリ生ズル収入		二〇、五二〇	二〇		〇、五二〇
		第一項貸地料	二〇、五二〇	二〇		〇、五二〇
		第一目貸地料	二〇、五二〇	二〇		〇、五二〇
	第三款雑収入		七四九、八七〇	八三三		八三、一三〇
		第一項賞與米代	一、一二〇	一一		九、八八〇
	第二項過年度収入		七四八、七五〇	八二二		七三、二五〇
		第一目過年度収入	七四八、七五〇	八二二		七三、二五〇
	第四款繰越金		六四、四五〇	六四		〇、四五〇
		第四目繰越金	六四、四五〇	六四		〇、四五〇
歳入合計		一〇、八九三、五八〇	二〇、四六二		五六八、四二〇	
第款		一九九、七四〇	二〇四		四、二六〇	

第三款 事業費	第三項需要費		第二項雜給		第一項費用辨償額		第二款 會議費								第二項雜給		第一項給料	
	第一目消耗品費	第二目雜費	第一目使丁給	第二目雜費	第一目費用辨償額	第一目費用辨償額	第八目手當	第七目報酬	第六目雇人給	第五目旅費	第四目使丁給	第三目堰板預給	第二目井手係給	第一目實費辨償額	第一目書記給料			
四〇七、六九〇	二一〇	二一〇	三、〇〇〇	五、四〇〇	八、四〇〇	三三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	三一、七三〇	二、四〇〇	四五〇	一、〇〇〇	七五、〇〇〇	三一、八〇〇	一六五、三八〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	
五一九	一	一	一五	三	一八	四二	一〇	一三	四〇	一	一	一	七五	三一〇、八〇〇	一七二	二〇	二〇	
									一一、四〇〇									
一一一、三一〇	七九〇	七九〇		九、六〇〇	九、六〇〇	九、〇〇〇			八、二七〇		五五〇				六、六二〇			

歲出經常部合計	第一項 水路費		第二項 井堰費			第四款 雜支出			第一項 借地料		第二項 過年度支出		第五款 諸稅負擔		第一項 諸稅負擔		第六款 豫備費		第一項 豫備費		
	第一目 需要費	第二目 人給	第一目 需要費	第二目 雇人給	第三目 負擔金	第一目 借地料	第二目 番小屋敷地	第一目 過年度支出	第一目 諸稅負擔	第二目 諸稅負擔	第一目 豫備費	第一目 過年度支出	第一目 諸稅負擔	第二目 諸稅負擔	第一目 豫備費	第二目 豫備費	第一目 豫備費	第二目 豫備費	第一目 豫備費	第二目 豫備費	
一〃三二四、〇二〇																					
	八二、八一〇	一七、三一〇	六五、五〇〇	三二四、八八〇	一一八、五〇〇	一九三、七八〇	一二、六〇〇	六七四、九〇〇	七三、五七〇	六八、〇一〇	五、五六〇	六〇一、三三〇	六〇一、三三〇	〇八〇	〇八〇	〇八〇					
二〃一五三	七六	一八	五八	四四三	一一七	一七六	一五〇	一〃二六八	六六八	六六二	六	六〇〇	六〇〇	一	一	一					
	六、八一〇	七、五〇〇	一、五〇〇	一七、七八〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇														
八二八、九八〇																					
	六九〇																				
	一三三、四〇〇																				
	五九三、一〇〇																				
	五九四、四三〇																				
	五九三、九九〇																				
	四四〇																				
	九二〇																				
	九二〇																				
	九二〇																				
	〇八〇																				
	〇八〇																				
	〇八〇																				
	一〇〇、〇〇〇																				
	一〇〇、〇〇〇																				
	一〇〇、〇〇〇																				
	八二八、九八〇																				

議案第一號

昭和十三年度樋口外二部落普通推理組合費支辨ノ爲賦課スヘキ各部落負担額及賦課率ヲ左ノ通り定メムトス  
昭和十三年二月二十五日提出

樋口外二部落普通水利組合管理者北吉井村長 丹生谷 博孝

記

一、金貳千貳百四拾貳圓也 各部落負担額 内譯

金八百八圓也 組合規約第三十三條ノ分(賦米) 金壹千四百參拾四圓也 同 第二十九條ノ分(經費)

計金貳千貳百四拾貳圓也 内 大字志津川負担金

金七百拾七圓 組合規約第二十九條ノ分 金五百七拾圓 同 第三十三條ノ分

計壹千貳百八拾七圓 内

金壹千壹百九拾貳圓 地租附加税 但シ田宅地租一圓二付一円八厘

金九拾五圓 特別地稅附加税 但シ賃貸價格百分ノ三、一 百分ノ一二二、一八

内、大字西岡負担金

金參百九拾四圓 組規約第二十九條ノ分 金壹百九拾六圓 同第三十三條ノ分 計金五百九拾圓

内、金五百四拾四圓也 但シ田宅地租一円二付八拾五錢四厘

金四拾六圓也 但シ田賃貸價格百分ノ三、一 百分ノ一〇三、五

内、大字樋口負担 金參百貳拾參圓也 組規約第二十九條ノ分 金四拾貳圓也 同第三十三條ノ分

内、金參百參拾七圓也 但シ田宅地租一円貳付四拾八錢二厘

金二拾八圓也 但シ田賃貸價格百分ノ三、一ノ百分ノ五八、三六

不均一賦課ノ理由

一、組合規約第二十九條及第三十三條ニ依ル

宅地二課税ヲナス理由

一、宅地二水利費ヲ課スルハ當組合内ハ旱魃ニ際シ飲料水並使用水ニ欠乏ヲ来ス事ハ既往ニ激シ明カナリ此ノ場合ニ於テ組合ノ經費ヲ以テ得タル水量ヲ分子テ宅地内ニアル水溜ニ引入シ使用シ又田、歩植ヲナス場合モ宅地ヲ算入シ田ノ歩合ヲ求ムルガ故ニ水利費ヲ課スル所以ナリ

議案第二號

昭和十三年度樋口外二部落普通水利組合費支辨ノ爲メ制限外課税ヲ内務、大藏兩大臣ニ稟請スルモノトス  
昭和十三年度ニ於ケル賦課スル地租附加税、特別地稅附加税ノ賦課率左ノ如シ

記

一、田宅地租附加税 地租一圓二付キ志津川負担一圓八厘 西岡負担八十五錢志厘

一、特別地稅附加税 田賃貸價格ノ百分ノ三、一

志津川負担百分ノ一二二、一八 西岡負担百分ノ一〇三、五

制限外課税ノ理由

當組合ノ事業ヲ遂行シ水利ノ完全普及ヲ計ルニハ毎年二千余圓ノ支出ヲ要ス然ルニ本年度ニハ歳出ニ於テハ可及的ノ節減ヲナシ負担ノ輕減ヲ計レ共然モ本年度ヨリ土地賃貸價格ノ改定等ニ因リ自然賦課率モ増シ、尚歳出合計二千余圓ノ支出ヲ要レバ本年度ニ於テ制限外課税ノ義内務、大藏兩大臣ニ稟請セムトスル所以ナリ

議案第三號

昭和十三年度樋口外二部落普通水利組合歳入歳出豫算ヲ左ノ通り定メムトス

昭和十三年二月二十五日提出

樋口外二部落普通水利組合管理者來た吉井村長 丹生谷 博孝

記

歲入 一、金貳千六百九拾圓也 歲入豫算高

歲出 一、金貳千四百九拾八圓也 經常部豫算高 一、金百九拾貳圓也 臨時部豫算高

歲出合計金貳千六百九拾圓也 歲入歲出差引殘高ナシ

昭和十三年度樋口外貳部落普通水利組合歲入歲出豫算書

歲入

第一款 組合費 金貳千貳百四拾貳圓

第一項 地租附加稅 金貳千七拾參圓 第二項 特別地稅附加稅 金壹百六拾九圓

第二款 財產ヨリ生スル收入 金貳拾五圓 第一項 貸地料 金貳拾五圓

第三款 雜收入 金四百拾參圓 第一項 賞與米代 拾參圓 第二項 過年度收入 四百圓

第四款 繰越金 金拾圓 第一項 繰越金 金拾圓

歲入總計 金貳千六百九拾圓也

歲出 經常部

第一款 管理費 金貳百七拾七圓

第一項 給料 金貳拾圓 第二項 雜給 金貳百四拾四圓 第三項 需要費 金拾參圓

第二款 會議費 金壹百參拾圓

第一項 實費辨償額 金七拾貳圓 第二項 雜給 金五拾參圓 第三項 需要費 金五圓

第三款 事業費 金四百七拾四圓

第一項 水路費 金七拾六圓 第二項 井堰費 參百九拾八圓

第四款 雜支出 金壹千四百六拾六圓

第一項 借地料 金八百拾六圓 第二項 過年度支出 金六百五拾圓

第五款 諸稅負擔 金一圓

第五項 諸稅負擔 金壹円

第六款 豫備費 金壹百五十圓

第一項 豫備費 金壹百五十圓

經常部合計金貳千四百九十八圓也

歲出 臨時部

第一款 事業費 金壹百九十貳圓

第一項 水路費 金五十圓 第二項 井堰費 金壹百四拾圓

第三項 番小屋修繕費 金貳圓

臨時部合計 金壹百九拾貳圓

歲出總計 金貳千六百九拾圓也

歲入歲出差引殘金ナシ

昭和十三年度樋口外貳部落普通水利組合歲入歲出豫算說明

科	目	入		附記	
		本年度豫算額	前年度豫算額	增	減
第一款 組合費		二〇二四二	一〇八五六	三八六	
第一項		二〇〇七三	一〇七〇二	三七一	
地租附加稅	第一目 志津川負擔	一〇一九二	九八二	二一〇	田宅地一、一八三円二餘、地租一円二角一分八厘
	第二目 西岡負擔	五四四	四四四	一〇〇	田宅地六三七円二餘、地租一円二角九分五厘四厘
	第三目 樋口負擔	三三七	二七六	六一	田宅地七〇〇円二餘、地租一円二角四分八厘二厘
第二項 特別		一六九	一五四	一五	
地稅附加稅	第一目 志津川負擔	九五	八七	八	田實貸價額二五二〇円(百分)三三(百分)一二二
	第二目 西岡負擔	四六	四四	二	田實貸價額一四四九円(三三)一〇三、五
	第三目 樋口負擔	二八	二三	五	田實貸價額一五五四円(三三)一七八、三六





第三項需要費		第一目消耗品費		五	一	四	四	諸材料見込
第三款 事業費		第四四		四七四	五一八		四四	諸材料見込
第一項水路費		第一目需要費		七六	七六			諸材料見込
第二項井堰費		第二目雇人給		五六	五六			一日八十錢ノ七十人見込
		第一目需要費		三九八	四四二		四四	
		第一目需要費		一二〇	一四〇		二〇	俵形長五尺末口七寸末八寸土合盛三間末口六寸 二本七間形二間末口四寸二十本十三間末口八寸末口 二寸五分一四〇本十五間末口一〇〇箇二四間末口 二〇間末口二間末口四寸一本一円其他雜費五二円
第四款 雜支出		第二目雇人給		一二八	一五二		二四	一日八十錢ノ一六〇人分
		第三目負担金		一五〇	一五〇			舊橋上堰工事費三部落負担
第一項借地料		第一目借地料		八〇九	六八六	一一三		本取井手浦北六字樋口共有地蔵米十一石一斗一升田 牛瀨井手樋口共有地蔵米二石九斗七升惠本男井手一石 四斗四升二合兼出共内六斗七升八合兼井手樋口共有地 蔵米七石四斗七升留地兼井手内三斗音井手五斗二升四 合計二十四石四斗九升四合代三十三円
				八一六	六九二	一二四	一一四	
				一〃四六六	一〃三五二			



歳出臨時部合計	修繕費	
	第一目需要費	第二目雇人給
歳出総計	二〇六九〇	二〇六〇一
	一九二	二五二
	—	—
	八九	六〇
		見込
		見込

議案第二號

昭和十三年度樋口外二部落普通水利組合費支辨ノ爲メ制限外課税ヲ内務、大蔵両大臣ニ稟請スルモノトス  
 昭和十三年度ニ於ケル賦課スル地租附加税、特別地稅附加税ノ賦課率左ノ通り

記

- 一、田宅地租附加税 地租一圓二付キ 志津川負担一圓八厘 西岡負担八拾五錢四厘
- 一、特別地稅附加税 田賃賃價格ノ百分ノ三一 志津川負担百分ノ一二二、一八 西岡負担百分ノ一〇三、五

制限外課税ノ理由

當組合ノ事業ヲ遂行シ水利ノ完全普及ヲ計ルニハ毎年二千余圓ノ支出ヲ要ス然ルニ本年度ニハ歳出ニ於テハ可及的  
 ノ節減ヲナシ負担ノ輕減ヲ計レ共然モ本年度ヨリ土地賃賃價格ノ改定等ニ因リ自然賦課率モ増シ尚歳出合計二千余圓  
 ノ支出ヲ要レハ本年度ニ於テ制限外課税ノ義内務、大蔵両大臣ニ稟請セムトスル所以ナリ

五、溜池 井泉

大字樋口部落

- 菅蒲谷池 周囲三丁拾間 面積三反二畝歩 段池 周囲一丁三間 面積六畝二十二歩
- 日吉谷新池 周囲四丁二十五間 面積一町二反三畝歩 明示四二年余ケ決壊后ハ直接養水ノ方法ヲ構セス
- 日吉谷古池 周囲一丁十八間 面積一町四畝十九歩昭和十一年三反歩余ノ田ヲ買収池床ノ拡張ヲナセリ

大字志津川部落

追入池 周囲五丁八間 面積二町六反三畝十四歩 新池 周囲三丁二間 面積三反二畝十歩  
追入新池 周囲四丁二十間 面積一町五反六畝二十一步 昭和十年度池堤防ノ補強カサ上ケヲナシタリ  
前川池 周囲六丁五間 面積三町八反十一歩 昭和八年度ヨリ工事施工養水ノ施設ヲナシタリ  
井泉二ヶ所 昭和九年旱魃直後字八反地ニ構築セリ

大字西岡部落

山田上池 周囲四丁十二間 面積五反一畝十六歩 山田下池 周囲三丁二十間 面積一町十八歩  
犁先池 周囲二丁十八間 面積六反一畝十歩 中池 周囲二丁二十五間 面積五反八畝十歩  
奥屋敷新池 周囲七丁三十間 面積三町二反六畝十二歩 北池 周囲三丁四十間 面積六反八畝歩  
原池 五丁二十八間 周囲五丁二十八間 面積三町四反九畝十一歩 原新池 周囲二丁十五間 面積五反七畝  
以上ノ外三部落泉アルモ現在ニテハ少量ノ涌水ヲ見ルノミ

六、水利委員 補助員

當時人 樋口外二部落普通水利組合管理者 北吉井村長 丹生谷 博孝  
樋口水利委員 土屋 安太郎 同補助員 水田 逸雄  
志津川水利委員 渡部 逸蔵 同補助員 山内 駒太郎 同 和だ 廣一 同 文野 爲幸  
西岡水利委員 須川 福載 同補助員 和田 恭四郎 同 片山 百太郎 同 宮本 種次郎

第六章 衛生

一、村醫

医師の存置ヲ見ザル本村ハ誠ニ時代錯誤ノ感ヲ深クスル然シ過去ニ於テ存在シタル医師ハ徳永壽三、野村良哲、野

村謙吉、宇野清長、堀内某ノ各氏アリ其間中絶シタルモ田中直也氏村医トシテ赴任二年ナラズシテ大正十年死亡其後  
水泥ノ岡添、川上ノ渡部、山本ノ諸氏ノ出張所設置アリタルモ二、三年ニシテ止ミ以来醫師ヲ有セズ。其間關係者ノ  
憂慮奔走ヲ見タルコトアリタルモ實現ノ運ビニ至ラズシテ今日ニ及ンデ居ル何ノ原因ニ起因スルカ知ラザレドモ村民  
八一重二一日モ早ク医師存置ノ實現ヲ希望シテ止マヌノデアル

現在村醫トシテハ南吉井村大字田窪在住浜田次良氏ヲ以テ囑託トシテ定期種痘及小學校兒童想丁ノ、トラホーム検  
診定期体格検査等ヲ施行シ居リ、其他患者ノ希望ニ依リ川上村等ノ医師ノ應診ヲ得テ居ル現状デアル。只此處ニ不便  
ト經濟的重壓ヲ忍ビナケレバナラス村民ハ亦各個ニ各々自戒スル所アツテ医師存置ノ實現ヲ早ヤカラシム様村当局ニ  
助力セナケレバナラヌト思フ

## 一、傳染病

昭和重二年度ニ於ケル本村ノ衛生状態ヲ左記ス

傳染病患者發生狀況

チフテリア 一〇 猩紅熱 一 腸チブス 一 計一二

土地不便ナル山之内ニ發生ヲ見タモノデアルガ患者ノ發生スルヤ直チニ山之内校兒童ニ豫防注射ヲ施行スルコト三  
回漸ク傳染病ヲ右野數ニ食ヒ止メ得タルハ不幸中ノ幸ト云フ可ク結果ニ於テ、チフテリア患者一名ノ死亡ヲ見タルノ  
ミ他ハ全治スルヲ得タル次第デアル衛生思想ハ村民一般ニ普及徹底ヲ要することゝなるが一度傳染病ニ襲ハレタル場合  
ハ決シテ隠匿ヲセズ自ラ人々ト接觸ヲ避ケ早く手當ヲナスベキデアル尚清潔掃除ハ毎年四月中ニ規定ニ依リ施行ヲナ  
シ傳染病ノ撲滅ヲ期シテ居ル

傳染病ニ對シ各村ニ避病舎建設ヲ命令致サレタルハ明治二十八年ノ事ニシテ本村ニ於テハ明治二十九年四月二十八  
日郡役所ヨリ設置督促ヲ受ケ同年五月十一日ノ村會ニ附議シテ居ル。夫ニ依ルト各部落ニ設置スルカ一ヶ所ニ設置ス  
ルカノ兩案ヲ出シテ居ルガ結局一ヶ所トナリ大字志津川ニ設ケル事トナリ建築費三百二十二圓（坪當七円）造作付建  
坪四十五坪ノ豫算テ行ハレテ居ル其ノ後大字山之内岡ヘモ避病死舎ノ建築ヲ見タノデアル

現在ノ避病舎ハ志津川字なつめニアリ敷地一反六畝十九歩ヲ有シ昭和九年二月落成ヲ見タルモノニテ地方ニ於テ最モ完備セル病しやノ一ツトナツタ該建築要項隨意契約三千三百圓 請負者青木利助 着手昭和八年十一月二十八日落成昭和九年二月十五日村長渡部 盛一

### 二、産婆、出生、死亡

本村ニ於ケル産婆開業ヲナセルモノ左ノ如シ

中村 マサ 吉田 弘子 鐵宮 ハツ 和田 禎

昭和十二年度ニ於ケル本村出生数

男 九三

女 九八

計一九一

内非本籍人出生 九

昭和十二年度ニ於ケル死亡者数

男 五六

女 四〇

計九六

内非本籍人死亡七

### 四、壮丁検査成績

昭和十二年度徴兵検査ヲ受クベキ壮丁人員

適齡者 四七

現役志願者 六

入寄留受檢者 一

既二兵籍ニ編入セルモノ 二

十一年度即日飯郷者 三

在學徵集延期 四

在外徵集延期 三

所在不明 一

計六七

昭和十二年度徴兵検査成績

受檢者五十九名中甲種合格二十五名

現役兵トシテ徵集ヲ命セラレタルモノ

歩兵一一

騎兵一

砲兵一

航空兵一

輕重兵特務兵一

補助衛生兵一

海軍主計兵一

水兵一

海軍志願兵六名

内合格採用セラレタルモノ

水兵三、

掌電信兵一

## 第七章、郵便局

### 一、沿革

郵便事務ガ本縣ニ創始サレタルハ明治五年三月デアル松山ニ郵便所ガ設置サレ其ノ管内ニ郵便取扱人及切手賣捌人ヲ置イタル尚陸運會社ナルモノヲ各所ニ置キ郵便物ノ運送ヲ開始セシメタ、縣下二十七ヶ所デアツタ此ノ地方

八東八松瀬川西八久米二設ケラレテ居タ

從テ田窪二三等郵便局ノ設置ヲ見ル迄ハ川上郵便局ノ區内ニアリ別ニ電報取扱ハ伊豫鉄道横河原駅ニ於テ事務ヲ取ツテ居タ

大正十一年七月十一日二至ツテ本村民ノ與望ノ實現ヲ見、最初無集配ナガラ横河原三等郵便局ノ設置ヲ見、初代局長トシテ和田伍郎氏就任シ局舎ヲ横河原駅前佐伯國一氏宅ノ隣ニ設ケテ開業ノ運ヒトナツタ其後川上村渡部長氏局長ヲ命就任セシガ昭和三年三月二十六日坂本輪市氏之レニ代リテ就任シ局舎ヲ現在ノ位置ニ新築シ昭和四年九月六日ヨリ公衆電話事務ヲ扱ヒ昭和七年十月一日ヨリ電話開設ノ運ヒヲナシ昭和九年二月一日集配局ニ昇給セシメ翌十年三月二十七日ヲ以テ退職坂本良雄氏其ノ後ヲ就任シテ今日二至ル

昭和十年八月一日ヨリハ横河原驛取り扱ノ電報事務ヲ接收シ昭和十二年四月一日ヨリ志津川部落ヲ二回集配ニナシタ 從業員一同協力一致良々努力ノ結果昭和十二年度ニハ通信局ヨリ模範見學局ニ指定セラレ且ツ褒状ヲ授與セラレタ

### 二、事業開始年次並二種類

郵便 通常 大正十一年七月十一日 小包 同 集配 昭和九年二月一日

電信 和文 昭和十年八月一日

電話 交換普通 昭和七年十月一日 交換特設 昭和六年四月一日 通話 昭和四年九月六日

貯金 大正十一年七月十一日

為替 内國 大正十一年七月十一日 外國 昭和九年二月一日

### 三、事業成績

昭和十二年度末現在

年金保險 十三件 千五百圓 カンイ保險 千〇〇五件 十一万二千三百九十四圓

貯金 三千八百件 四萬三千圓 事業國債 八千三百圓 非常時貯金加入 二百件

電話數 二七 電報取り扱高 三千八百件約 電話取り扱高 一萬九千件約

四、里程

横河原局起點

田窪局 三キロ百 平井局 六キロ五 久米局 十キロ百 松山局 十五キロ三

三津濱局 二十二キロ四 郡中局 二十七キロ七 川上局 二キロ六百

五、雜項

歴代局長 和田 伍郎 渡部 長 坂本 和市 坂本 良雄

集配區域 北吉井村市圓

切手賣捌所 山之内 二ヶ所 樋口 一ヶ所 志津川 一ヶ所 西岡 二ヶ所

従業員 十名

# 第八章 交通

## 一、伊豫鉄道

伊豫鉄道横河原線ノ開通ハ明治三十二年十月デアル以來昭和十三年迄八十四ヶ年ヲ經過シテ居ルガ其間ノ横河原ノ發展状態ヲ見ルニ實ニ滄海ノ變化ヲ来シテ居ル古老ノ言ヲ聞クニ五十年前以前ハ民屋ニ、三軒アルノミテ小松原ノ荒地ニ過キズ婦女子ノ通行モ晝間サエ危険視サルル所デアツタト云フ然ルニ今日人家式百軒余ヲ算シ商家櫛比ノ現状デアリ一行政區ガ設ケラレ實ニ本村ノ大玄関口タルノ發展ヲ見タルハ一重ニ伊豫鉄道ノ恩恵デアル本村以東ノ貨物ノ集散地デアリ交通ノ要衝トシ將來益々發展ノ途上ニアルト云フ可キデアル

### 伊豫鉄道横河原驛一ヶ年營業成績

乗客数 五五〇〇名 降客数 六六〇〇名 切符賣上高 一二〇八六〇圓 荷物取扱 三〇八五〇屯  
荷物取扱金高 三〇八五〇圓 定期乗車券数一ヶ月 九九名

### 二、周桑自動車

横河原驛ト周桑郡丹原町小松町ヲ結ブ陸上交通ハ人力車、馬車ヲ以テ從來唯一ノ交通機關トシテ居タガ大正八年頃

東豫自動車株式會社（横河原、西條間）ノ開通ヲ見ルニ至ツタ然シ回数ノ少キト賃金ノ高價ナルヨリ利用者少ナカリシガ昭和二年四月四國鉄道高松、松山線ガ順次西ニ延長サレルニ從ヒ周桑自動車株式會社ノ創立ヲ見、時間ノ改正ヲ計リ増發ヲ行ヒ車程モ松山迄延長セシニヨリ利用者増加シ從來ノ人力車、馬車ハツイニ影ヲ消スニ至ツタ現在横川自動車停留場ヲ通過ノ運轉狀況ハ左ノ如シ

上り松山行 午前七時半ヨリ午後六時迄、十一回

下り川上、周桑方向行 午前八時五十分ヨリ午後六時迄（川上止り）十一回

賃金 松山三十五錢 久米二十錢 平井十五錢 川上十五錢 河ノ内四十錢

湯谷口七十五錢 小松一円二十錢

横河原乗客数（一ヶ年） 約一千人 賣上金高三千五百圓

### 三、道路 橋梁

一、国道第二十四号線 起点松山市一番町ヨリ香川縣ニ至ル

一、北吉井森松線

一、北吉井、三芳停車場線 昭和十三年度ニ於テハ大字山之内荒木谷迄

一、天神橋 大字西岡 鉄筋コンクリート造 内川大正八年

一、横河原橋 横河原 鉄筋コンクリート造 重信川昭和五年

## 第九章 砂防

### 砂防工事

本村大字山之内ヲ水源トスル重信川ハ古来本村ノ政治産業ニ重大關係ヲ有スルコトハ水利ノ章ニ於テ已ニ記述シタ通りデアアルガ水源地ノ人爲的自然的荒廢ニヨリ出水ノ度、下流域地方ニ被害ヲ蒙ルコト夥シキ状態デアツタ之ガ改修

改善ハ古来久シキニ亘レル要望デアツタ故ニ地元村トシテハ山之内保安林ノ設定ヲ申請シテ養水ト并セテ治水ノ目的トニ備ヘンガ爲メ三千六百町歩ノ保安林ヲ指定シ濫伐ニヨル被害ヲ豫防シタノデアツタ尚内務省河川防護事業トシテ愛媛縣土木課ハ大正八年以來水源地荒廢箇所ノ復旧特ニ急傾斜山復ノ荒無地ノ植樹保強、溪流ノ土砂堰止メ工事等除々ニ施工計画ヲ進メ上流ヨリ漸時下流域ニ及ホシ遂ニ除ケニ於ケル一大堰堤築造ヲ計画竣功セシメタ附随事業トシテ附替道路九百米ニ連繫セシメテ北吉井村三芳停車場線ノ縣道工事モ目下字荒木谷迄延長サル事トナリ近ク竣工ヲ見ントシテ居ル實ニ砂防工事ト并セテ山之内分落ハ将来ニ於テ大ナル交通上經濟上ノ便宜ヲ得ルコトトナツタ

堰堤ノ工事報告ヲ記述セバ左ノ如シ

位置 温泉郡北吉井村大字山之内字除ケ

起工 昭和七年十月十一日 竣工 昭和十年三月三十一日

經費 貳拾萬一千六百八十二圓 使用人夫延 拾四萬七千二百五十六人

勞力費 拾壹萬八千五百六十六圓

工事内容

主堰堤 長一一五米 水通部 直高一二米 上立積八〃三六九立米

副堰堤 長九二米 水通部 直高七米 上立積一〃九六三立米

水叩 長 二〇米 幅 七五、五米 護岸 長 一〇九、五米

附替道路 幅 四、六米 長 九〇〇米

床掘及排水路掘鑿土砂 六九〃九九〇米

型式 直線型重力堰堤 材料 栗石交混凝土

重信川工営所主任 古茂田 重行

以上ノ砂防工事竣功ヲ紀念センガタメ渡部盛一氏等四名ハ建碑發起人トナリ縣知事大場鑑次郎氏ニ揮毫ヲ依頼シ裏面ニ土木課長ノ工事報告ノ一文ヲ刻シタル大碑石ガ同所ニ置カレテアル此ノ碑ハ未ダ建立サレテ居ナイガ此ノ砂防工

事ノ全体ヲ窺フニあしルヲ以テ、ココニ全文ヲ載セテ置ク

表面 砂防堰堤築造記念 昭和十年五月二十日 愛媛縣知事從四位勲四等 大場 鑑次郎

側面 發起人 渡部 盛一 渡部 助太郎 和田 伊之助 和田 伊太郎

裏面 工事報告

重信川砂防堰堤竣工シ 二落成ノ式典ヲ舉行セラルルニ當リマシテ工事報告ヲナスコトヲ得マシタコトハ洵ニ光榮トスルトコロデアリマス

抑々重信川ハ其ノ水源地ノ荒廢ニヨリマシテ出水ノ度ニ被害ガ夥シク之ガ改修ハ久シク希望セラレル處デアリマシタガ降雨毎ニ流下スル土砂ノ爲ニ河床ガ著シク高メラレ之ガ改修ニハ多大ノ困難ヲ伴ヒマスノデ大正八年以來專ラ荒廢地ノ復旧ニ努メ山腹及溪流工事ヲ施工シツツ除々ニ計画ヲ進メテ時機ノ到来ヲ待ツテ居リマシタ処昭和七年時局區救事業ノ起興ニ伴ヒ本川ニモ國庫ノ助成ヲ得ルコトニナリマシタノデ重信川改修工事ノ前提トシテ温泉郡北吉井村大字除ケニ一大砂防堰堤ヲ築造スルコトニ決シ昭和七年十月十一日エヲ起シ本年三月三十一日功ヲ竣ヘタノデアリマス

日ヲ閱スルコト九百一日財ヲ投ズルコト二十萬千六百八十二円ニ達シマシタ主堰堤長百十五米、水通部直高十二米此立積八千三百六十九立米副堰堤長九十二米水通部直高七米此立積千九百六十三立米水叩長二十米幅七十五米五十糎護岸長百九米五十糎附替道路幅四米六十糎長九百米床堀及排水路掘鑿土砂八實二六萬九千九百九立米デアリマス

ス工事ハ縣直營ニ依リ當初ハ中川砂防工營所ノ管轄トナツテ居リマシタガ工事ノ重大性ニ鑑ミ完全ヲ期シマス爲ニ昭和七年十二月三日新ニ重信川砂防工營所ヲ設置シテ專心其ノ衝ニ當ルコトトシマシタ昭和八年一月ヨリ同年三月迄ハ晝夜兼行主堰堤九十米高七米五十糎ノエヲ進メ昭和八年度ニハ主堰堤百五米五十糎高九米二十五糎水叩全部副堰堤ハ高一米ヲ除ク全部護岸二十米及附替道路四百二十米 昭和九年度ニハ主堰堤副堰堤護岸ノ殘工事及附替道路四百八十米ヲ施工シ三ヶ年繼續全工事ヲ竣功シタ譯デアリマス型式ハ直線型重力堰堤デアリマシテ主要材料ハ栗石交リ混凝土デアリマス磨滅ヲ防グ爲ニ表面ニ控四十四糎乃至六十糎ノ島産間知石ノ張石ヲ施シマシタ此ノ個數尙萬七千八百八十四個使用セメント數産万七千四百四十袋、野面石ノ採集數十五萬五千個デアリマス工事ノ施行ニハ細心ノ注意ト不斷

ノ努力トヲ拂ヒマシタ混凝土ノ混合ニハ四基ノ、ミキサ―ヲ使用シテ精微堅牢ヲ旨トシ副堰堤基礎ハ深ク岩盤マデ掘下ゲテ萬全ヲ期シタ如キハ其ノ一例デアリマス使用人夫延十四萬七千二百五十六人デ就勞物ハ北吉井、南吉井、川上、拜志、産内ノ五村ニ亘リ一日ノ就勞者一千人ニ及ンダ日ガアリマス此勞力費十一萬八千五百六十六圓デアリマシテ農村振興所期ノ目的ヲ充分達シタルコトト思ヒマス又北吉井、南吉井、川上各村ノ青年團諸氏ハ砂利砂ノ採集土砂ノ掘鑿等ノ勞役ニ從事シ其ノ得タル賃金ハ滿州國出兵將士ノ慰問金トシテ醸出シ或ハ青年會館ノ建設資金ニ或ハ武道用具ノ購入資金ニ充當セラレタ等ノ行為ハ一匡救美談トシテ新聞紙ニ報セラレ本省監察官ニ報告シタコロデアリマス本堰堤ハ我國ニ於キマシテモ稀ニ見ル大砂防堰堤デアリマシテ翠綠ノ間ニ横ツテ清流ヲ吞吐スル有様ハ真ニ千古ノ偉觀ト言ハネバナリマセ又此ノ完成ニヨリマシテ上流ノ被害ヲ防ギ併セテ重信川治水工事ノ根本計画ヲ樹立スルコトガ出来ルト信ズルノデアリマス

イジヨウハ僅ニ概要ヲ報告シタノミデアリマス此ノ大事業ガ二年六ヶ月ニ支障ナク完成ヲ告ゲマシタコトヲ衷心ヨリ祝福スルト共ニ本工事施工ニ當リ地元及村當局並ニ有志各位ノ絶大ナル御援助ト工事担当職員各位ノ精勵ニ対シマシテ深甚ノ謝意ヲ表スル次第デアリマス

昭和十年五月二十五日

愛媛縣土木課長 河合 清

## 第十章 宗教

### 一、神社

温泉郡北吉井村社 總東風神社

位置 北吉井村大字山之内字荒木谷

祭神 宇迦之御魂命

健速須佐之男命

大市比賣命

大記津比賣命

猿田比古命

例祭日十月十五日

由緒要略

勸請年月不詳

社殿建設物

本殿 構造 伊勢造茅葺 建築年月 弘化三年十一月

中殿 構造 平屋造瓦葺 建築年月 明治十三年九月

拝殿 構造 春日造茅葺 建築年月 貞享十年三月

神門 構造 春日造茅葺 建築年月 不詳

境内神社 素鷲社 健速須佐之男命 境内面積附属地共 五百二十坪

二百年以上樹木 檜十三本 明治十二年二月村社二列ス

温泉郡北吉井村大字山之内荒木谷鎮座 村社 総東風神社

一、祭神

宇迦之御魂命 健速須佐之男命 大市比賣命 大氣津比賣命 猿田比古命

由緒

鎮座所地名上古二云フ訓見國徳威縣神戸里餘戸郷黒瀧山之内名ト号シ西方ノ地ハ上古二呼鏡 田邑(後古呼処ノ久米浮穴伊余温泉四郡二跨ル重信川右上流)田地数千待ち二灌漑ノ養水出ル溪川側ノ故ヲ以テ小子連大水上ノ神徳ヲ感<sup>鏡</sup>シテ齋祀リ 佩田奥宮ト尊称ス養老二年越智宿弥玉興福見寺ヲ創建山内ノ三神別當所ヲ置宝龜六年同七年天長十年勅詔三神社ニ奉幣アリ嘉祥四年正月神階ヲ給フ天慶文治文永弘安元弘世々ノ國守河野氏尊敬神田若干寄進社殿修治有ル<sup>又</sup>屢々ナリ元中六年四月官方ノ公卿將士ノ人々奥御所ノ城二楯籠ル賊軍攻来戦敗レ遂ニ歿ス処ノ諸靈及天文二十三年九月岩迦羅ノ城主和田氏河野氏ノ命ニ背キ平岡氏攻来田窪原二戦ヒ和田氏敗歿前後両度合靈五十人崇神総東風靈社ト号シ天正十八年十一月二至リ神社大革命出ルヲ以テ舊新両社合一総東風五社大明神社ト改号ス明治三年維新改革ニ付総東風神社ト改称ス

温泉郡来た吉井村山之内末社 稻荷五社神社 位置 北吉井村山之内柚ノ木

祭神 宇迦之魂命 猿田比古命 瓊瓊杵命 伊装丹命 天穗日命

例祭日 十月二十三日 由諸要略 往古字神子野野東部ヨリ移轉セシモノニシテ年代不詳ナラズ其古社

跡地今尚存ス

社殿建造物

本殿 構造 伊勢造茅葺 建築年月 享保三年八月

拝殿 構造 春日造茅葺 建築年月 寛政元年三月

境内神社 天満ん神社 菅原道實公靈 八幡宮 菅田別命

境内面積附屬地共 貳千八百八拾壹坪

二百年以上樹木 椎一本 コガ一本

温泉郡北吉井村大字山之内字柚ノ木鎮座 末社 稻荷神社

一、祭神

来名戸祖神 大山祇尊 速日命 科長戸津神 宇迦魂神

合祀 熊野拾二社 祭神天神地祇拾二社

烏嶽神社 祭神

河野伊豫守寛諱奥世靈 渡部丹波守秀靈 渡部隼人介弘靈

由諸

伊豫舊紀編曰、在久米郡餘戸郷黒瀧山之内邑溪流辺神社称古宮所祭神三座日山祇、久名祖饒速日三尊傳日大  
古草味之世此神出現山頂此所黒瀧明神峰是神秀之一峰而四方ノ高峰見眼下清幽之淨地山麓溪流ノ辺白髪ノ公羽  
出現而救窮民之飢渴年久シテ故養老二年善無畏三蔵来此地創立草堂到瑞雲圀処秀嶺分神三靈遷座此公羽山衆民  
祈之者福音授因國守玉奥崇敬而称飯成社爲神護以福見爲祠掌附圭田若干トシテ亦日據福見寺旧記大同元年僧空海  
卓此山金錫傳鐵塔秘密之ヤ奥密教信奥合祀宇迦魂科長戸津、二神稻荷五社大明神社改號豊饒饒処豈往古神子  
野ノ東部二鎮座アリシヲ何時シカ今ノ地7に移シ奉れ里とも云フ

温泉郡北吉井村末社 龍神社 位置 北吉井村大字山之内上黒瀧

祭神 龍神 例祭日 十月十九日

社殿建造物

本殿 構造 伊勢造とたん葺 建築年月 寛永元年正月

拜殿 構造 春日造茅葺 建築年月 元禄七年二月

神門 構造 春日造茅葺 建築年月 嘉吉三年十一月

境内附屬地共 二千五十坪

二百年以上樹木 杉四本、檜三本、樅一本、七色ノ木アリ根本一本

温泉郡北吉井村大字山之内上黒瀧鎮座 末社 黒瀧神社

祭神

天御中主尊 證誠神殿ト称ス 國常緒尊 同上 國狭土尊 西御前ト称ス 豊勘渟尊 中御前ト称ス

泥煮尊 一王子ト称ス 大戸道尊 禪師宮ト称ス 面足尊 聖宮ト称ス 伊勢諾尊 兜宮ト称ス

天照皇太神 子守宮ト称ス 正哉吾勝尊 一万宮ト称ス 彦火々出見尊 勸諸十五ヶ所ト称ス

天照国照天火明櫛玉瓊 速日皇孫尊 十万御前ト称ス 彦火々出見尊

草葺不合尊 飛行夜刃ト称ス

以上十四柱ヲ熊野皇太神ト称シ黒瀧見ヤト号ス

大山津見尊 和多津見神 罔象女神 王依比賣神 上筒之男神 中筒之男神 底筒之男神

雷神 高彥龍神

以上八柱八大龍王見ヤ又ハ龍神見ヤト称ス

由諸

扶桑史煮所載ノ名神ニシテ 崇神帝御宇十七年庚子九月詔創立アル所ノ古蹟也 文武帝詔シテ伊豫國造之後散

位 智宿称玉興之レヲ奉行貴役氏優婆塞此ノ神ヲ慕ヒ来リ御宇二年戊正月十一日共々凶テ葛城蔵王権現及八大龍王ノ諸神ヲ黒瀧大明髪之社ニ合祀佛法鎮護興隆ノ基ヲ起ス天平十三年巳十二月行基律師當社ニ金錫ヲテ役小角并ニ全無畏三蔵法師ノ遺志ヲ継キ國司散位越智玉純ト共ニ凶テ僧坊十二舎ヲ建伽藍ヲ神護福巳寺ト号ス故ニ山之内田圃山林一百町ヲ附テ別當ニラシム延暦九年庚午久四月二十二日 詔アリテ國司散位益男之ヲ奉入シテ神封一十畑ヲ附テ年中十五度祭典式ヲ嚴行アリ大同二年二月僧空海モ當社ニ金錫ヲ卓シテ鐵搭秘密ノ並奧ヲ茲ニ極メ天長地久ヲ祈ル処ノ靈山ナリ貞觀九年十一月十日詔アリテ當社ニ朝敵退治ヲ祈リ給フ同十三年夏大旱六月十三日戊子詔甘雨ノ降ヲ祈リ給フニ焦土大潤萬民喜躍天聽歎感アリテ神封五戸ノ爛ヲ雨瀧八大龍王宮ニ寄附承平六年三月及天慶ノ乱起ルニ至リ海賊悉滅ヲ當社ニ祈リ給フ天慶三年庚子三月神位一階ヲ進メ奉リ又豈ニ國司神殿ヲ再建延久五年正月十一日國司源ノ頼威義國ノ介河野近経同志而社領ヲ寄附保元、平治元曆ノ乱朝敵退治ヲ祈リ給フ文治二年河野通信豫州安堵ノ時又社領ヲ寄附広安四年閏七月朔對馬守通有備後守通純二氏蒙古退治ノ願成テ當社擅ヲ改造、元弘四年正月二十八日神殿再建文中三年正月十八日覺理法皇越智郡竜岡幸門城ヨリ當神社ニ御幸朝敵退治御祈願ノ爲メニ當邑御所城ニ臨幸アリ嘉吉三年十一月八日神殿神門再建營河野伊豫守通光當黒瀧邑ヲ以テ神領ニ附ケ給フ天正十五年十一月國守福島左衛門太夫正則社領ヲ悉ク剥奪故ニ衰微大ナリ寛永元年甲子正月八日國守加藤明成神殿八大龍王宮齋場再建元録七年二月十五費拝殿神楽殿再建天保三年八月大修覆明治三年正月屋根葺替當神社ヨリ五十丁山頂ヲ天瀧明神森シ称シ往古ヨリ大旱ノ年ニ至リテ八本郡ヲ初メ伊豫十郡ノ御代官所ヨリ雨乞祭祈禱ノ古例今ニ傳來故ニ世々ノ大守公崇敬アル所ナリ

#### 伊豫舊蹟日

越智宿称通綱當山伽藍并護守神社黒瀧雨瀧葛城三神楽殿樓門悉再建豈文中三年甲寅正月十八日覺理法皇移從竜岡幸門城當山朝敵退散祈有御遷幸御所城河野伊豫守通能伽藍再建嘉吉三年癸亥十一月八日河野伊豫守通光爲二親菩提燈籠堂建立永代三十三燈田寄附之豈是福見川里二十四貫ノ地至彷彿亦之処也大永四年甲申正月讚州細川勢楯籠敗走ノ時燒寺院享祿元年戊子九月蔵人頭通景再建天正十三年乙酉九月國守河野伊豫守通直背豊臣太閤秀

吉公命除邑後福島正則領之同時二寺領沒収末坊懷敗寺運衰微豈

又日有名樹一本俚諺号七色寄樹是者從往古在神殿左側周圍三丈余木質不詳枝葉顯分有七質色榿、櫻、梅、椿、榊、猿 等也因名斯乎不知其故

温泉郡着た吉井村社 三島神社 位置北吉井村大字樋口、志津川字片山

祭神 大山積神 例祭日 十月十四日 由諸要略 神龜五年辰八月二十三日大三島ノ神勸請スト神社

録其ノ他二見ユ

社殿建設物

本殿 構造 神明造茅葺 建築年月 建築年月不詳 明治三十四年五月修覆ス

幣殿 平屋造瓦葺 建築年月 建築年月不詳 昭和十三年五月再建

拝殿 横棟造瓦葺 建築年月 建築年月不詳 昭和十三年五月再建

社務所 平屋造瓦葺 建築年月 明治三十四年五月建築

境内神社 摂社五十鈴社 天照皇大神 末社妙見社 天香比日命

境内附屬地面積 千五百十八坪

二百年以上樹木 松二十本 扁柏十五本 明治四年村社二列ス

温泉郡北吉井村大字樋口字片山鎮座 村社 三島神社

一、祭神 大山積神 雷神 高雷龍神

由諸

本社八人皇四拾五代聖武天皇御宇神龜五年辰八月二十三日有詔伊与国司乎智宿祢玉純公奉受大三島神勸請伊豫国十四郡毎々有一宮三島神八十三郷二有一宮祭神大山積神、雷神、高雷龍神ト扶桑史二見ユ一宮久米郡来目郷吉井郷、餘戸郷、天山郷、石井郷、ノ五郷社毎二別當寺ヲ附ス所祭神大山積神、雷神、高雷龍神三座ト国史見在豫州神社録二見ユ在伊豫國久米郡吉井郷一宮是ナリ沿革ノ要領本社八往古岩伽羅城山二鎮座アリシヲ伊豫國

司越智宿称通信ノ世文治元年乙巳岩伽羅城設築ノ時今ノ地二移シ奉ルト社家傳 記者見ユ又當寺八樋口村大蓮  
寺二テ往古志津川村三島社別當社司職代々武智氏欽行之  
伊豫舊紀日

宇摩郡五郷 山田郷 山口郷 津根郷 御井郷 餘戸郷

神野郡六郷三島 新居郷 丹王郷 島山郷 茂郷 加茂郷 神戸郷 里島 大島 垣生島

周敷郡七郷 田野郷 池田郷 井手郷 吉田郷 神戸郷 石井郷 余戸郷

桑村郡四郷 籠田郷 御井郷 津宮郷 吉岡郷

越智郡十郷十一島 朝倉郷 立花郷 神戸郷 拝志郷 日吉郷 給理郷 高市郷 高橋郷 新谷郷

櫻井郷 大三島 大島 石城島 生名島 佐島 弓削島 伯方島 沖島 上、中、下津島

野間郡六郷一島 宅間郷 英多郷 大井郷 賞多郷 菅瀉郷 波方島

風早郡七郷六島 風伯郷 難波郷 河野郷 那須郷 高田郷 餘戸郷 栗井郷 忽那島 二神島 津和島

奴和島 生都岐島 安居島

温泉郡六郷 此ノ郡八上古訓見国ナリ国名廢置四郡 久米、浮穴、温泉、和氣

井河神郷 橋郷 桑原郷 味酒郷 垣生郷 河野郷

久米郡八郷 天山郷 神戸郷 古屋野郷 餘戸郷 吉井郷 石井郷 野々口郷

浮穴郡八郷 拝志郷 荏原郷 井門郷 出部郷 熊山郷 小田山郷 温並郷 田井郷 (浮穴郷トモ云フ)

伊豫郡六郷 此ノ郡八上古猪世国ナリ国名廢置二郡、喜多、宇和

神崎郷 神戸郷 石田郷 吾川郷 岡田郷 餘戸郷

和氣郡五郷二島 日女原郷 大内郷 高尾郷 吉原郷 日左枝郷 興津島 由利島

喜多郡七郷 久米郷 矢野郷 新谷郷 粟津郷 會根郷 五十崎郷 平郷

宇和郡十郷九島 石野郷 石城郷 三間郷 立馬郷 伊但馬郷 御庄郷 山田井郷 野田井郷 内海郷

外海郷 加戸郷 鴉来島 串島 日振島 御五神島 立神島 大島 黒島 鹿島

以上郷名合計九十四島名合計三十二、又伊豫國八百三郷ト云ヒ和名鈔有七十二郷国史見在伊豫國神社集十四郡有九十四郷一郷二一社ノ三島神社ノ勸請ヲ見タリ

温泉郡北吉井村大字樋口字向井鎮座 無格社 客八幡神社

一、菅田別命 足仲彦命 息長足比賣命 菅公之靈

由諸

當神社ハ文中年間河野通定筑紫ノ宇佐八幡宮ヲ勸請創正八幡宮ト崇敬ス慶長ノ頃、村内字日吉谷鎮座天満宮神靈ヲ合併相殿奉祀シ正八幡宮客天満宮ト併称安政ノ頃ヨリ客八幡ト改称慶安年代社殿焼失再建ス口碑二謂フ日吉谷二鎮座アリシ天満神社ヲ祝融ノ災アリテ其ノ社殿烏有トナリ依テ御神體ハ仮ニ之レヲ向井ノ八幡神社ニ遷移シテ奉祀スルコトトセリ之レヨリ世俗ニテ天満ん神社ヲ呼ンデ御客ノ宮ト称シタリシカ何日シカ相混同シテ両社ヲ併称スルコトトナリ遂ニ客八幡神社ト称スルニ至レリ

温泉郡北吉井村大字樋口字横川鎮座 無格社 水天神社

一、祭神 安徳天皇

由諸

横川ハ重信川上流水勢激奔ノ衝ニ當リ堤防屢々決壊セシヲ以テ地方民之ヲ憂ヒ毎時修繕回復ニカムト矣モ水害別ニ多ク防遏スルコト能ハズ此処ニ於テカ到底人エヲ以テぼうキ得ベキニアラサリシカバ神威ニ頼ル外マキヲ覺悟シ官民足片謀テ久留米ナル筑後河畔ニ鎮座ノ水天宮ヲ勸請シ水難守護神トシテ水天宮ト奉称シ以テ除災ノ鎮守ト爲ス其ノ勸ん請年代詳カナラズト謂モ蓋シ約二百年前ニ係レリ爾來水害トミニ減少シ荒蕪回復シ農民安堵シ得タ業ヲ勵ムニ至レリ其ノ後民家時ニ増減盛衰アリト矣モ鎮守ニ對スル信仰ハ益々深甚トナリ例規ノ祭禮ハ勿論平素ノ報賽嘗テ怠ルコトナシ一朝洪水氾濫シ將二堤ヲ破ラントスル時其ノ箇所工當神ノ守札ヲ樹ツレバ必ス靈驗アルヲ以テ古來之ヲ崇敬シ來タレリ

温泉郡北吉井村社 天満ん神社 位置 北吉井村大字志津川字出口

以上郷名合計九十四島名合計三十二、又伊豫國八百三郷ト云ヒ和名鈔有七十二郷国史見在伊豫國神社集十四郡有九十四郷一郷二一社ノ三島神社ノ勸請ヲ見タリ

温泉郡北吉井村大字樋口字向井鎮座 無格社 客八幡神社

一、菅田別命 足仲彦命 息長足比賣命 菅公之靈

由諸

當神社ハ文中年間河野通定筑紫ノ宇佐八幡宮ヲ勸請創正八幡宮ト崇敬ス慶長ノ頃、村内字日吉谷鎮座天満宮神靈ヲ合併相殿奉祀シ正八幡宮客天満宮ト併称安政ノ頃ヨリ客八幡ト改称慶安年代社殿焼失再建ス口碑ニ謂フ日吉谷二鎮座アリシ天満神社ニ祝融ノ災アリテ其ノ社殿烏有トナリ依テ御神體ハ仮ニ之レヲ向井ノ八幡神社ニ遷移シテ奉祀スルコトトセリ之レヨリ世俗ニテ天満ん神社ヲ呼ンデ御客ノ宮ト称シタリシカ何日シカ相混同シテ兩社ヲ併称スルコトトナリ遂ニ客八幡神社ト称スルニ至レリ

温泉郡北吉井村大字樋口字横川鎮座 無格社 水天神社

一、祭神 菅原 道實公靈 例祭日 十月十四日

由諸要略 国主河野氏此ノ地ニ建營一祠号志津川天神キ時天慶五年九月二十五日是伊豫二十四社ノ内ナリ

社殿建設物

本殿 構造 神明造茅葺 建築年月 嘉永二年九月再建

幣殿 構造 横棟造瓦葺 建築年月 嘉永二年九月再建

拝殿 構造 横棟造瓦葺 建築年月 明治三十五年六月再建

境内神社 御先神社 猿田比古命 中木神社 太田神

境内面積附付屬地供 五百五十六坪

二百年以上樹木 ムクノ木三本、チサノ木二本 明治十二年二月村社ニ列ス

温泉郡北吉井村大字志津川字出口鎮座

村社 天満神社 祭神 菅原 道實公

由諸

當地ハ昔、菅公越智ノ郡橋ノ速吸ノ瀬ニ漂ヒ辛ク櫻井ノ濱ニ上陸シ給ヒ川上ノ驛ヲ經テ此ノ所ニ來リ一宿シ給ヒタリ依テ里人此靈跡ニ祭殿ヲ建菅廟ヲ祭祀ス<sub>レ</sub>來上下ノ崇信最モ厚ク賽者遠近ヨリ來リ詣ツ寛正年間河野大法師經論ヲ奉納シ祭祀料ヲ寄セ歲時ノ祀典ヲ怠ラサラシム

温泉郡來た吉井村末社 岡八幡神社 位置來た吉井村大字西岡字印狹

祭神 菅田別命 例祭日 十月十四日

由諸 元久米郡山ノ内村岡ト云処ニ祭リアリシニ洪水ノ爲メ神体流シ來テ此ノ処ニ勸請セシトモ云フ  
社殿建設物

本殿 構造 神名造茅葺 建築年月 明治四十年九月再建

幣殿 構造 横棟造瓦葺 建築年月 明治八年九月再建

拝殿 構造 横棟造瓦葺 建築年月 明治八年九月

境内神社 殿島社 市寸島比賣命 三木靈社 須佐男命

境内面積 千百五十六坪 二百年以上樹木 松三本

温泉郡北吉井村大字西岡字印狹鎮座 末社 岡八幡神社 祭神 菅田別命

由諸

當社ハ寶徳二年田井美濃守里民ヲ社殿ヲ築キ八幡神社ヲ勸請シ祭祀ヲ舉ゲ口碑ニ云フ當地ハ伊勢ノ地主太田ノ命裔此ノ地ニ祖先ヲ祭リシ所ナリト其ノ後土居氏社殿ヲ改築ス

其ノ他格部落二、二三ノ小社アレ共由緒沿革等不詳ニ付省略セリ

福見寺

名称 新義真言宗豊山派 倭飛山米田院福見寺

位置 温泉郡北吉井村大字山之内字福見 本尊 水月觀世音

縁起略述

養老二年印度ノ僧善無畏三蔵ノ開基ニシテ代々伊豫ノ国司ノ歸依厚ク堂塔伽藍其ノ建立ニカカリシ輪奐ノ美アリ縁起長文ナルヲ以テ此此処ニハ倭飛山ノ由来ヲ示ス

元亨釋書日

大化元年秋八月船師藤井載官租而過道法道仙人飛鉢乞供藤井日御厩精梗不違私情鉢飛去於是吁船中群米隨鉢飛連猶雁陣入山中藤井大驚奔到菴所悔謝乞憐道笑而諾言已米石如シ前飛故其米千石無有遺失只其ノ位置倭落南河上自茲此地富人多俗号米隨村又日米田藤井入都奏事孝德皇帝大加嘆五年五月上不豫診治佛摩乃宜左撲射阿部倉内召道加護道入宮持念玉體平復玉六宮羅擇止宮七日弘演釋門奧旨君臣嘆美云々道多營精舍諸州往々而有今存者彌道遺徳

岡坊、倭滿院

大字山之内字岡ニアリ福見寺住職ノ常住所ニシテ山上ノ伽藍ヲ繪轄ス正觀音ヲ祀ル現今ノ建物ハ元治二年三月ノ再建ナリ明治中期真言宗新義古義分離迄ハ高野山金剛三昧院ノ末寺ナリ

現住職 宮田 仰順

大蓮寺

名称 高野山別格本山金剛三昧院末古義真言宗孤岸山西方院だ蓮寺

位置 温泉郡北吉井村大字樋口字向井

本尊 阿弥陀如来

縁起

大同元年十二年十二月弘法大師四国巡鐸ノ砌リ創立セラレ吁智宿弥實勝堂宇庫裏ヲ建立ス山号ヲ由井山ト称セシモ明暦ノ頃ヨリ孤岸山ト改ム三島別當社司職ヲ勤ム伊豫漫遊記二日、河野十八将ノ岩伽羅城主和田家代々ノ菩提所ナリト云フ現在ノ庫裏ハ弘化元年本堂ハ明治十七年ノ再建ナリ

現住職 岡宮 自猛

慈光寺

名称 曹洞宗大本山永平寺直末松山法龍寺末萬年山慈光寺

位置 温泉郡北吉井村大字志津川字萬年山 本尊 釈迦如来

由緒

吉山城主和田河内守吉盛菩提所トシテ天正年中、當山ヲ開基ス然ルニ天正二十三年荏原村棚居城主平岡大和守實房ノ攻略ノ際、田窪原ノ戰ニ於テ吉盛戰死スルヤ一族四散シ當山又徵録ス寛永十二乙亥年月舟賢順和尚ハ松山法龍寺ヲ開廟セシモ師恩報謝ノタメ恩師遠庵順佐和尚ヲ以テ開山ニ特請シ自ラハ慈光寺ニ来リテ住ス賢順和尚ハ松山初代藩主松平定行公ノ妾腹ニテ定頼公ノ異母弟ナリ桑名菩提寺タル長壽院ニ住セシガ定行公、松山ニ轉封スルニ當リ随テ来リタルモノナリ當山タメニ旧ニ復シタレバ和尚ヲ以テ中興開山ト崇拜ス以来三百五十年世代十八代ヲ以テ算ス

境外仏堂 和田靈堂

和田河内守吉盛ノ靈堂ナリ吉盛晩年吉山城ニ在リ當寺ノ檀越トナリ又地方産業ノ開發ニ力ヲ尽ス後年村民其徳ヲ仰慕シ謝恩ノタメ一堂ヲ建立シ毎年陰曆七月十五日祭禮ヲ執行シ賽客数万人ニ及ブ

大正十四年十一月二十三日附、院うち編入許可セラル 現住職 鉄宮 道範

正法寺

名称 新義真言宗豊山派 養命山法壽院正法寺

位置 温泉郡北吉井村大字西岡字河之内 本尊 延命地藏

縁起等祥カナラス新古真言宗分離迄ハ京都大覺寺末デアツタ宝物トシテハ弘法大師ノ真筆ト傳フル五大力名王ノ大幅アリ大正十四年火災ニヨリ堂宇灰燼ニ帰シ現在地ニ建設ス

無住職 立花町大音寺兼務

真言宗大谷派本願寺西岡説教場

創立 明治四十三年十一月十五日

位置 温泉郡北吉井村大字西岡字河之内

信徒数 二百戸永続資金及不動産アリ

設置理由

従来真宗大谷派檀信徒ハ西岡、北梅本其他ニ多数散在シ松山迄ハ三里強ノ里程ニシテ老人、婦人ナド参聴不便

ニ付説強場ヲ設置シ随意ニ真俗ニ諦ノ教義ヲ開キ現當二世ノ幸福ヲ得ベキガタメ設立ヲ、なしたり

設立者 香川県高松市大字北古馬場町 極楽寺 真宗大谷派高松教務所管事 脇屋 大浜

出資者 野村 大二郎 現住職 野村 勤一

圓通寺

名称 真言宗醍醐派 修驗 岩峰山圓通寺

位置 温泉郡北吉井村大字樋口字片山

縁起等不祥ナルモ其ノ古キコトハ記録ニ於テ明ラカナリ旧幕時代ハ石鉄山ノ大先達久米郡ノ元締ナリ明治改革當時住職還俗ト同時ニ麁寺トナル現在觀音堂、鐘樓、熊野大権現ノ社アリ本尊千手觀世音ハ靈権新タカニシテ賽客絶つエス境内ノ大柏ハ古木ニシテ地方ノ名木タルヲ失ハズ大蓮寺ノ境外佛堂トシテ登録セラル

和合院

北吉井村大字志津川ニアリ修驗道ナリシカ明治改革ノ際麁寺トナル

法華宗説教所 北吉井村横川二在リ沿革不祥

薬師庵

北吉井村大字樋口栗ノ木ニアリ薬師如来位置軀ヲ安置ス現在大蓮寺ノ境外佛堂ナリ

前勧請

北吉井村大字樋口字所ヶ谷ニアリ岩伽羅ノ遥拝所ナリ樋口和田家ノ関係者毎年九付七日之ヲ祀ル

大畑庵

北吉井村大字山之内大畑ニアリ地方西国三十三ヶ所第六番ノ霊場ナリ

二、 宗教 神道

黒住教

位置 温泉郡北吉井村大字志津川

創立八明治二十七年一月二十七日許可ニシテ権大講義影浦弥七氏教會々長トナリ神道黒住教ヲ宣布ス其信徒ハ現在男百九十人女二百九人計三百九十九人ヲ包含シ其ノ區域ハ坂本村、荏原村、拜志村、三内村、川上村、北吉井村、南吉井村、小野村、浮穴村ノ九ヶ村ニ亘ル現教會々長少教正河原瀧次郎氏其ノ奉祭事務ニ當ル  
教祖黒住宗忠氏ニシテ教義ハ日輪ト天照大神トヲ結合シ日輪ヲ尊崇スルヲ以テ主義トシ天照皇太神宮ヲ拜スルヲ信條トス明治五年頃ニハ黒住講社ト称シタリシカ明治九年十月二十三日神道黒住派ト称シ時ノ教部省ヨリ別派獨立ヲ許サレ次テ明治十五年十一月六日黒住教ト改称ス境内ニハ往古伊勢ヨリ勧請シタル天照皇大神、豊受大神ノ両神ノ社アリ

天理教

位置 温泉郡北吉井村大字樋口字音井

創立八大正九年八月十七日天理教北吉井村宣教所設立許可久保伊太郎氏同日本部ヨリ所長任命セラル大正十年一月二十七日御分靈ヲ受ケ同年二月十一日御鎮座祭執行ス現在教徒数男八名女三名計十一名信徒数男二百九十

三名女二百七十六名計五百六十五名設立者藤岡藤治郎氏信徒總代和田莊三郎藤岡周五郎ノ両氏ナリ  
教祖中山ミキ女、教義ハ天地ノ神ヲ尊崇シ宇宙構成ノ神ハ八百萬ノ神々テアルカ其ノ本源ハ天理王命デアルト  
説キ神人和合ハ忠孝、慈友、和順、仁義ノ四ツデアルト説クヲ信條トセリ

## 雜章

### 一、各團體

#### 一、男子青年團、

沿革

日露戰役後諸政一新ノ改革ガ行ハレシ際青年教育ノ必要ナルコトガ叫バレ青年團結一致協力ヲ目的トシ若連中ノ組織ヲ改メテ青年會ノ設立ヲ見タノデアル本村ニ於テ其先驅ヲナセルハ大字樋口ニシテ明治四十二年新春、和田伍郎和田昌義岡山正利渡部自到ノ四氏談合ノ結果大蓮寺ニ青年夜學ヲ設ケ其教學ニ從事シ圖書ノ購入寄送ヲ得テ樋口文庫ヲ設立シタノデアル次テ四十三、四年二山之内、志津川、西岡ノ各青年會ノ發會アリ依テ村統一ノ青年會ヲ四十四年結成スルコトトナツタノデアル組織ハ村長ヲ以テ會長トシ學校長ヲ副會長ニ支部長ヲ各部落總代ヲ以テ之ニ當テタ明治四拾五年温泉郡部會長ヨリ賞狀ヲ授與サレタ

温泉郡北吉井村 北吉井青年會

風紀改善、 智徳修養、 基金蓄積

右成績顯著ナルヲ以テ本部會設定ノ青年團體奨励規定ニ依リ金三十圓ヲ贈與シ其功績ヲ表彰ス

明治四十五年二月四日 愛媛教育協會温泉部會長 從六位勲五等 大道寺 一善

其後值大正九年青年會ハ全国的ニ青年團トシテ統合サレ社會公認ノ一団体トナツタノデアル現在役員團員數左ノ如  
青年團長 高木 貞国 副團長 大西 侃哉

幹事 渡部 正興 大石 岩見 岡本 秀雄 窪田 儀政

支部長 山之内 和田 修 樋口 藤田 恒重 横河原 土居 保

志津川 今井 茂典 西岡 和田 要 団員 二百二十名

北吉井村青年團々則

第一條 本團ハ北吉井村青年團ト称シ本部ヲ北吉井村役場内ニ置キ北吉井村居住ノ青年ヲ以テ組織ス

第二條 本團ハ教育勅語戊申詔書並御令旨ノ御趣旨ヲ奉体シ之ガ實行ヲ期ス

第三條 本團ニ左ノ支部ヲ設ケ北吉井村青年團何支部ト称ス 山之内 樋口 横河原 志津川 西岡

第四條 各支部ハ支部長ヲ選舉シ支部長ハ本團則ニ準ジ各支部團則ヲ設ケ本團ノ承認ヲ受クベキモノトス

其ノ改変ノ時モ亦同ジ

第五條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、團長一名 一、副團長一名 一、幹事五名 一、支部長五名 一、代議員十五名

(支部長ハ代議員ヲ兼務ス)

一、郡代議員豫備議員ハ正副團長之ヲ兼務ス

一、顧問ハ村長、校長其ノ他有志若干名、

第六條 役員ノ任期ハ萬一ケ年トシ正當ノ理由ナクシテ辭任スル事ヲ得ズ正副團長ハ總會ニ於テ團員中ヨリ之ヲ選舉

ス其ノ他ノ役員ハ各支部ニ於テ選出スルモノトス 役員中欠員ヲ生ジタル場合ハ隨時選出補充スルモノト

ス該役員ハ前任ノ任期ヲ繼承スルモノトス 顧問ハ團長之ヲ推薦ス

第七條 役員ノ任務左ノ如シ

一、團長ハ團務ヲ總理ス

一、副團長ハ團長ヲ補助シ團長事故アル時ハ其ノ代理ヲナス

一、幹事ハ團長ノ指揮ヲ受ケ事務ノ措辦並計畫ヲナス

一、支部長ハ主トシテ支部団員ノ指導監督ノ任ニ徒當リ兼テ支部事業ヲ總理ス  
一、代議員ハ團長ノ諮問ニ應ヘ又ハ建議シ團務ヲ評決ス

第八條 本團ノ事務を左ノ六部二分チ副團長及幹事ニ於テ之ヲ分掌ス

一、修養部 一、産業部 一、体育部 一、學芸部 一、社會部 一、會計部

第九條 支部ニ關スル規定ハ各支部ニ於テ之ヲ定ム

第十條 本團ニ左ノ帳簿ヲ備フ

青年團、記録簿、會計簿、役員名簿、團員名簿、其ノ他必要ナル帳簿

第十一條 本團員ハ團費ヲ納付ス

第十二條 本團ニ表彰及罰則規定ヲ設ク

第十三條 本團員ハ青年學校令ニ依リ通學スル義務アルモノトス

第十四條 本團則ノ施行ニ關シテハ別ニ細則ヲ設ク

#### 施行細則

第一條 本團員ハ本村居住者ニシテ高等小學校卒業ノ時ヨリ萬十ケ年間正團員タルコト

第二條 本團ハ毎年四月入團及退團ノ擧式ヲナス

第三條 本團ハ會議ヲ區別シ通常總會臨時總會役員会トス

一、通常總會ハ毎年四月一回開催シ會務並會計報告正副團長選舉其ノ他重要事項ヲ決議ス

一、臨時總會ハ團員十五名以上ノ請求アルカ又ハ團長ニ於テ必要ト認メタル場合之ヲ開ク

一、役員會ハ之ヲ幹事會支部長會代議員会トシ團務研究並本團ノ緊要事項ヲ協定ス

第四條 聡テ會議ハ團長之ヲ招集ス

第五條 會議ノ議長ハ團長之二當ルモノトス

第六條 役員會ハ出席者過半数ニ達セザレバ開會スルコトヲ得ズ

但シ緊急ヲ要スル場合ハ此ノ限りニ非ズ

議決ハ多数ニヨル可否同数ナル時ハ議長之ヲ裁定ス

第七條 本団ノ團費ヲ年額四十錢トシ二期二分納ス

但シ一家族二人以上ナル時ハ全額他ハ半額トス

第八條 本団員中退団スルモ既納ノ團費ヲ返付セズ

第九條 本団ニ於テ成績優良ト認メタル支部ニ對シテハ之ヲ表彰ス

本団員ニシテ模範トナスベキ優良青年ヲ支部長ノ推薦ニヨリ役員會ヲ經テ表彰ス

第十條 本団員中本団ハ体面ヲ汚損シ又ハ再三團費ノ請求ヲ受クルモ納付セザル者ハ役員會ノ決議ニ依リ除名若シク

ハ相當ノ處分ヲナス

第十一條 本団員及団員外ニ於テ本団ニ對シ功勞者ト認ムル時ハ名譽或ハ特別會員ニ推薦ス

第十二條 各支部ハ毎年三月末左記事項ヲ本団ニ報告スルモノトス

一、役員名（支部長、福支部長及ノ他ノ役員）

一、入退団者氏名

一、前年度中実施セル事業及其ノ成果

一、前年度經費決算書

第十三條 支部長ハ各自支部ノ役員及団員ニ異動アリタル時ハ其ノ都度本団ニ報告スルモノトス

第十四條 本団則ハ団員過半数ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ変更スル事ヲ得ズ

昭和十一年三月改定 北吉井村青年團

二、女子青年團

團長 神野 千代子 副團長 野村 マサノ

支部長 山之内 樋口 和田 三重子 横河原 藤田 三千子 志津川 山内 フヂ子 西岡 大西 ヒデ子

男子青年團ト履行シテ大二修養鍊磨ヲ積ンテ居ル團員百二十七名

### 三、佛教團

設立 昭和十二年八月

目的 仏教ノ本旨ニ基キ村内各種、社會事業施設ノ援助促進及民衆ノ融和教化ヲ計ルヲ目的トス

團長 慈光寺住職 鐵宮 道範 團員 村内寺院一般有志

#### 佛教團規約

第一條 本團ハ北吉井村佛教団ト称ス

第二條 本團ハ北吉井村内寺院并ニ有志ヲ以テ組織ス

第三條 本團ノ維持ハ團員ノ寄附金ヲ以テス

第四條 本團ハ佛教ノ本旨ニ基キ村内各種社會事業施設ノ援助促進及民衆ノ融和教化ヲ計ルヲ以テ目的トス

第五條 本團ハ前記目的達成ノタメ村内各種團體ト連繫ヲ保チ各種事業ノ援助ヲナスモノトス

第六條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

團長一名 副團長一名 幹事五名 顧問若干名

第七條 團長ハ寺院側ノ互選トシ其他ノ役員ハ團長ノ指名トス但期間ハ二ケ年トシ再選ヲ妨ゲズ

第八條 團長ハ團ヲ統轄シ副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アル時ハ代理ヲナスモノトス

第九條 本團ハ年一回總會ヲ開催ス臨時總會、役員会ハ必要ニ應ジ團長之ヲ招集ス

第十條 團員ヲ別テ左ノ二種トス

一、特別團員、村内各種団体長并本團ニ特別功勞アルモノ

一、正團員、本團ノ主旨ニ賛成ナル村内有志

第十一條 顧問ハ村長并助役ヲ以テ推舉ス

第十二條 本團ノ規約改定ハ總會ノ決議ニヨル

第十三條 本團ノ事務所ハ團長ノモトニ置ク 以上 温泉郡北吉井村佛教團

#### 四、国防婦人會

大日本国防婦人會北吉井村分會ハ昭和十一年一月三十日ノ創立デアル十三年二月ノ役員會ニ於テ事變下ニ体處スベク愛國婦人會其他ノ婦人團體ヲ統合シテ唯一ノ国防婦人會ヲ以テ一致奉公ヲナスコトトナツタ其分會トシテノ目的トシテハ世界無比ノ日本婦徳ヲ基トシ益々發揚シテ思想善導ノ国防ノ堅キ礎トナリ一家ノ經濟ハ~~本~~所ヲ整フルニアリトシ子女ノ教養ヲ専務トシ皇國第二ノ健全ナル國民を養成シ銃後ヲ整備シ一線將兵ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ真身ノ氣持ヲ保持シテ事變下遺家族ニ暖ナキ婦人ノ世話ノ手ヲ指シ延ベルニアル昭和十一年四月十二日右宣言ヲナシ將來ヨリ會ノ目的達成ニ勤メツツアルハ村民ノ親シク目~~的~~スル所ニシテ會存立ノ意義ヲ深カラシメテ居ル

#### 現在役員

国防婦人分會長 露口 ヒサ 副會長 渡部 キヨマ 理事 田中 滿枝 同 丹生谷 サダ  
班長一班山之内竹谷以東 宮田 トキコ 二班山之内荒木谷以西 水口 シツコ  
三班樋口 和田 マスエ 四班横河原 成瀬 ハルエ 五班志津川 中野 光恵 六班西岡 野村 ハナ  
會員數六百二十名 参考ノ爲メ国防婦人會規約ヲ添附ス

#### 大日本国防婦人會北吉井村分會規約

##### 第一章 總則

第一條 本會ハ大日本国防婦人會北吉井村分會ト稱ス  
第二條 本會ノ事務所ヲ北吉井村役場ニ置ク

##### 第二章 組織

第三條 本會ハ北吉井村在住ノ婦人ニシテ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス

第四條 本會ヲ分チテ左ノ六箇班トシ各班ニ若干ノ組ヲ置ク

第一班 大字山之内部落ノ内荒木谷以西ヲ除ク一圓

第二班 同部落ノ内第一班ニ属セザル地區

第三班 樋口部落一圓

第四班 横河原部落一圓

第五班 志津川部落一圓

第六班 西岡部落一圓

### 第三章 目的及事業

第五條 本會ハ舉国皆兵ノ精神ニ基キ日本婦徳ヲ發揮シ日本婦人トシテ護國ノ大義ヲ實踐履行シ国防上銃後ノカト爲ルヲ以テ目的トスル

第六條 本會ハ其ノ目的ヲ達成スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

- 1、国防ノ第一線ニ立ツ軍人ニ對シ後顧ノ憂ナカラシムル様激勵
- 2、傷痍軍人及軍人ノ遺族ノ救恤慰問
- 3、前項ノ外国防思想ノ普及并ニ會員ノ一致和偕ト婦徳ノ涵養
- 4、其他本會ノ目的ニ適合スル事業

### 第四章 會員

第七條 本會會員ハ會費トシテ年額金五十錢ヲ納付スルモノトス

第八條 會員ハ轉住等ニヨリ所屬ヲへんこうせんとするときは新旧分會ニ届出スルモノトス

第九條 分會ハ會員名簿ヲ備付ケ其ノ移動ヲ明ニスルモノトス

### 第五章 役員

第十條 本會ニ左ノやくいんヲ置ク

分會長一名 副分會長二名 理事二名 班長六名 組長若干名

第十一條 分會長ハ會務ヲ統轄シ分會ヲ代表ス

副分會長ハ分會長ヲ補佐シ分會長事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ分會長ノ意図ヲ受ケ會務ヲ執行シ主トシテ會計等其ノ他事務ヲ行フ

班長ハ分會長及理事トノ連絡ニ任シ班ヲ代表ス

組長ハ其ノ組ト班長トノ連絡ニ任シ組ヲ代表ス

第十二條 分會長副分會長ハ村長推薦シ愛媛縣本部長之ヲ囑託ス

其ノ他ノ役員ハ分會長之ヲ囑託ス

第十三條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク

第十四條 役員ノ任期ハ二ケ年トシ留任ヲ妨ケス

#### 第六章 會議

第十五條 本會ノ決議機關トシテ左ノ者ヨリ成ル評議會ヲ設ク

第十六條 評議會ハ前條役員ノ出席二分ノ一以上アルニアラサレバ成立セス

第十七條 議長ハ分會長之二當リ議員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

#### 第七章 會計

第十八條 會員ノ會費ハ毎年四月二十日迄ニ徵收シ愛媛縣本部會則第四十二條ニヨル納付金ハ四月末日迄ニ納入スルモノトス

第十九條 分會ノ財産管理及其ノ費途ハ評議會ニ於テ之ヲ定ム

#### 第八章 雜則

第二十條 分會ニ左ノ書類ヲ備フ

- 1、會員名簿
- 2、役員名簿
- 3、會報綴
- 4、金錢出入簿
- 5、
- 6、

#### 宣言

本會ハ次ノ事項ヲ決議シ誓ツテ非常時日本ノ爲メ御奉公申上ケル事ヲ宣言致シマス

一、世界二比類ナキ日本婦徳ヲ基トシ益々之ヲ掲揚シ悪風ト不良思想ニ染マス国防ノ堅キ礎トナリ強キ銃後ノカトナリマシセウ

二、心身共ニ健全ニ子女ヲ養育シテ皇くにノ 二 てませう

三、 所ヲ整ヘ如何ナル非常時ニ際シテモ家庭ヨリ弱音ヲ擧ケナイ様ニ致シマセウ

四、国防ノ第一線ニ立ツ方々ヲ慰メ其ノ後顧ノ憂ヲ除キマセウ

五、母ヤ姉妹同様ノ心ヲ以テ

御世話ヲ致シマセウ

六、一旦緩急ノ場合 慌テス迷ハス據常ニ用意致しませう

昭和十一年四月十二日 大日本国防婦人會北吉井村分會

二、功績者

一、自治制発布五十周年記念表彰自治功勞者

四月二十九日表彰式

十五ヶ年以上 和田 伍郎 武智 百太郎 藤岡 藤治郎 宮倉 治郎 渡部 熊五郎

二、故人トナル村、功勞者

渡部 新五郎 和田 富太郎 坂本 和市 和田 宥詮 河原 八内 野村 亘

浅井 平三郎 山内 忠平

三、旧蹟

一、岩伽羅城

大字樋口北方岩伽羅山頂ニ在リ海拔千五百尺、河野ノ一族和田通俊ヨリ代々之ニ居ル其孫三河守通興武威ニ募リ河野家ニ叛リ天文二十三年九月荏原町棚居城主平岡大和守房實河野屋形ノ命ヲ受ケテ之ヲ攻ム通興敗走シ山之内村ニ至ツテ自殺ス其墓同村字御所ニ在リ後其一族和田山城守通勝ヲ嗣トシ城主タラシム其子右衛門尉通繁ニ至ツテ天正中湯月城ト同じニ亡ブ

河野譜代臣録ニ記載サレテ居ルモノ左ノ如シ

御侍大将十八将ノ内（河野御一門三十二将ノ内）

久米郡岩伽羅衣掛城主 和田山城守通勝 手勢十一騎御旗下組十三騎合二十四騎

御旗下組衆 渡部丹後守 大西奎之丞 日吉六郎右衛門 有岡右京進 堀池右馬太夫 木原源右衛門

中太郎治郎 和田兵庫介 中邑兵衛次郎 堀池九郎三郎 久保名不明 二人不明

一、衣掛城

大字樋口ノ北方岩伽羅ノ南方半腹ニ在リ和田氏ノ屬城ニシテ天正中御旗下組衆ノ日吉六郎右衛尉之ヲ守ル

一、吉山城 （由井城トモ云フ）

大字志津川ノ北方字城ヶヶ谷ニ在リ岩伽羅ノ屬城ナリ天文二十三年岩伽羅城主通興敗走自殺ノ後荏原町棚居城主平岡大和守一時領有シテ居タガ和田山城守通勝岩伽羅城主トナルニ及ビ再ビ和田氏ノ屬城トナル

一、烏瀧城

大字山之内藤之内ニ在リ文中、元中ノ頃渡部丹波守秀、同子渡部隼人介弘ノ居城デアツタ河野伊豫守通政ニ屬シ南朝ノ天皇ヲ守護シ奉リ元中六年四月十二日徳居威原ニ於テ細川頼威之ト合戦シ討死ス城山ニ烏瀧大権現ヲ祀ル神靈ハ河野伊豫守寛諱興世ト秀、弘父子ノ三公ナリ

一、麓城

一名重門城奥御所トモ云フ大字山之内字麓ニ在リ文中三年正月吉野ノ大主覺理法皇ヲ奉迎シ遷幸アリシ城デアル故ニ御所ノ城トモ云フ

一、十門

温故録ニハ此ノ城アルヲ示シ山内某之二居ルト記シテ居ルガ之ハ重門城ト同ジクシテ前記麓城ト同一ノモノ

一、山内御所

大字山之内字御所ニ在リ一二御所ノ城トモ云フ

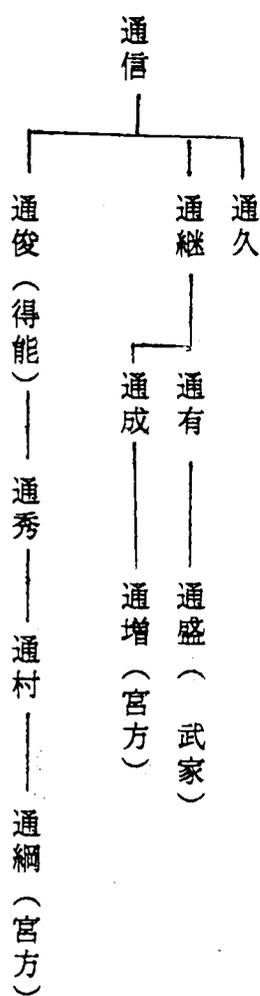
芳闕つ嵐史二日ク 足利尊氏ガ反逆ニヨリテ聖上ニハ山門ニ行幸シテ教諭ヲ悩マシ奉リ専ラ逆臣追討ノ聖旨ヲ廻

ラシタマエ共関ノ東西大方、足利尊氏二属シテ勳皇ノ士ハ僅カ指ヲ折ルニ過キザルナリ先ツ河内ニハ楠アリ四国ニハ河野土居得能、筑紫ニハ菊池阿蘇ノ弧壘アルモ皆敵ノ爲メニ隔ラントニ、ノゾミテ此処ニ皇軍ヲ督セシメ給ハン爲メニ満良親王ヲ征南將軍二任シ懷王親王ヲ征西將軍二任シテ延元、元年九月中旬四国九州へ御進發アリ(中略)伊豫ノ國浮穴郡ノ府中ニ御渡海アリ(中略)御兄宮ヲ別府ノ庄へ遷シ御弟ノ宮征西將軍ヲ徳川ノ御庄へ遷シ(中略)延元四年八月征南將軍満良親王ニハ土佐ノ國ヲ征シ給ハント御進發アリケレハ河野土居得能ノ一族御供シ二千餘騎ヲ引率シテ同年十二年丁亥ノ日、高土佐守師秋ガ楯籠ル大高坂ノ城ヲ攻落シ、タマヒ同五年正月潮江山ニ戦ヒ吉良佐竹ノ勢ヲ討破リ大二武威ヲ振フテ五基山ニ座シ給テ夜須津野本山吉良佐竹等降参シタルヨリ各本領ニ復サリシメテ豫州山之内ノ御所ニ座シタマフ(温古録ヨリ)

四、岩伽羅城ヲ中心トシタル本村ノ史話

一、小地區ノ郷土史ハ口碑傳説ヲ以テ主体トスルガ故ニ之ヲ正史ト照會スル場合ニハ年代ノ相違人物ノ前後スル等ノ事ガアツテ其正話ハ期シ難ヒ又若シ正史ニ依リテ訂正ヲ加エタリトセンカ社寺ノ縁起ヲ始め地方的神話信仰ヲ覆スコトトナリ得ル所少クシテ失フ事多キ結果ヲ来スガ故ニ此処ニハ口碑傳説ヲ土台トシ地方的正史ト連絡ヲ保持シテ説述ヲ心見ヤウト思フ岩伽羅城ノ築城ハ高繩城主河野通信ガ(皇曆一八四五)文治元年ニ築イタ事ニナツテ居ル本村ニ於ケル其他ノ城塞モ夫以後暫時築城サレタト見ルベキデアル此処テ暫ク河野家ノ事ヲ記サネバナラス

源頼居朝幕府ヲ鎌倉ニ開クヤ文治元年十一月奏請シテ諸国ニ守護ヲ置ク事トナツタ河野通信ハ此際壇ノ浦ニ於ケル伊豫水軍ノ勲功ニヨリ



河野通有ガ弘安ノ役ニ於テ大功ヲ立テタル事ハ有名ナ事デアアルカラ此処ニハ略スルガ其爲河野家ハ昔日ノ隆盛ナル家運ヲ取り戻シ北條氏ノ恩顧ヲ受ケタルガ爲メ子ノ杖盛ハ元弘ノ役、起ルヤ北條方ニ與シ京都ニ上ツタ。次デ足利尊氏、皇師ニ叛スルニ際シ之レニ與シ尊氏ヨリ本領安堵ノ教書ヲ得伊豫ニ歸リテ官方ノ與黨ノ討ニツトメタ。建武年中湯月城ヲ築ク。前表ニ記セシ如ク通俊ハ桑村郡得能郷ヲ領シテ得能氏ト稱シ通有ノ弟通成ハ久米郡石井郷土居ノ地ヲ分配サレテ土居氏ト稱ス。得能通綱、土居通増ガ後醍醐天皇ノ元弘ノ舉兵ニ際シ相共ニ勤皇ノ義兵ヲ擧ゲタルコトハ正史ニ有名ナル事デ元弘三年三月長門探題北條時直ノ軍ヲ屋ノ岡ニ擊破シ足利尊氏ノ叛スルニ及ンデハ多ク新田義貞ノ軍ト行動ヲ共ニシ遠ク北陸ノ野ニ轉戦シテ不幸陣殺シタガ而氏ノ遺族ハ永ク伊豫ニアツテ義軍ノ中堅ト成ツタノデアアル。故ニ後醍醐天皇吉野ニ南朝ヲ立テラルルヤ皇子尊直親王、満良親王、懷良親王ヲ四国ニ出サレ勤皇ノ武將ヲ募ラセラレタ

三親王ニハ瀬戸内海ノ水軍ノ將忽那義範ニ迎ハラレテ延元元年伊豫ニ下向アラセラレタ鳳關嵐史ノ傳フル所ニ依レバ、やがて忽那島ヨリ浮穴郡ノ府中ニ御來駕アリ尊真親王ハ拜志郷ノ別府ノ庄ヘ懷良親王ハ徳川ノ庄（津吉）ニ御遷座ニナツタガ懷良親王ニハ程ナク征西將軍トシテ九州ニ御渡海ニナリ肥後ノ菊池氏ト連絡ヲ取ラレ満良親王ニハ征南將軍トシテ土佐ニ御進發アリ大高阪氏ト相通セラレタ伊豫ニアツテハ土居得能ノ二氏ヨク官方トシテ南朝ノ羽翼タリ得タノデアアル（話ハ漸クココデ本村ニ戻ルコトニスル）延元五年土佐ノ満良親王ニハ目的貫徹遊バサレタノデ伊豫ニ歸ラレ山之内御所ニ座シ給フタノデアアル次デ文中二年得能家ノ嫡ナル河野伊豫家通定ト河野兵庫介通範ノ父子ハ吉野ヨリ覺理法皇ヲ守護シテ最初奈良原ノ宮ニ潛匿シ次デ山之内ノ御所ニ黒木ノ宮ヲ造リテ移シ奉ツタ此ノ御所ハ麓ノ奥御所ノ事デアアル

山之内ハ重信川ノ溪谷ニ在リ往古ヨリ道後道前ニ通スル唯一ノ交通路ニ當ツテ居タ、東北、間戸峠ヲ越セバ即チ桑村郡ニ至リ得能氏ノ所領デアアル關係上早くヨリ得能氏ニ服シ沿道ノ諸城ハ皆得能氏ノ有デアツタ、山内氏加藤氏等皆河野氏ノ（得能）旗本デ山之内ニ住シテ居タ。文中三年足利義満九州征伐ニ進發セル途路武田、小笠原ノ兵ヲ以テ伊豫ヲ討タシメタ、其時湯ノ山ノ北方ニ戦ヒ征南ノ宮（満良親王）得能通資、楠次郎左衛門尉正盛、太田三郎左衛門尉

入道延貞等二十八人戰死ス。又徳威原（播磨塚ヨリ北梅本北野田ノ平野）ニ激戦シ其際覺理法皇ニハ御負傷法水院ニ於テ崩御アリ浮島原ニ葬ル今ノ御陵松ハ之デアル當時ノ戦没者ノ英靈ハ聡東風神社ニ奉祭シテ居ル此処ニ記録ヲソハテ置ク

### 麓城

一名重門城奥御所トモ云フ 五十八將靈聡東風社ニアリ此城者文中三年正月吉野大王覺理法王ヲ迎エ奉ル、又河野伊豫守通政ノ息左馬頭通定守護奉戦没処靈ヲ祀ル

### 烏瀧城

山之内村ノ藤之内ハ加藤黨ニシテ麓衆也河野ノ旗下ニシテ同家末流渡部丹波同隼人等天文天正年間之ヲ守ル所ナリ河野殿番手替ノ士三人足輕三十人附之麓城共ニ令司ヲ請ル也此ノ邊ニ稻荷神社アリ云々 略 同村荒木谷聡河内神社有是即河野殿（岩伽羅）靈合祭ル奥社ナリ又前ノ御所奥ノ御所麓ト云フ処ニハ南朝ノ皇胤御潛ノ古跡也其臣下山内加藤等ノ子孫アリ 伊豫舊紀編

### 烏嶽城

在久米郡餘戸郷山之内邑文中元中ノ亂渡部丹波守秀居之属ニ河野伊豫守通政奉南帝守護元中六年四月十二日於徳威原與細川頼威之合戦討死秀ハ正四位河野伊豫守寛諱興世之末葉而隼人介弘父也城山祀烏瀧大権現之神靈興世、秀、弘、三孝也

岩伽羅城主ハ和田三河守通興ヨリ以前ハ不明デアアル通興六代ノ祖ニ隠岐守通村ト云ふのがある通村ノ出ハ今ノ所不詳デアアルガ勤皇方土居通増ノ弟ニ通世アリ其子ガ通村デアアル隠岐守通村ガ此ノ通村ト同人ナラ誠ニ都合ガヨイノデアアル時代カラ云ツテモ相當スル

湯月城主河野通能佛法ヲ信ジ龍雲山大興寺ノ悟隠禪師ニ就テ参學シテ居タ、通能上洛中病ヲ得テ死去ス弟通之ヲ呼ヨセ居ヨ國ヲ讓與セラレ將軍家モ安堵状ヲ賜フ此時悟隠禪師通之ヲ伴ヒ上洛シ通能ノ病床ニ至リタル時通能近臣ニ命シ一庫ヲ披キ累年吟遊ノ詩歌一卷ヲ出サシメ形見トシテ禪師ニ與エラル。禪師歸山ノ後之ヲ通村ニ授与シ通村ハ相傳

シテ以テ家寶トナストノ記事和田三河守通興家ノ傳ニアリ(温故録)

和田三河守通興ハ近年武威ヲ募リ湯月城ニ対シ蔑如シ次ニ兵權ヲアル平岡ノ老臣相原土佐守ガ大興寺ニ至リテ見ルニ八十歳ノ老僧ガ一人威儀悄然ト室中ニ結シ左右人モナイノデ相原問フテ日ク何誰カ僧答ヘテヒク當山ノ主ナリ相原日ク什物ヲ得ント欲スニ先キニ奪ヒ去ラレテアルカラ予ハ主翁ヲ得ント馬ニ老僧ヲ乗セ歩行シテ棚居城ニ歸ツタ平岡大和守ハ大ニ此僧ヲ尊崇シ連日供養シテ送り歸したと云フ一話ガアル湯月城ニアツテハ大ニ平岡ノ戦功ヲ賞シ通興ノ所領三分ノ一ヲ賜ヒ吉山城ヲ預ケラレタ後年通興ノ一族左衛門佐通勝浪々シテ民間ニ蟄居セルヲ召シ出サレ通興ノ遺跡ヲ相続セシメ岩伽羅ニ移住シ山城守ト称ス属城皆其有トナル此ノ戦荷於テ吉山城主和田河内守吉盛モまた戦死ス其子母荷懷カレテ石手寺荷逃レ後伊豫郡原町村大字麻生田中荷移リ住ミ潜荷平岡氏ヲ窺ヒ報復セントセシガ平岡氏ハ小早川隆景ノタメ滅亡セルヨリ其子字名ヲ取リテ田中氏ト改メ名ヲ九郎左衛門ト称シ名主トナル其子孫ハ浮穴村大字森松字廣瀬田中友太郎トナリト云フ其系図ヲ傳フ九郎左衛門ハ吉次ト云フ寛永十七辰年七月七日死ス歳八十三法名桂峯休山居士此ノ記事ハ年代荷相違ガアル。田中氏系図荷依ルト吉盛ノ戦死ヲ永録荷年トシテ居ルシ平岡氏ハ遠江守ノ代トナツテ居ルガ此ノ年ニ戦争ノアツタト云フ記録ハナイ又天文二十三年トスルト吉盛ノ子九郎左衛門ハ末ダ生レテ居ラナイ事ニナル兔二角此処ハ右ノ儘ニシテ置イテ後人ノ訂正ヲマツコトニスル

和田山城守通勝岩伽羅城主トナルニ及ビ河野家十八将ノ内ニ入レラレ武威ニ於テ大ニ重視サレテ居ル十八将ハ左記ノ通りデアル

湯月城主 河野伊豫守越智朝臣通直郷

御侍大将十八家

村上掃部頭武慶 村上備中守吉光 忽那式部少亮通著 得居半左エ門尉通久 大内伊賀守信泰

平岡遠江守通掎 南美作守通師 土居兵庫頭通建 松末美濃守通爲 久枝肥前守宣盛

桑原三郎堀衛 戒能備前盛通森 今岡民部大亮 中川常陸介通任 正岡左近太夫経政

黒川美濃守通博 櫛部肥後守兼久 和田山城守通勝 手勢十一騎御旗下組十騎合式拾一騎

久米郡岩伽羅城主

世八元龜、天正ノ戦国時代トナリ中央ニハ織田豊臣ノ武氏興起シ中国ノ毛利九州ノ大友土佐ノ長曾我部等ノ諸將互ニ隣国ヲ侵シ油断ノナラヌ時代トナツタ。永録八年九州ノ大友氏ノ侵入ヲ見ルヤ和田山城守ハ二百余騎ヲ率ヒ忽那氏巒山城ヲ後援シ元龜三年阿波ノ三好氏來侵ノ報至ルヤ諸將湯月城ニ參會シ策戰ヲ議ス山城守ハ味方無勢ノ故ヲ以テ防御戰ヲ主張シタガ入レラレズ兵ヲ進メテ西條鴨川ニ對陣シ苦戰ノ末三好軍ヲ破ル此ノ戰ニ於テハ山城守ノ子左衛門通繁モ出陣シテ居ル。天正三年三月安芸ノ毛利氏ハ織田信長ト對陣シ河野家ニ援兵ヲ求ム由テ御加勢トシテ中國ニ向フ山城守隨從シ萩港ニ上陸シ信長方デアル福山城ヲ攻メ大ニ之ヲ破リ河野家ハ武ヲ外ニ輝カシ兵ヲ収メテ歸國サレタ然シ河野家モ漸ク断末ノひガ來タ。即チ天正十三年豊臣秀吉ノ命ヲ受ケタ小早川隆景ハ讚岐ニ渡リ四國平定ノ手ヲツケ先ツ之ヲ平定シ道前ノ諸城ヲ陥入レ更ニ西ニ進ム和氣、温泉、久米、浮穴、伊豫、等ノ諸城皆寄手ノ大軍ニ當リ難キヲ察シ諸城皆城ヲ捨テテ湯月城ニ參集シ防御ノ陣ヲ固ム即チ平岡遠江守通倚、大内伊賀守信泰ハ二丸ヲ守リ戒能備前守通森、松末美濃守通爲、土居了庵ハ三丸ヲ守リ垣生加賀守、三好長門守ハ追手ヲ守リ和田山城守、佐伯河内守ハ搦手ヲ守リ枝松光榮、久枝肥前守ハ、良ノ曲輪ヲ堅メ守兵各力戰シテ隆景ノ軍ニ當ルコト七日雖雄末ダ決ゼラルノ所隆景書ヲ城中ニ送ツテ投降ヲ勸ム城中ノ氏族家人、衆口呶々一決ヲ得ザルノ時戒能備前守ハ勸告狀ニ從ヒ秀吉ノ幕下ニ降ツテ家業ノ綿貌ヲ期セラルベキナリト言上スル氏族老臣皆之ニ同ジタレバ城主モ今ハ仕方モナク兒童四五輩ヲ連レ隆景ノ陣營ニ至リ帰順ノ旨ヲ告ゲ且ツ秀吉ニ對して赦宥ノ恩命アラシコトヲ請フ隆景之ヲ諾シ伊豫一州全ク平治サレタ時二天正十三年九月デアル

天正十五年河野通直ハ安芸ノ竹原ニ移住スルコトトナリ譜代重恩ノ氏族郎党僅カニ五十餘人ニ守ラレ七月九日湯月城ヲ殆シ三津濱ヨリ乗船ソレタ之ニテ河野家ハ伊豫ヲ離レタノデアツタ和田山城守モ亦隨從ノ一人シナツテ居ル 其後河野家ニアツテハ秀吉ニ訴願シ河野家再興ヲ願出タケレド聽許ガナカツタ由テ累世恩顧ノ諸將ハ道前、道後各所ノ寺院ニ蜜會評議シテ秀吉ヲ狙撃セントシ秀吉ノ竹原ニ來ルヲ聞キ各郡ノ選拔武士三百人ヲ藝州沼田本郷工送ル和田通勝ノ子左エ門尉通繁モ其中ニアリ秀吉ヲ竹原ノ雲龍閣ニ攻メタガ衆寡敵セズ或ハ自殺シテ一人モ生還者ナカツタ。通

直ノ嗣河野通軌ノ子通昭等ヲ始メ和田通繁等九人ハ首謀者トシテ死屍ニツイテ其首ヲ利ネ沼田本庄ニ於テ晒首サレタ  
通繁ハ正二武士ノ面目ヲ示シタリト云フベキデアル當時大逆ノ罪ヲ犯シタル者ハ其妻子ハ死刑ニ處セラレ其父母兄弟  
ハ流罪ニ處スルノ定律デアツタガタメ河野一族ハ勿論關係將士ノ家族ハ所々々ニ離散隱遁シテ居タ通繁ノ男太郎通勝  
ハ紀州高野山上藏院ニ潛伏シテ居タガ慶長三年十一月九ね郡吉井郷東土居ニ歸住シ吉井太郎左衛門ト称ス以上ヲ以テ  
本村ノ史話ヲ終ル 手元ニ史料乏シキ爲メ唯伊豫史精義ヤ温故録ヲ参考ニシタマデアル期ヲ見テ更ニ稿ヲ改メルコ  
トニスル。

## 五、拾遺

### 一、三義人ノ墓

志津川慈光寺境内ニアル墓石一基

正徳四年十二月四日享年三十歳

心月盛光居士 九良右門

以心淨觀居士 左次右門

剛刀空利居士 淺右門

右ハ正徳四年旱魃ノ災厄ニ會ヒ志津川追手いけ水ニ對シ下關係村落ト水論ノ勃発ヲ見タルガ志津川村トシテハ地元  
トシテ養水死守ノ法策ニ出テ鎮撫ノタメ出張シタル代官ヲ相手ニ反抗シ代官ヲ馬ヨリ引キ下シ之ニ乱暴ヲ働キタル事  
件ガ起キタ代官ハ大二怒リ志津川庄屋ヲ招致シテ責任者ノ提出ヲ申渡シタ由テ總會ヲ招集シ其善後策ヲ計ル其時右三  
名村ノ犠牲トシテ名乗り出ル事ニ成リ裁判ノ結果死刑ヲ宣告セラレ十二月四日刑場ノ露ト消エ從來志津川いけハ郡池  
ノタメ關係下武落ト分水ノ規定アリタレド将来志津川一村ノ使用免許ヲ得タルモノデ村民右三氏ノ徳ヲ多トシ今日ニ  
至ルモ其靈ヲ祀ルモノデアル

### 二、七社権現

大字西岡演習地内ニアリタレド今ハ東ニ移動セリ年代不詳ナルガ殿様御鷹狩ヲ催サレシ時、三木新太郎ナルモノ鷹  
ヲ捕ヘテ一家之ヲ食ス其子供近隣ノ家ニ水ヲ求メテ飲ミ家人ノ問ニ答ヘテ父ノ鳥ヲ取り来リタル事ヲ話ス三木父子七  
人詮義嚴シキヲ恐レ山之内鳥ヶ嶽ニ潛伏シ居リタルガ里人ノ訴ヘニヨリツイニ捕ヘラレ大字西岡字上原ニテ斬罪ノ刑  
ニ處セラル爾來山之内ノ人此ノ地ヲ過ル時色々ノ災害ヲ受クルニ依リ七魂ノ恨ミアル事ヲ知り魂ノ希望ノママ之ヲ七

社権現トシテ祀ルト云フ小池今ニアリ旱天ト雖モ清水ノ盡クルコトナシト云フ 岡八幡神社境内ニ三木靈社アリ三木  
新太郎一家ヲ祀ルトモ傳フ

一、大字樋口字片山 大杉

根本ノ周田約八間 高さ三十間 年代不詳

樹根ノ上ニ荒神堂アリ昭和九年ノ大旱魃ノ年ヨリ暫時枯死ス

二、大字樋口片山圓通寺の大柏

根本五間 年代不詳、地方ニ於ケル名木タルヲ失ハズ

三、大字山之内字黒瀧 大杉 大檜

龍神社ノ社前ニアリ大杉根本十七尺三寸、十三尺、八尺

大檜十尺、九尺五寸 外七、八尺位ノモノ多数アリ

五色ノ神木 同所ニアリ檜ノ木ニ其他ノ木ガ寄生セルモノニテ往昔ハ七色デアツタト云フ

四、手引松

横河原ノ堤防国道ヨリ南約一町ノ所ニアリ松ノ大木二本ガ中間ニ於テ横得だニテ連結サル樹下ニ小社アリ何ノ神ヲ  
祀ルカ由来ヲ知ラズ

五、二本松

横河原驛ノ側ニアリ古来有名ニシテ横川ヲ一名二本松ト呼ビシハ此ノ松ニヨツテ称エラレタル者ナランカ往昔横川  
堤防ノ遺跡ト思ハル。小社アリ

三、名所

一、烏ヶ嶽

秋ノ紅葉ノ頃ヲ最佳トス近年堤防工事が出来テ以来遊地平坦ニシテ廣クナリ山形甚ダヨシ此ノ地、僻ナル爲メ世間

二知ラレス

二、福見寺

眺望絶佳 観音ノ縁日ニハ参客多ク宿坊亦完備シテ一泊ノ清遊ニヨシ

三、除堰堤

最近ノ工事ナルモ櫻樹多数植エラレタレバ春ノ花見、夏ノ出水時ノ眺メ将来ニ於テノ情趣モ思ハルル

四、三角点ノ位置

三角点トハ陸軍、陸地測量部ガ地図作製ノタメ設ケタル土地ノ標高示点デアツテ重要ナルモノデア  
アル本村ニ於ケル位置ハ左記ノ通デアル

陸地測量部

三角点建標位置

一、山之内字甚内地 俗称、明神ヶ森乙千七十五番

温泉郡湯山村ノ内福見川ヨリ福見山観音堂参詣道ヲ経テ福見山ニ登リ夫ヨリ字甚内地ニ通スル小径ヲ行ク事凡ソ二

十丁

一、添谷 俗称松ガトウ岩住 乙一、一三九番

神子野ヨリ福見山観音堂参詣道ヲ登ル事二十三丁ニシテ達ス該道路ノ南側ニアリ

一、二子藪 俗称 トチサゴ大采 乙六九九番

大野ヨリ山稜ニ沿フタル小道ヲ登ル事約十八丁ニシテ達ス

一、西河原樋 俗称 タガ子 乙一、二六七番

荒木谷ヨリ東ニ向ヒ牛馬ノ通スル山道ヲ登ル事約一里ニシテ達ス

一、樋口字戸屋ヶ谷 俗称 黒土ヶ垣 四六六番ノ二

志津川ノ来た方山路十丁余ニシテ達ス

一、志津川字前川 俗称 新池

川上村ヨリ松山市二通スル道路ノ左方池ノ堤防植えニアリ

一、西岡字山王 俗称 下原 四七番

南方畑中小道ヲ行ク事三丁余 小松原中ニアリ

一、山之内字ニブ川 俗称 赤子谷山 八二一番

中川村関屋ヨリ俗称ゴータル谷ヲ経テ登ル事約二里

以上建設明治三十二年九月二十五日

明治三十六年六月十四日撤去

但シ標石ハ明治二十三年法律第二十三号及二十八年陸軍省令第十七号第六條ニ依リ永遠保存スベキ者ニ有之候

### 五、村行事

正月中年始祈祷 各部落毎

旧三月十五日 春祭り

五月五日 横河原水天宮縁日

七月中 虫祈祷 各部落毎

旧七月九日 福見観音四万六千日縁日

旧七月十四、五日 宇羅盆會 志津川和田様縁日

七月二十一日 樋口大蓮寺施餓鬼會

十月五日 横河原水天宮縁日

十月十四、五日 秋季祭り

十月二十三日 山之内字藤之内以東秋季祭り

## 結 論

統計ヲ主トスルモノハ役場吏員ノ夫々担当部ヨリ材料ヲ提出シテ、モラツタノデアル其他ハ材料集娶ニ非常ナ苦心ヲ払ツタノデアツタガ出来上リヲ見ルト未ダ意ニ滿又箇所ガ澤山発見サレルノデアルガ完成ヲ急グタメ其儘ニシテ置イタ書中ノ各項目ハ萬全ヲ期スル意氣込ミテ最大漏サ又覺悟デアツタガ材料ガ欠怒シタリ不備デアツタリシタガ爲メ是ノ如キ次第トナツタノデアル是非共将来訂正増補ノ筆ヲ加ヘネバナラヌ事ト信ズル

要スルニ一讀シテ自治制實施五十ヶ年ノ跡ヲ見ルト非常ナル發展経路ガ各所方面ニ亘ツテ見受ケラレルノデアル尚一見シテ村ノ現有情勢ヲ窺ヒ知ラレルシ過去先輩ノ足跡ヲ辿ツテ将来本村ノ進ムベキ進路モ豫知セラレル此ノ点村誌編纂ノ目的モ存在スルノデアルカラ此処ニ感 筆スルニ當リ温故知新ノ言葉ヲ書キ残シテ置ク 了

昭和十三年六月二十日編纂